

(株)東京航業研究所、(有)文化財 COM

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。特に、大井氏館跡遺跡第14地点の調査にあたっては富士見市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。また、江川南遺跡第19地点の調査にあたっては上福岡市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、内田潔、大曾根キク子、笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、河野匠、河野格、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木勝弘、関田成美、高貝しず子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、村端和樹、若尾久美子、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、川上文明、佐々木真理子、島田仁、清水七枝、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、戸田美根子、富田茂夫、中川和弘、成田淑美、成田良一、羽田美代子、吉田信江

(上福岡市教育委員会) 長田弘毅、壺岐ヒサ子、井川弘、宇佐美弘澄、遠藤忠志、小田静夫、小野沢保孝、菊口繁子、西城満期子、鈴木ちい、滝沢久嘉、富寺佐代子、中村正、宮崎達夫、吉田寛

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1 : 300 遺構平面図・遺物出土状況図 1 : 60、1 : 30 炉などの詳細図 1 : 30
土器実測図 1 : 4 土器拓影図 1 : 3 石器実測図 1 : 3、2 : 3 銭 1 : 1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート▲ 礫○

(4) 土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第4表 2004年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・地点名	申請地	面積(㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
1	鶴ヶ岡外遺跡第2地点	鶴ヶ岡5-196,197の一部	5,000	老人介護施設	2004.12.20~2005.2.2	2005.3.14~	試掘後、調査会で本調査
2	鶴ヶ岡遺跡第3地点	鶴ヶ岡3丁目	2,059	個人住宅	2005.1.7		試掘調査
3	江川東遺跡第8地点	東久保1丁目150他	6,137	共同住宅	2004.3.25~4.8		試掘調査
4	江川東遺跡第9地点	東久保1-6-19	464	保育園	2004.4.9~4.19	2004.5.10~5.25	試掘調査
5	東久保遺跡第58地点	ふじみ野2-27-2	558	分譲住宅	2004.4.13~4.14		試掘調査
6	東久保遺跡第59地点	ふじみ野2-25-7、8、9	1,804	店舗	2004.6.29	2004.7.14~7.23	試掘後、調査会で本調査
7	東久保遺跡第60地点	ふじみ野2-26-16	337	個人住宅	2004.7.22~7.24		試掘調査
8	東久保遺跡第62地点	ふじみ野2-25-16	220	個人住宅	2004.10.12~10.15		試掘調査
9	亀久保堀跡遺跡第30地点	ふじみ野2-25-1	659	店舗	2005.1.11~1.12	2005.1.31~2.7	試掘後、調査会で本調査
10	東久保南遺跡第33地点	ふじみ野4-9-2	354	店舗	2004.7.8~7.9		試掘調査
11	東久保南遺跡第34地点	ふじみ野4-9-2	555	店舗付共同住宅	2004.7.8~7.12		試掘調査
12	東久保南遺跡第35地点	ふじみ野1-5-8	194	個人住宅	2005.1.17		試掘調査
13	東久保南遺跡第36地点	ふじみ野4-8-7	1,005	事務所	2005.1.21~1.27	2005.2.7~2.15	試掘後、調査会で本調査
14	東久保南遺跡第37地点	ふじみ野4-10-1	695	駐車場	2005.2.10~2.14		試掘調査
15	西ノ原遺跡第127地点	旭1-13-4	222	個人住宅	2004.5.24~5.25		試掘調査
16	西ノ原遺跡第127地点	旭1-13-19	105	個人住宅	2004.5.24~5.25		試掘調査
17	西ノ原遺跡第128地点	旭1-16-9、10	614	店舗	2004.6.14~7.15	2004.7.16~9.29	試掘調査
18	西ノ原遺跡第129地点	旭1-11-5	235	共同住宅	2004.9.30~10.7		試掘調査
19	西ノ原遺跡第130地点	旭1-5-8	116	個人住宅	2004.10.14~10.15		試掘調査
20	西ノ原遺跡第131地点	旭1-5-13	97	店舗付個人住宅	2004.10.22		試掘調査
21	中沢前遺跡第25地点	苗間1-10-8	809	共同住宅	2004.6.4~6.10		試掘調査
22	神明後遺跡第23地点	苗間253	62	個人住宅	2004.4.9		試掘調査
23	神明後遺跡第24地点	苗間神明後293-4,10	148	個人住宅	2004.9.30~10.7		試掘調査
24	神明後遺跡第25地点	苗間295-1	660	店舗付個人住宅	2004.9.30~10.7		試掘調査
25	浄禅寺遺跡第24地点	苗間字神明後346-1、2の一部	391	個人住宅	2004.8.30~8.31		試掘調査
26	浄禅寺遺跡第25地点	苗間339-1,2	721	共同住宅	2004.9.22~10.12		試掘調査
27	浄禅寺遺跡第26地点	苗間字神明後354の2の一部	216	分譲住宅	2005.3.3~3.8		試掘調査
28	苗間東久保遺跡第23地点	苗間字東久保640-9	104	個人住宅	2004.9.1		試掘調査
29	小田久保遺跡第6地点	大井小田久保1207-5	306	個人住宅		2004.10.26~11.13	教育委員会で本調査
30	大井宿遺跡第8地点	大井1-6-7	282	個人住宅	2004.4.20		試掘調査
31	大井宿遺跡第10地点	大井1-3-16	341	分譲住宅	2004.9.21~10.6		試掘調査
32	大井宿遺跡第11地点	大井1丁目5番5,11	970	共同住宅	2004.12.10~12.20	2005.1.6~1.29	試掘後、調査会で本調査
33	本村遺跡第112地点	市沢1-17-16	289	共同住宅	2004.7.27		試掘調査
34	大井戸上遺跡第4地点	大井字東台689-3	128	個人住宅	2004.5.27		試掘調査
35	西台遺跡第5地点	大井字西台911-51	139	個人住宅	2004.6.17		試掘調査
36	東台遺跡第41地点	大井字東台648-4	182	個人住宅	2004.5.11~5.14		試掘調査
37	東台遺跡第42地点	大井640-4	515	教会増築	2004.9.7~9.17		試掘調査
38	東台遺跡第43地点	大井東台661-6	964	駐車場	2005.1.13		試掘調査
面積合計			28,657				

XIII 西ノ原遺跡の調査

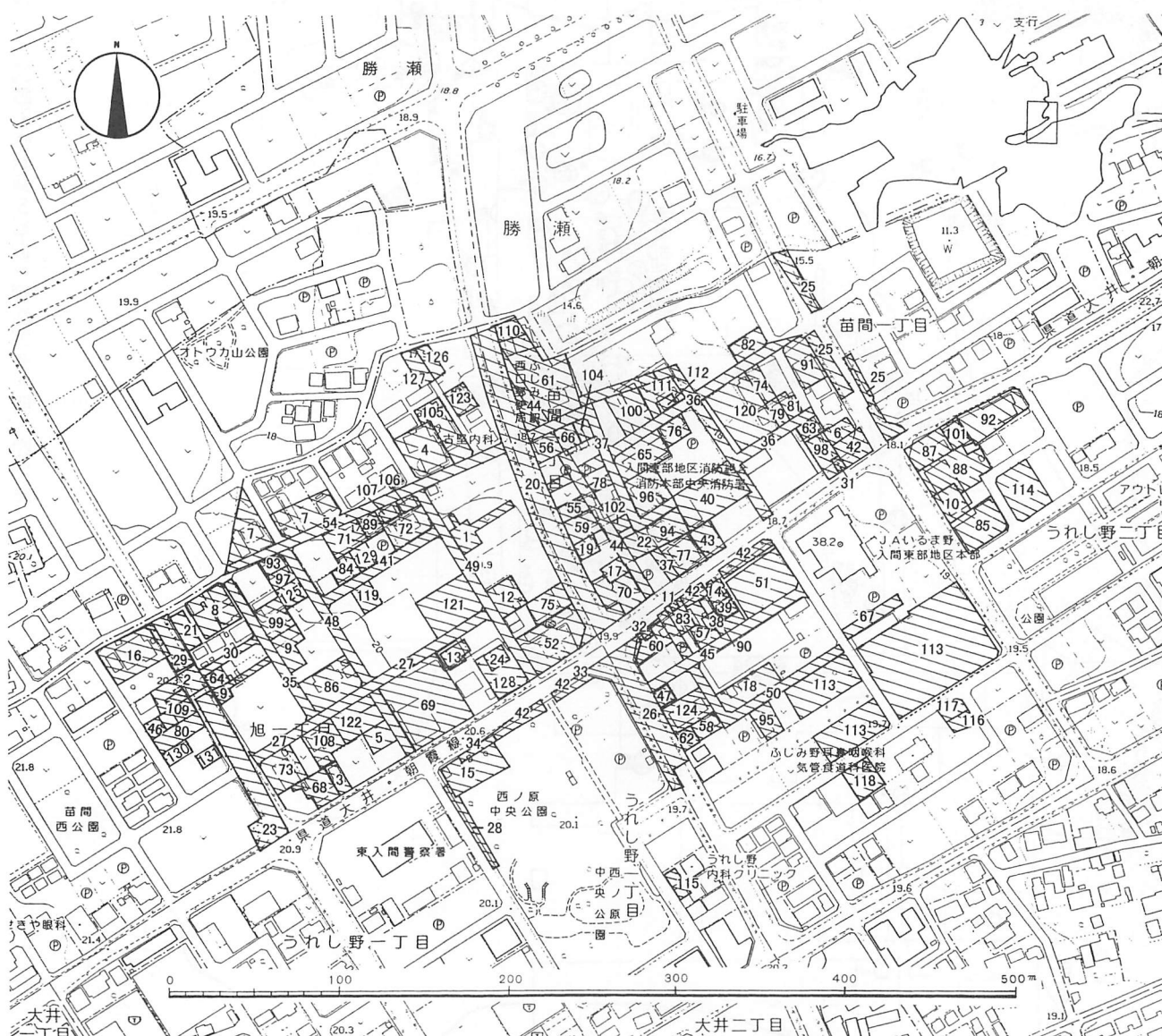
1 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

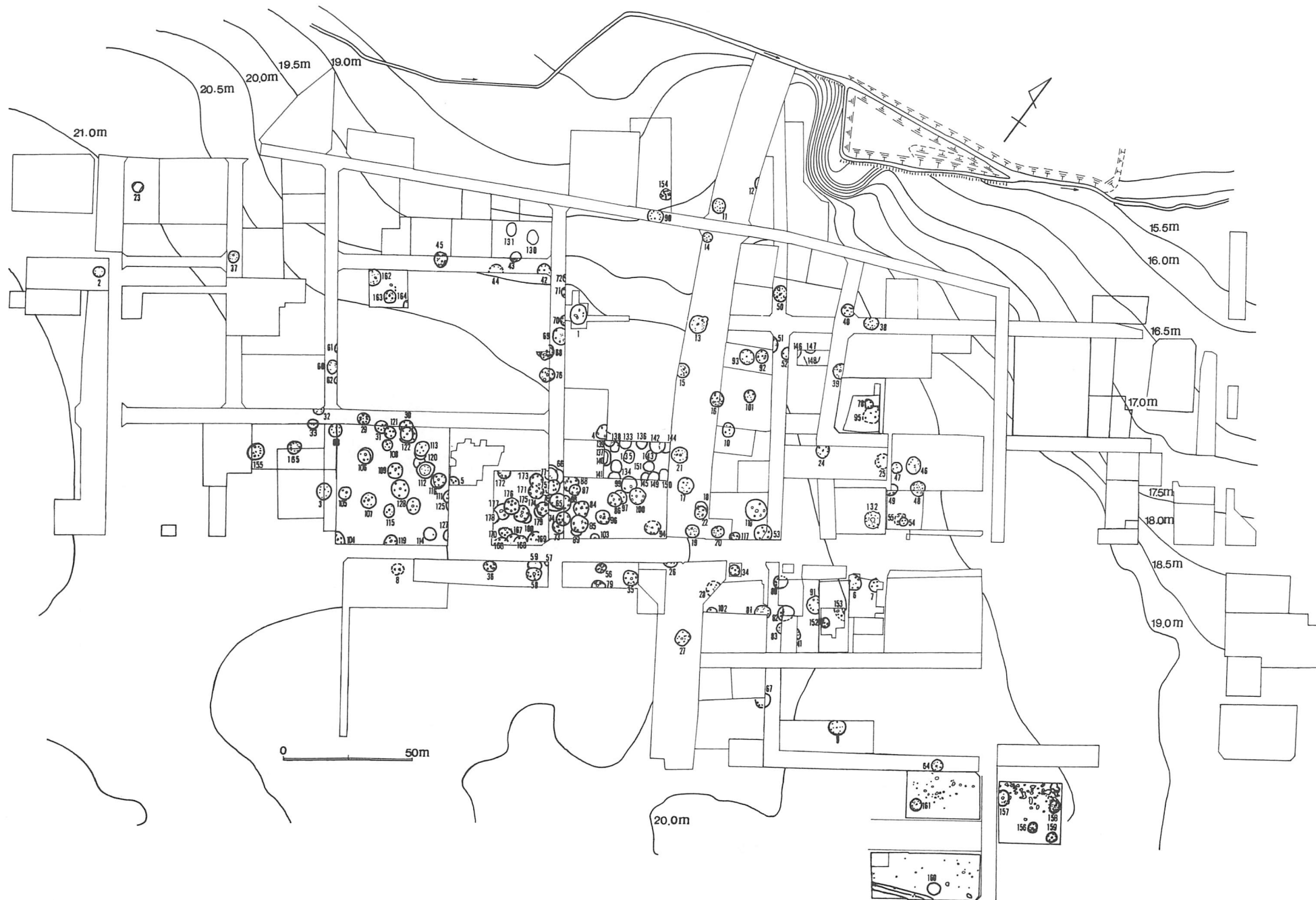
周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2005年3月現在で131地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、確認された遺構と遺物から旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180軒を超す住居跡が環状集落として形成され、町内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



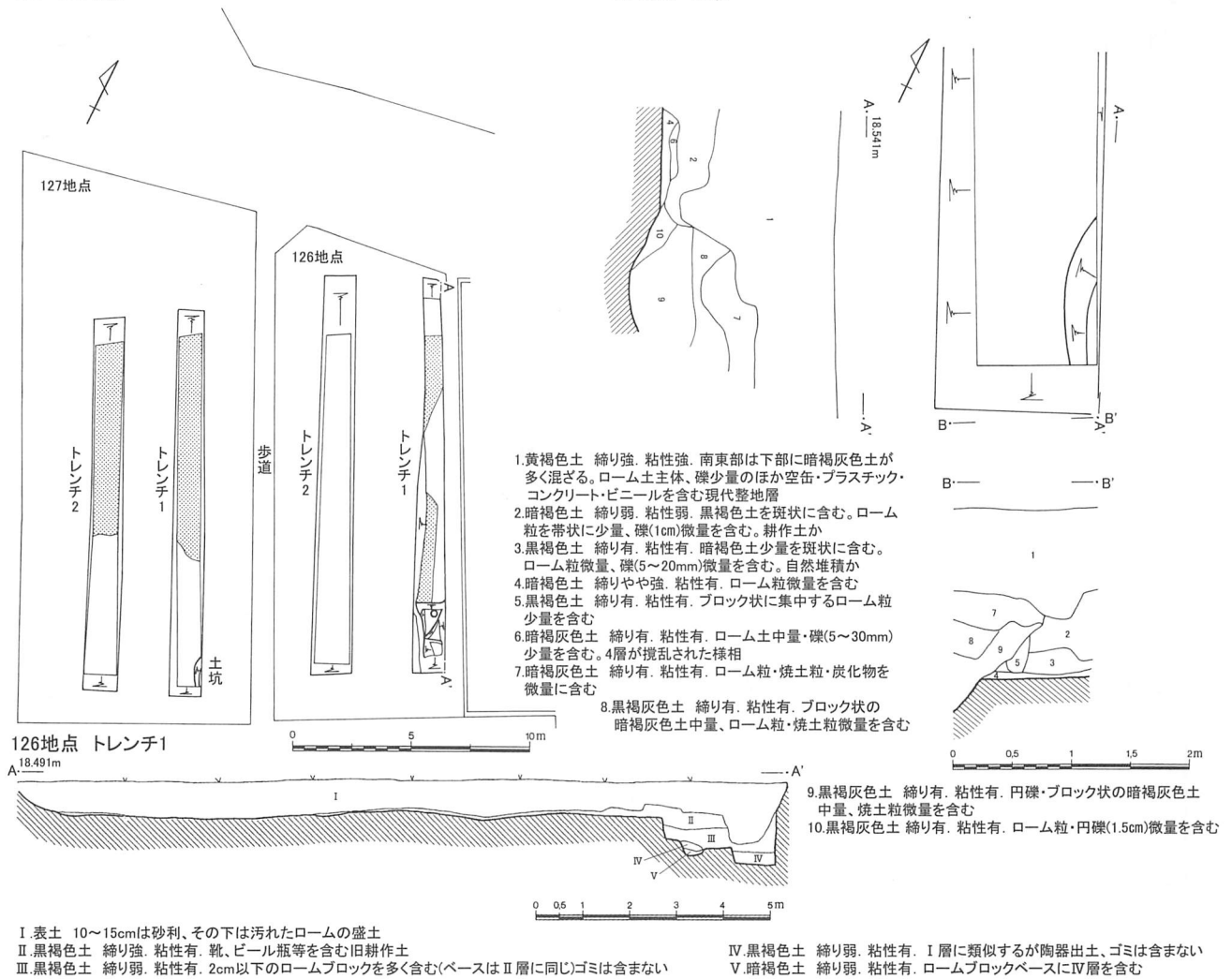
第40図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



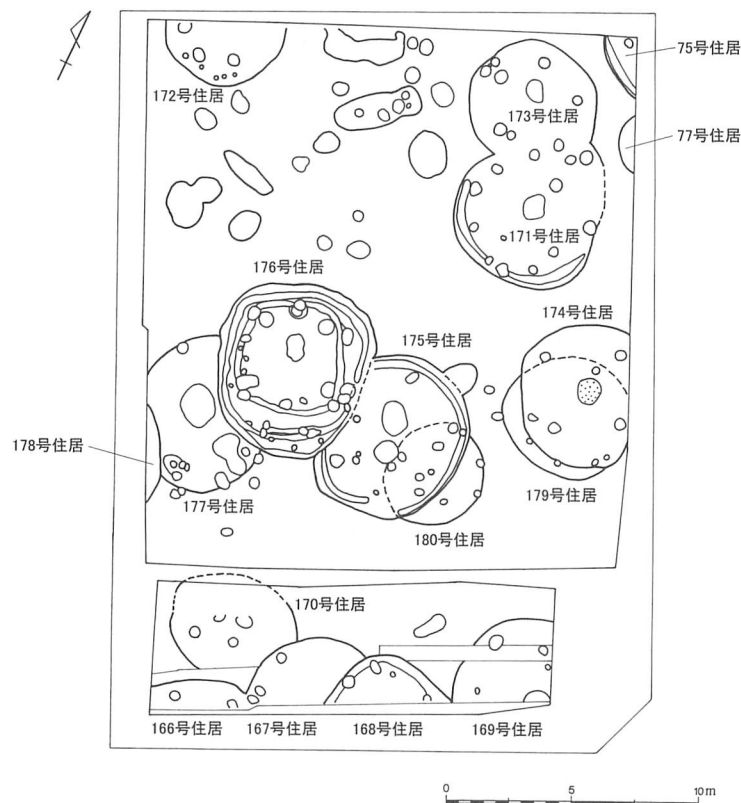
第41図 西ノ原遺跡縄文時代中期住居配置図（1/2,000）

126・127地点

127地点 土坑



128地点



8 西ノ原遺跡第128地点

(1) 調査の概要

調査は店舗の建設に伴うもので、原因者より2004年6月7日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置し隣接地では縄文時代住居を数多く検出しているため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2004年6月14日から同年7月15日まで行なった。幅約2mのトレンチを6本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、縄文時代の住居跡多数を検出した。原因者と再協議の結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2004年7月16日から同年9月29日まで、大井町遺跡調査会が行ない、縄文時代中期住居跡16軒、土坑・ピットを検出した。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定)

9 西ノ原遺跡第129地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2004年9月13日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置し、隣接地からは縄文時代の住居も検出しているため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2004年9月30日から同年10月7日まで行なった。幅約2mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果住居跡1軒を確認した。確認面まで60cmを測る。住居跡を調査し写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない調査を終了した。

(2) 遺構

①45号住居跡

【位置】調査区の南端に位置する。西ノ原遺跡縄文集落内では環状部分の北端にあたる。隣接する部分を1989年に第41地点として調査し、住居跡南側3/4を検出している。〔西ノ原遺跡〕大井町遺跡調査会1996

参照)

【形状】平面形態は楕円形を呈し、規模は5.6×5.3m。確認面からの深さは30cm。壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

【ピット】

第24表 西ノ原遺跡45号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考
1	円形	48	× 41	33	× 32	52	
2	不明	42	× (26)	14	× 13	23	

10 西ノ原遺跡第130地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2004年9月27日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西端に位置しているため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2004年10月14日から翌15日まで行なった。幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構らしき覆土を確認したが自然の窪みであった。確認面まで40cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない調査を終了した。

11 西ノ原遺跡第131地点

(1) 調査の概要

調査は店舗付き個人住宅建設に伴うもので、原因者より2004年10月19日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西端に位置しているため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2004年10月22日に行なった。幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが、遺構・遺物は確認されなかった。確認面まで45cmを測る。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない調査を終了した。



西ノ原遺跡第125地点試掘調査



西ノ原遺跡第126地点試掘調査



西ノ原遺跡第127地点土坑



西ノ原遺跡第128地点試掘調査



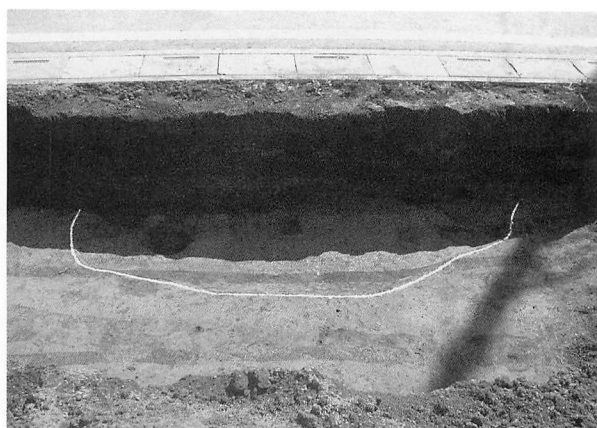
西ノ原遺跡第128地点調査区南側



西ノ原遺跡第128地点調査区北側



西ノ原遺跡第129地点試掘調査



西ノ原遺跡第129地点45号住居跡



西ノ原遺跡175・176・177・178・180号住居跡



西ノ原遺跡176号住居跡



西ノ原遺跡176号住居跡 出土土器

監 事	佐藤啓子	(大井町文化財保護審議委員、ふじみ野市文化財保護審議会委員)	2002年7月1日～2004年3月30日
	比嘉洋子	(ふじみ野市文化財保護審議会委員)	2005年10月1日～2009年3月31日
	飯塚泰子	(ふじみ野市臨時的任用職員)	2003年4月1日～2009年3月31日
	雪平正雄	(大井町会計課長)	2003年4月1日～2004年6月30日
	馬場建次	(大井町会計課長)	2005年4月1日～2005年9月30日
	近藤 朗	(ふじみ野市出納室主幹)	2005年10月1日～2007年3月31日
	坂田秀樹	(ふじみ野市副参事兼会計管理者)	2007年4月1日～2009年3月31日
	塩野賀一	(大井町文化財保護審議委員)	2003年4月1日～2004年3月30日
事務局			
事務局長	金子忠弘	(大井町生涯学習課長、ふじみ野市生涯学習課長)	2000年4月1日～2005年12月31日
	原田 昇	(ふじみ野市生涯学習課副参事兼課長)	2006年1月1日～2008年3月31日
事務局次長	田中節子	(ふじみ野市生涯学習部次長兼生涯学習課長)	2008年4月1日～2009年3月31日
	上田範文	(大井町生涯学習課文化財保護係長)	2004年4月1日～2005年3月31日
	島田喜吉	(大井町生涯学習課文化財保護係長)	2005年4月1日～2005年9月30日
	坪田幹男	(ふじみ野市生涯学習課文化財保護係長)	2007年4月1日～2009年3月31日
事務局員	高崎直成	(ふじみ野市生涯学習課文化財保護係)	1989年4月1日～2009年3月31日
	鍋島直久	(ふじみ野市生涯学習課文化財保護係)	1991年4月1日～2009年3月31日
	神木よし美	(大井町生涯学習課文化財保護係)	2003年4月1日～2005年3月31日
	高橋京子	(2005(平成17)年10月1日よりふじみ野市教育委員会臨時任用職員)	1999年5月13日～2009年3月31日

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1)縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3 銭 1:1

(2)遺構断面図の水糸高は海拔高（m）を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じである。

(3)遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山（ローム）  焼土 
土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○

(4)遺構図内の▼マークは図の連続、接合部を表わす。



(5)土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(6)土器断面図は、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わす。

2. 遺構名・遺構番号は、発掘調査段階では地点ごとに付し、本報告書作製段階で精査検討した結果、新名称と番号を付したものについては新旧の名称・番号を明記した。ただし住居跡名は発掘調査段階から遺跡内の通し番号を付した。

3. 表の中の（ ）付は、残存値又は推定値を表わす。

4. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

第6章 西ノ原遺跡の調査

1 遺跡の概要

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水が西流し、入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡さらに神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市オ

トウカ山遺跡があり、その下流には縄文時代中期後半の集落である中沢遺跡が広がる。本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、民間開発が急増し遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haのうち約40%が調査されている。

1971年以来2008年3月現在で、141地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。

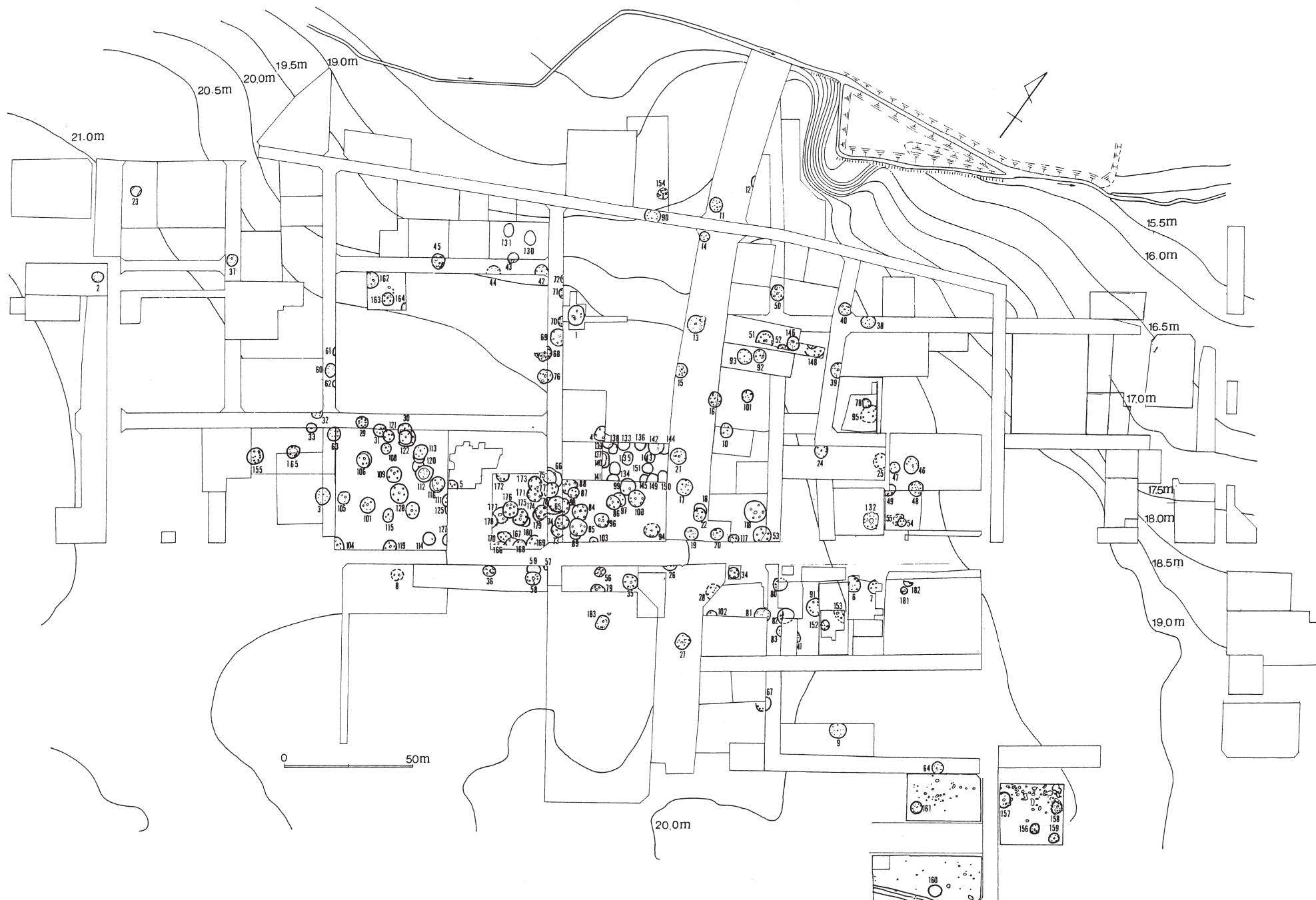
特に縄文時代中期には、180軒を超す住居跡が環状集落として形成され、武蔵野台地縁辺部において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第29図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第22表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	調査年度	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書	地点	調査年度	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1971			住居跡1、土坑3、集石土坑1	大井町史資料編I	70	1994	551	店舗建設	屋外埋蔵4、土坑14	調査会報告6集
2	1978	270	宅地造成	住居跡1、溝2、旧石器、縄文時代土器	1979.大井町教育委員会「西ノ原遺跡」	71	1994	309	個人住宅	落し穴1	
3	1979		宅地造成	土器片のみ出土		72	1994	321	個人住宅	縄文中期住居3、土坑2、溝2	町内遺跡群IV
4	1979	668	宅地造成	遺構なし、縄文中期土器	東部遺跡群I	73	1994	274	個人住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群IV
5	1979		町史編纂事業	住居1、土坑1、早期竈穴2、縄文中期土器	大井町史料7集	74	1994	169	事務所建設	ビット6	町内遺跡群V
6	1980	450	宅地造成	土坑2、柱穴2、堀之内Ⅱ式土器他	東部遺跡群Ⅱ	75	1995	379	事務所建設	縄文中期住居17、集石土坑1、土坑4、集石2、ビット9、溝1	調査会報告13集
7	1980	563	宅地造成	旧石器礫群2、縄文土坑1	東部遺跡群Ⅱ	76	1995	468	倉庫建設	ビット1、溝1	町内遺跡群V
8	1980	661	宅地造成	縄文集石土坑2、土坑1、溝2、縄文中期土器	東部遺跡群Ⅱ	77	1995	347	店舗建設	縄文中期住居1、土坑18、溝4、ビット58	調査会報告13集
9	1981	600	宅地造成	柱穴6、溝2、石器、土器	東部遺跡群Ⅲ	78	1995	45	貯水槽建設	縄文中期住居3	町内遺跡群V
10	1981	400	個人住宅	柱穴11	東部遺跡群Ⅲ	79	1995	135	個人住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群V
11	1983	198	宅地造成	縄文土坑1、縄文中期土器	東部遺跡群V	80	1995	319	駐車場造成	遺構、遺物無し	町内遺跡群V
12	1983	330		縄文中期住居2、縄文土坑39	東部遺跡群V	81	1995	223	店舗付住宅建設	溝1、遺物無し	町内遺跡群V
13	1983	350		縄文中期住居1、縄文土坑56、集石1、溝1	東部遺跡群V	82	1995	249	事務所建設	遺構、遺物無し	町内遺跡群V
14	1983	240		縄文中期住居2、縄文土坑3、集石1、溝1	東部遺跡群V	83	1995	190	個人住宅	縄文中期住居2、集石土坑2、土坑2、ビット22	町内遺跡群V
15			共同住宅	縄文土坑2、ビット6		84	1995	135	個人住宅	土坑1、ビット5	町内遺跡群V
17	1985	165	宅地造成	縄文土坑2、溝1	東部遺跡群VI	85	1996	654	パチンコ店建設	遺構、遺物無し	町内遺跡群V
18	1985	569	宅地造成	縄文中期住居1、縄文土坑1、ビット群	東部遺跡群VI	86	1996	698	個人住宅	土坑6、ビット26、溝2	町内遺跡群VI
19	1986	230	住宅建設	縄文中期住居1、縄文土坑1、屋外埋蔵2	東部遺跡群VII	87	1996	344	学習塾	遺構、遺物無し	町内遺跡群VI
20	1986、1987	3,553	区画道路	縄文早期竈穴4、中期住居12、竪穴状遺構、屋外埋蔵2、落し穴5、土坑40	調査会報告6集	88	1996	745	共同住宅	土坑3、ビット29、柵列1、落し穴1、銭	調査会報告13集
21	1986、1987	447	住宅建設	竪穴状遺構1	東部遺跡群VII	89	1996	143	個人住宅	溝、土器片のみ	町内遺跡群VI
22	1987	480	資材置場	縄文中期住居2、縄文土坑11、ビット2	東部遺跡群VIII	90	1996	177	個人住宅	縄文中期住居2、竈穴2、土坑1、ビット9	町内遺跡群VI
23	1987	1,024	区画道路	土坑2	調査会報告6集	91	1996	477	店舗	遺構、遺物無し	町内遺跡群VI
24	1987			縄文中期住居2軒確認、未検出		92	1996	684	店共用住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群VI
25	1988	781	区画道路	遺構なし	調査会報告6集	93	1996	141	分譲住宅	遺構無し、土器片のみ	町内遺跡群VI
26	1988	1,649	区画道路	旧石器礫群、縄文中期住居3、土坑9、ビット、屋外埋蔵1	調査会報告6集	94	1996	165	個人住宅	遺構無し、土器片のみ	町内遺跡群VI
27	1988	942	区画道路	縄文中期住居5、縄文土坑2、竈穴1、集石土坑1	調査会報告6集	95	1996	283	商業ビル	竈穴1	町内遺跡群VI
28	1988		区画道路	遺構なし	調査会報告6集	96	1996、1997	333	個人住宅	縄文中期住居2、竈穴2、土坑1、ビット3	町内遺跡群VI
29	1988		区画道路		調査会報告6集	97	1996	141	分譲住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群VI
30	1989		区画道路	土坑1	調査会報告6集	98	1997	206	個人住宅	盛土保存	町内遺跡群VI
31	1989	21	下水管理設	遺構なし	東部遺跡群IX	99	1997	396	個人住宅	土坑1、落し穴1、ビット12、溝1	町内遺跡群VI
32	1989	21	区画道路	縄文中期住居1、屋外埋蔵3	東部遺跡群IX	100	1997	447	共同住宅	土坑2、ビット3	町内遺跡群VII
33	1989	21	区画道路	縄文中期住居1	東部遺跡群IX	101	1997	187	モデルハウス	遺構、遺物無し	町内遺跡群VII
34	1989	21	区画道路	縄文中期住居1	東部遺跡群IX	102	1997	179	個人住宅	ビット2、溝2	町内遺跡群VII
35	1989	4,000	区画道路	縄文中期住居1、土坑1	調査会報告6集	104	1997	223	個人住宅	焼土、溝2	町内遺跡群VII
36	1989		区画道路	縄文中期住居4、縄文土坑5、落し穴2、井戸1	調査会報告6集	105	1998	565	共同住宅	縄文中期住居1、竈穴1、溝9	町内遺跡群VII
37	1989	200	区画道路			106	1998	135	個人住宅	ビット1	町内遺跡群VII
38	1989	74	個人住宅	中期住居1、土坑3	東部遺跡群X	107	1998	135	個人住宅	ビット4、溝1	町内遺跡群VII
39	1989	94	個人住宅	土坑2、溝2	東部遺跡群X	108	1998	413	個人住宅	縄文住居1、土坑1、近世溝3	町内遺跡群VII
40	1989	980	消防訓練塔	中期住居4、土坑4、集石土坑1、ビット28	東部遺跡群X	109	1998	429	店舗付共同住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群VII
41	1989	476	区画道路	縄文中期住居4、土坑1	調査会報告6集	110	1998	385	郵便局	落し穴1、集石1、礫群1	町内遺跡群VIII
42	1991、1992		区画道路	屋外埋蔵2、土坑19	調査会報告6集	111	1998	354	個人住宅	ビット1、近世の溝1、道1	町内遺跡群VIII
43	1990	272	個人住宅	縄文中期住居4、土坑3	東部遺跡群XI	112	1999	144	個人住宅	近世の溝のみ	町内遺跡群VIII
44	1990	3,224	区画道路	屋外埋蔵、竈穴3、落し穴2、土坑16、集石土坑1	調査会報告6集	113	1999	2,817	店舗	旧石器時代のユニット、中期住居6、竈穴2、土坑、ビット、近世溝	町内遺跡群IX
45	1991		区画道路			114	1999	676	駐車場	落し穴1、ビット2	町内遺跡群IX
46	1991	199	個人住宅	遺構無し、土器片のみ	町内遺跡群I	115	1999	135	事務所	遺構、遺物無し	町内遺跡群IX
47	1991	141	個人住宅	遺構無し、石鏃、土器片のみ	町内遺跡群I	116	1999	119	個人住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群IX
48	1991		区画道路	縄文中期住居、土坑3	調査会報告6集	117	1999	131	店舗併用住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群IX
49	1991、1992	2,610	区画道路	縄文中期住居12、集石土坑1、土坑8	調査会報告6集	118	2000	548	店舗住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町内遺跡群X
50	1991		区画道路	縄文中期住居15、屋外埋蔵1、土坑3	調査会報告6集	119	2000	221	倉庫建設	縄文中期住居3、土坑1、近世溝1	町内遺跡群X
51	1991	1,190	モデルルーム	中期住居2、掘立柱跡、土坑2、ビット5	町内遺跡群I	120	2001	1,120	共同住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町内遺跡群XI
52	1991	984	ガソリンスタンド	縄文中期住居14、集石土坑7、土坑5、野外竈1、ビット19	調査会報告5集	121	2002	803	個人住宅	縄文中期住居2、土坑2、ビット35、近世溝4	町内遺跡群XI
53	1992	261	分譲住宅	集石土坑1、土坑1	調査会報告6集	122	2002	593	共同住宅	縄文中期住居4、溝3	町内遺跡群XI
54	1992		区画道路			123	2002	252	共同住宅	根切溝のみ	町内遺跡群XI
55	1992	241	駐車場造成	縄文中期住居2、竈穴5、土坑1	調査会報告5集	124	2002	524	個人住宅	縄文中期住居1、土坑2、溝2	町内遺跡群XI
56	1992	261	分譲住宅	集石土坑1、土坑3、ビット6、溝1	町内遺跡群II	125	2003	182	個人住宅	ビット5	町内遺跡群XI
57	1992	174	個人住宅	中期住居2、土坑1	町内遺跡群II	126	2004	153	個人住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群XI
58	1992	146	個人住宅	遺構無し、縄文土器若干	町内遺跡群II	127	2004	327	個人住宅	土坑1	町内遺跡群XI
59	1992	494	個人住宅	中期住居3、竈穴11、屋外埋蔵1、土坑1、ビット12	町内遺跡群II	128	2004	614	店舗	縄文中期住居17、集石5、土坑10、ビット17	町内遺跡群XI
60	1992	253	個人住宅	中期住居2、竈穴4、土坑1、ビット34、落し穴1	町内遺跡群II	129	2004	235	共同住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群XI
61	1993	2,240	区画整理	早期竪穴状1、落し穴3、土坑2、竈穴	調査会報告6集	130	2004	116	個人住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群XI
63	1994	147	共同住宅	中(近世)ビット群、遺物無し	町内遺跡群III	131	2004	97	店付個人住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群XI
64	1994	327	共同住宅	近世・近代溝、前期土器	町内遺跡群III	132	2005	272	店舗併用共同住宅	縄文中期住居3、竈穴7、土坑1	調査会報告18集
65	1994	615	共同住宅	縄文中期土坑3、平安時代住居1、土師器、須恵器	町内遺跡群III	133	2005	176	個人住宅	遺構無し、土器片	市内遺跡群2
66	1994	474	共同住宅	近代溝、縄文土器	町内遺跡群III	134	2005	348	店舗	道跡1	市内遺跡群2
67	1995	308	倉庫建設	縄文中期土坑、ビット、近代溝	町内遺跡群III	135	2006	3,341	店舗併用共同住宅	縄文中期住居1	市内遺跡群2
68	1995	285	店舗住宅	遺構、遺物無し	町内遺跡群III	136	2006	630	学生寮	遺構、遺物無し	市内遺跡群3
69	1994	1,821	店舗建設	縄文中期住居28、土坑6、ビット11、溝1	調査会報告13集	137	2006	861	共同住宅	遺構、遺物無し	市内遺跡群3
						138	2006	247	個人住宅	遺構、遺物無し	市内遺跡群3
						139	2007	474	共同住宅	遺構、遺物無し	市内遺跡群3
						140	2007	487	学習塾	遺構、遺物無し	市内遺跡群4
						141	2007	735	店舗兼事務所	縄文時代	市内遺跡群4



第30図 西ノ原遺跡縄文時代中期住居配置図 (1/2,000)

3 西ノ原遺跡第128地点（店舗建設）

（1）調査の経過と概要

西ノ原遺跡第128地点の調査は、店舗建設に伴うもので、原因者より2004年6月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が旧大井町教育委員会に提出された。

申請地は遺跡中央部に位置し、隣接地の調査から縄文時代住居跡の存在が確実であるため、町教育委員会で遺構密度と遺存状態を確認する試掘調を実施した。その結果、多数の縄文時代の遺構と遺物が確認されたため再度協議を行ない、原因者負担による本調査を大井町遺跡調査会が実施した。試掘・本調査期間は第22表のとおりである。

本調査は建物の基礎に係わる範囲とした。土置き場の関係から調査区を南北に分け、重機による表土除去後、人力による調査を行なった。

調査区には東側道路との境界杭を基軸とする4×4m方眼の区画を設定し、東から西へA・B・C～、北から南へ1・2・3～の番号を付し、A1区・B1区～とした。

本調査の結果、縄文中期住居跡17軒、土坑9基などと共に大量の遺物が出土した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

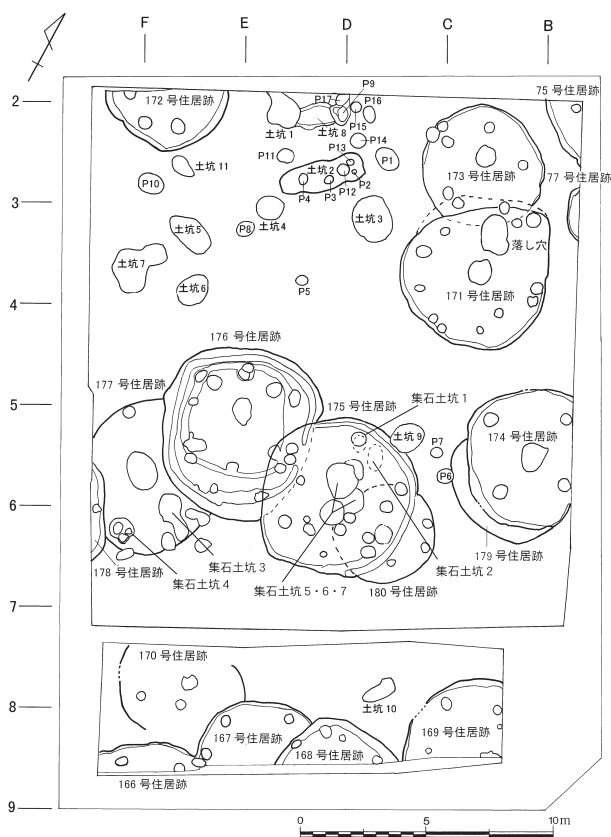
（2）遺構と遺物

本地点は西ノ原遺跡のほぼ中央部で縄文時代中期の集落が環状に配置し、住居跡が最も集中する部分にある。そのため遺構密度も高く、重複も顕著で出土遺物も大量である。

今回の調査で検出した中期の住居跡17軒のうち、新たに確認したものは15軒（166～180号住居跡）である。他の2軒（75・77号住居跡）の住居跡は、東側に隣接する西ノ原遺跡第49地点の調査で確認されていたものの未調査部分を今回新たに検出した。第49地点で検出した各住居跡の炉・ピット・周溝などの詳細は『西ノ原遺跡』^{註3}発掘調査報告書のとおりであり、本書では概略のみを記する。

①75号住居跡

【位置】西ノ原遺跡第49地点で確認した75号住居跡の一部を新たに検出した。第49地点の調査では住居跡東側の約2/3を調査しており、今回検出した部分と合わせると住居跡の8割以上を検出したことになる。



第35図 西ノ原遺跡第128地点遺構配置図（1/300）

ただし第49地点と第128地点の間には50～65cmの未調査部分が残る。

第49地点の調査では、本住居跡の南側に第66号住居跡と第77号住居跡が重複している。本住居跡炉内埋設土器、66号住居跡埋甕、77号住居跡埋甕の土器から、75号住居跡→77号住居跡→66号住居跡の順に新しくなる。第49地点検出の本住居跡炉・ピット・周溝の詳細は既に報告のとおりである。

【形状・規模】第49地点の調査では埋設土器を伴う炉跡や13の柱穴を検出している。今回の検出部分と合わせると平面形はほぼ円形を呈する。

検出部の規模は推定で直径5.6～6m、深さは最深部で45cmである。

【炉】炉は住居中央部やや北よりに位置し、底部を欠損する土器を正位に埋設する。焼土はほとんど認められなかった。平面形は楕円形で規模は85×50cm、深さ23cmである。

【ピット】ピットは前回の調査で検出した13に加え、今回新たに1基を検出した。ピット1の平面形は円形で確認面径30～39cm、底径20cm深さ42.9cmである。

主柱穴は前回の報告書ではP 2・4・14と推察していたが、今回の調査でP 2・4・9を結ぶ可能性もあり、これに対する西側主柱穴は未調査区にあると考えられる。

【周溝】今回検出部は上幅18～30cm、下幅3～8cm、深さ26.4cmである。

【遺物出土状況】前回の調査でも覆土上層から多数の土器片と礫が出土しているが今回も同様に多数の遺物が出土している。

【時期】勝坂Ⅲ式

【出土遺物】1は75号住居跡の炉体土器で、胴部下半以下を欠失する。口唇部が内側に屈曲し鐔状を呈する樽形土器で口径30cmである。口縁部正面には太い隆帯でU字文を貼付ける。反対側は人面把手があった可能性もある。胴部は太い刻み目隆帯による区画内に三叉文や交互刺突文を充鎮する。勝坂Ⅲ式。

2は炉跡南側落込み出土の小型壺形土器。地文縄文に、粘土紐を2ヵ所から垂下させ、先端は渦を巻く。勝坂Ⅲ式。

②77号住居跡

【位置】西ノ原遺跡第49地点で確認した77号住居跡の一部を新たに検出した。第49地点の調査と今回の調査を合わせると住居跡の9割以上を検出したことになる。ただし今回と前回の調査区の間には50～65cmの未調査部分残る。

第49地点の調査では、本住居跡の北側に66・75号住居跡、南側に65号b住居跡が重複している。住居跡の新旧関係は75号住居跡のところで述べたとおりである。本住居跡炉・ピット・周溝の詳細は第49地点で報告したとおりである。

【形状・規模】今回の検出部分と合わせると平面形はほぼ円形を呈する。検出部の規模は推定で直径5.5m、深さは最深部で13.4cmである。

【炉】炉は住居中央部やや北よりに位置し炉底部はよく焼けている。平面形は円形で規模は65×60cm、深さ10cmである。

【ピット】ピットは前回の調査で重複関係にある住居のものと合わせ20以上検出し、主柱穴は5本とみられる。今回新たに確認したピットはない。

【埋甕】南壁際に底部を欠損する土器を正位に埋設し

西に約13°傾斜する。

【時期】加曽利EⅠ新式。

【出土遺物】1は77号住居跡の南側入口に埋設されていた深鉢で口径33cmである。口縁部は無文で胴部は地文縄文の上に隆帯で区画をつくり、直下・蛇行懸垂文を2単位につくり仕上げ調整は入念である。加曽利EⅠ新式。

③166号住居跡

【位置】調査区の南側に位置し住居跡の大部分は調査区外へ延びる。167号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。

【形状・規模】住居跡の北側の一部を検出しただけで、全体の形状・規模は不明である。住居跡の深さは最深部で18.3cmである。炉。周溝はない。

【ピット】ピットは2を検出した。ピット1の平面形は卵形で確認面径37～50cm、底径18～20cm深さ54.6cmである。ピット2は調査区外へ延びるため全体の形状・規模は不明である。検出部の規模は確認面径40cm、底径25cm深さ62cmである。

【遺物出土状況】覆土層から土器片と礫が出土している。

【出土遺物】1は口縁から胴中部までの40%を遺存する中型深鉢で復元口径24cm・現存部高18cmである。口縁部文様帯は長楕円形区画と渦巻文である。胴部は地文縄文で、2本の沈線間を磨消した直下懸垂文をもつ。胎土は橙色粒子を多く含む整形良好で焼成良好。胴部内面は二次被熱によるハジケが著しい。加曽利EⅡ式古相。

2は碗形土器で、口縁部と胴部下半を欠失する。残存部の最大径は26cmである。地文は縄文で、2本の沈線間を磨消して直下懸垂文を大雑把につくる。加曽利EⅡ式新相。

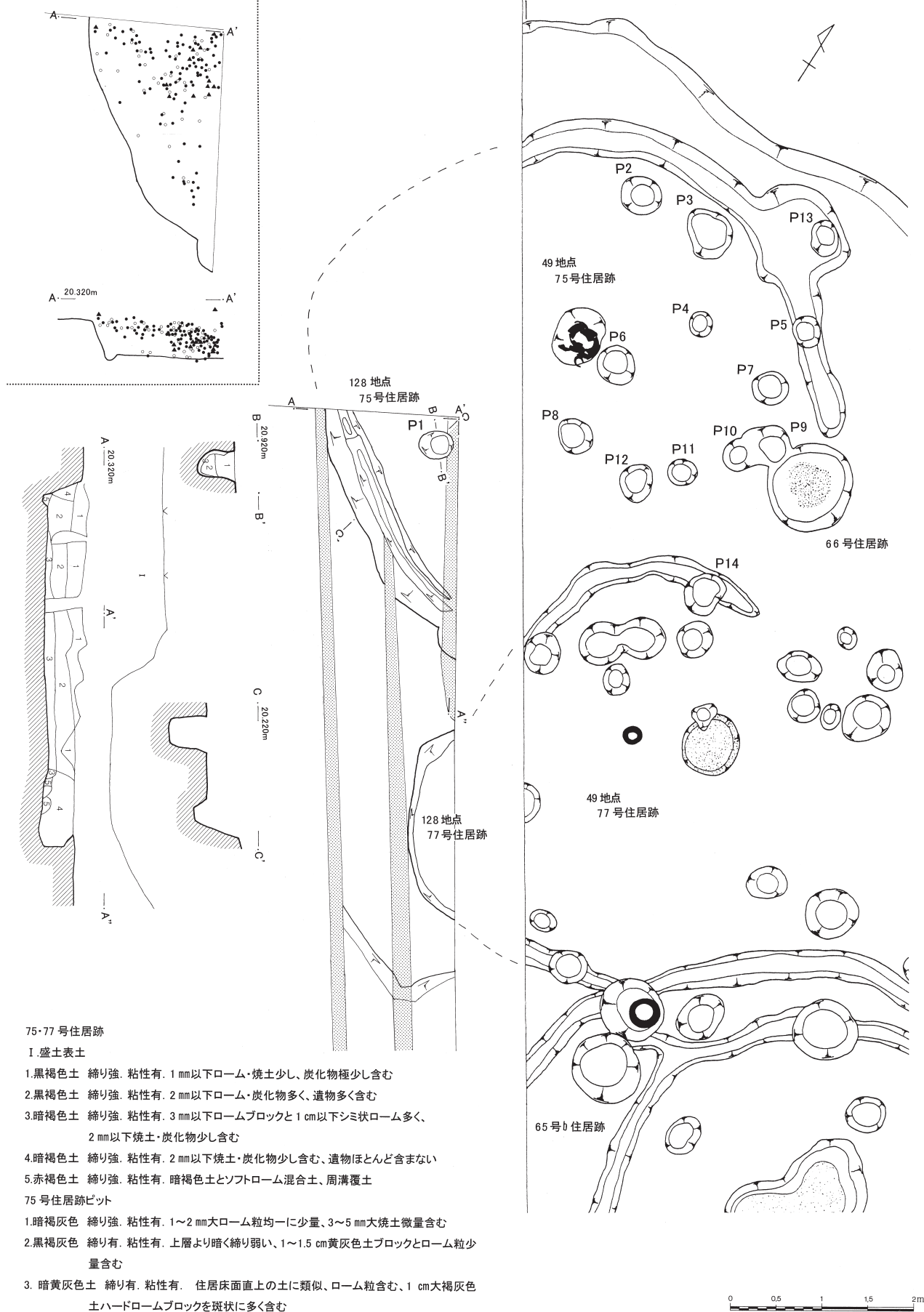
今回の調査で住居跡の時期を特定できる遺物は出土していない。

④167号住居跡

【位置】調査区の南側に位置し住居跡の大部分は調査区外へ延びる。北側に170号住居跡、東側に169号住居跡、西側に166号住居跡が位置する。本住居跡は169号住居跡より古く、167・170号住居跡との新旧関係は不明である。

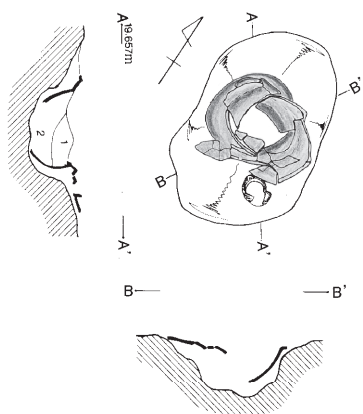
75号住居跡 遺物出土状況

65・66・75・77号住居跡



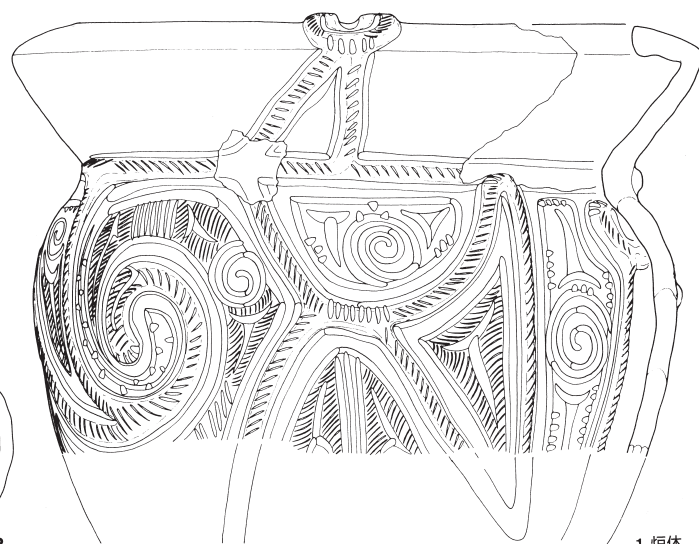
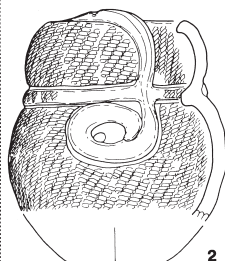
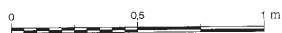
第36図 西ノ原遺跡75・77号住居跡・遺物出土状況 (1/60)

75号住居跡 炉

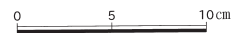


75号住居跡炉

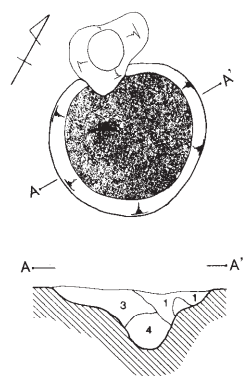
1. 暗褐色土
2. 茶褐色土 ローム粒子含む



1 炉体



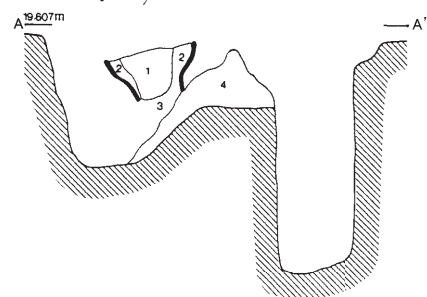
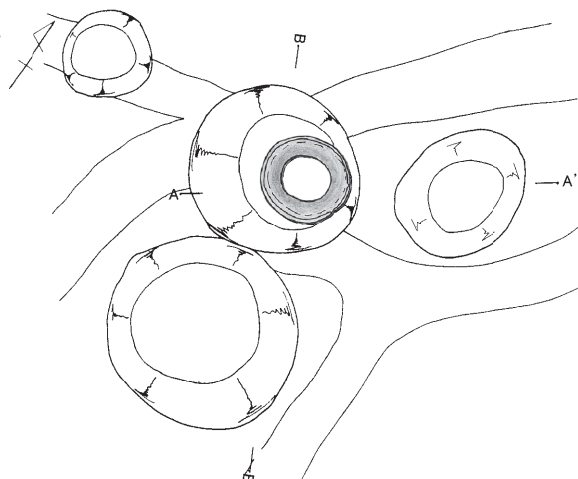
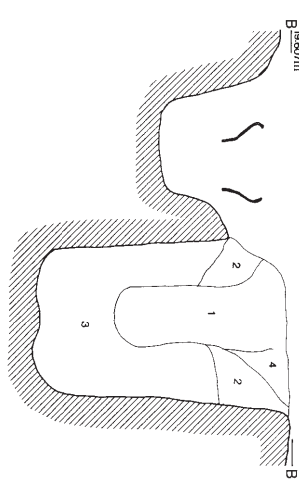
77号住居跡 炉



77号住居跡炉

1. 黒褐色土 若干の焼土粒子含む
2. 黄褐色土 ロームブロック・ローム粒子多量含む
3. 黒褐色土 多量の焼土粒子含む
4. 褐色土 締め強

77号住居跡 埋甕出土状況

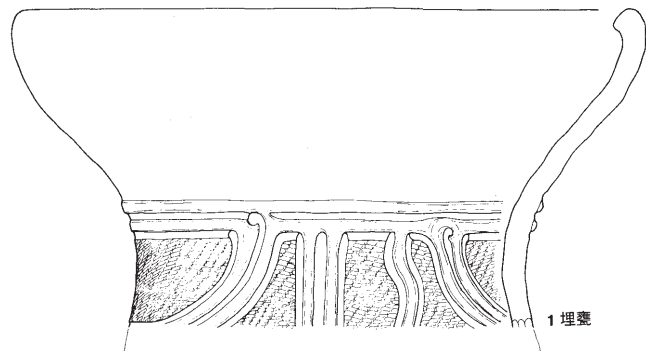


77号住居跡埋甕

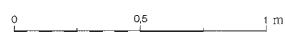
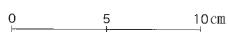
1. 暗褐色土 炭化粒子・ローム粒子多く含む
2. 暗褐色土 ローム粒子含まない
3. 褐色土 ロームブロック含む
4. 黄褐色土 ロームブロック多く含む

77号住居跡ピット

1. 茶褐色土 炭化粒子・ローム粒子含む
2. 茶褐色土 ロームブロック含む
3. 黄褐色土
4. 暗褐色土 炭化物含む



1 埋甕



【形状・規模】住居跡北側の一部を検出し、全体の形状は不明である。規模は推定で東西5.0～5.2m深さは最深部で20.8cmである。炉、周溝は確認されていない。

【ピット】ピットは3基検出した。平面形は全てほぼ円形を呈する。ピット1は確認面径39～50cm、底径11～27cm深さ25.6cmである。ピット2は確認面径40～42cm、底径19～21cm深さ53.2cmである。ピット3は確認面径35～40cm、底径18～20cm深さ51.2cmである。

【遺物出土状況】覆土層から土器片・礫が多数出土。

【出土遺物】1は隆帯に刻目、2は沈線文と半円形刺突文、3は隆帯の区画を配する。4は地文撚糸に隆帯の区画文、5は沈線、6・7は地文縄文に隆帯の区画文、9は地文撚糸に隆帯を貼付ける。10は隆帯の渦巻文、11・12は隆帯貼り付け、13は地文縄文に沈線を配し14は浅鉢に渦巻文を配する。15・16は地文縄文か撚糸文に隆帯を、17～19は地文縄文に沈線を、20・21は地文撚糸に連弧文、22は地文縄文に連弧文、23は地文縄文、24は地文沈線に隆帯の懸垂文を貼付ける。

1・2は勝坂式、3～24は加曽利EⅠ～Ⅱ式・連弧文系土器である。

⑤168号住居跡

【位置】調査区の南側に位置し住居跡の大部分は調査区外へ延びる。167号住居跡と重複し本住居跡が新しい。

【形状・規模】住居跡の北側の一部を検出しただけで、全体の形状・規模は不明である。住居跡の深さは最深部で35.8cmである。炉は確認されていない。

【ピット】ピットは5基検出した。

【遺物出土状況】床面付近の遺物は少なく、覆土上層から土器片と礫が多数出土している。

【周溝】周溝は検出部の壁際に沿って全周する。上幅28cm下幅7～12cm、深さ2.4～19.3cmである。

【出土遺物】1は大型深鉢の波頭部が中空把手となった部分で、地文は横位施文の撚糸文で、中空部飾り端部の沈線は渦巻く。加曽利EⅠ古式。2は口縁部文様帯下部から頸部無文帯にかかる破片。3は筒形深鉢の口縁部で地文は撚糸文。4は中型の無文浅鉢。5は矢羽根状刺突を施す太い隆帯をもつ胴部片で地文は縄文。6は斜縄文の地文のみの胴部片。3と4は勝坂Ⅲ式。

⑥169号住居跡

【位置】調査区の南東隅に位置し住居跡の大部分は調査区外へ延びる。

【形状・規模】住居跡北西隅の約1／4を検出しただけで、全体の形状・規模は不明である。住居跡の深さは最深部で37.3cmである。

【炉】検出部の南側に位置し大部分が攪乱され、形状規模は不明である。検出部の底部はよく焼けて硬化し、底部の深さは16.2cmである。焼土周辺には深さ20.4cmの掘り込みが3～4ヶ所あり石囲炉であった可能性がある。

【ピット】ピットは5基検出した。

【遺物出土状況】覆土中層から上層にかけ大量の土器片・礫が出土する。礫には被熱したものも多い。

【出土遺物】1は口縁部と胴部の間に低い隆帯を貼付ける。口縁部は半隆帯による区画内を沈線文と刺突文を充填し地文縄文の胴部が続く。2と3は斜位の沈線文をもつ浅鉢で、2の上面にも沈線文がある。4は沈線で山形文をつくる。5と6は円弧状隆帯の内外を沈線で充填し渦巻頭隆帯を下降させる。7は地文沈線に隆帯の蛇行懸垂文を貼付ける。5～7は同一個体か。8は条線を地文とし隆帯の懸垂文をもつ。9は沈線文に蛇行懸垂文をもつ。10は地文条線のみ。11は胴中部から底部まで地文条線で沈線による懸垂文をもつ。12は無文の小型浅鉢。13は大型浅鉢の底部。本住居出土土器片は約80%が沈線・条線を地文とする。1～11は加曽利EⅡ式新相に併行する曽利系土器である。今回の調査で住居跡の時期を特定できる遺物は出土していない。

第24表 西ノ原遺跡168号住居跡ピット一覧表

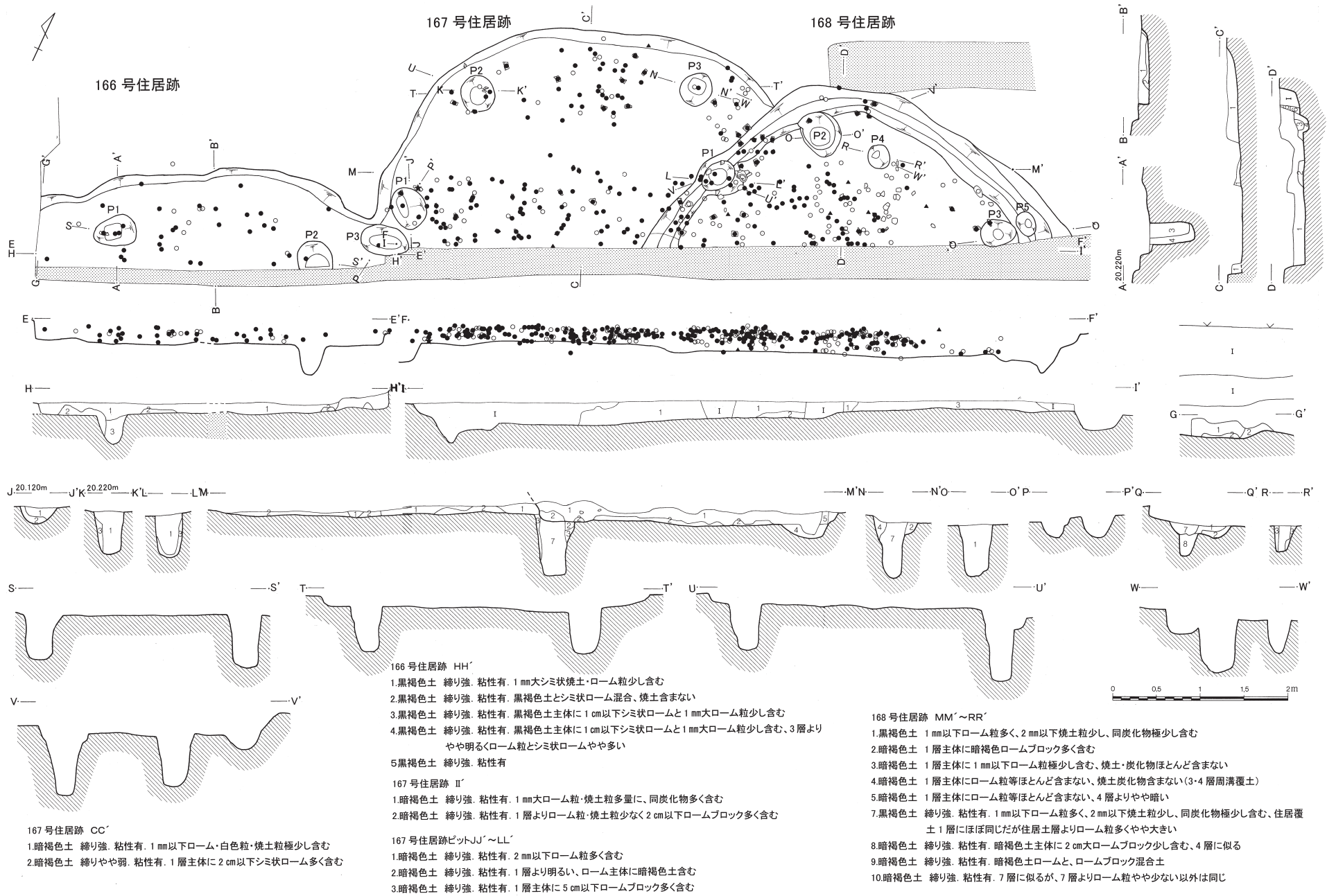
単位：cm

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	50	19	74.0	主柱穴
2	楕円形	44～53	24～26	61.4	主柱穴
3	卵形	30～42	11～14	16.6	
4	円形	25～30	8～10	30.0	
5	楕円形	22～29	7～11	25.7	

第25表 西ノ原遺跡169号住居跡ピット一覧表

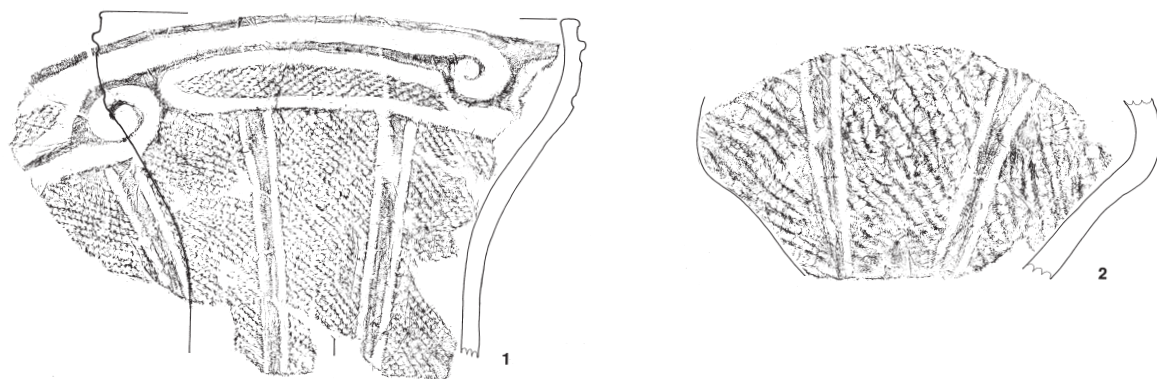
単位：cm

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	43～53	30～34	65.5	主柱穴
2	円形	35～40	22～25	76.8	主柱穴
3	方形	22～23	10～15	35.7	
4	円形	21	10	19.0	
5	円形	23	13～15	35.7	

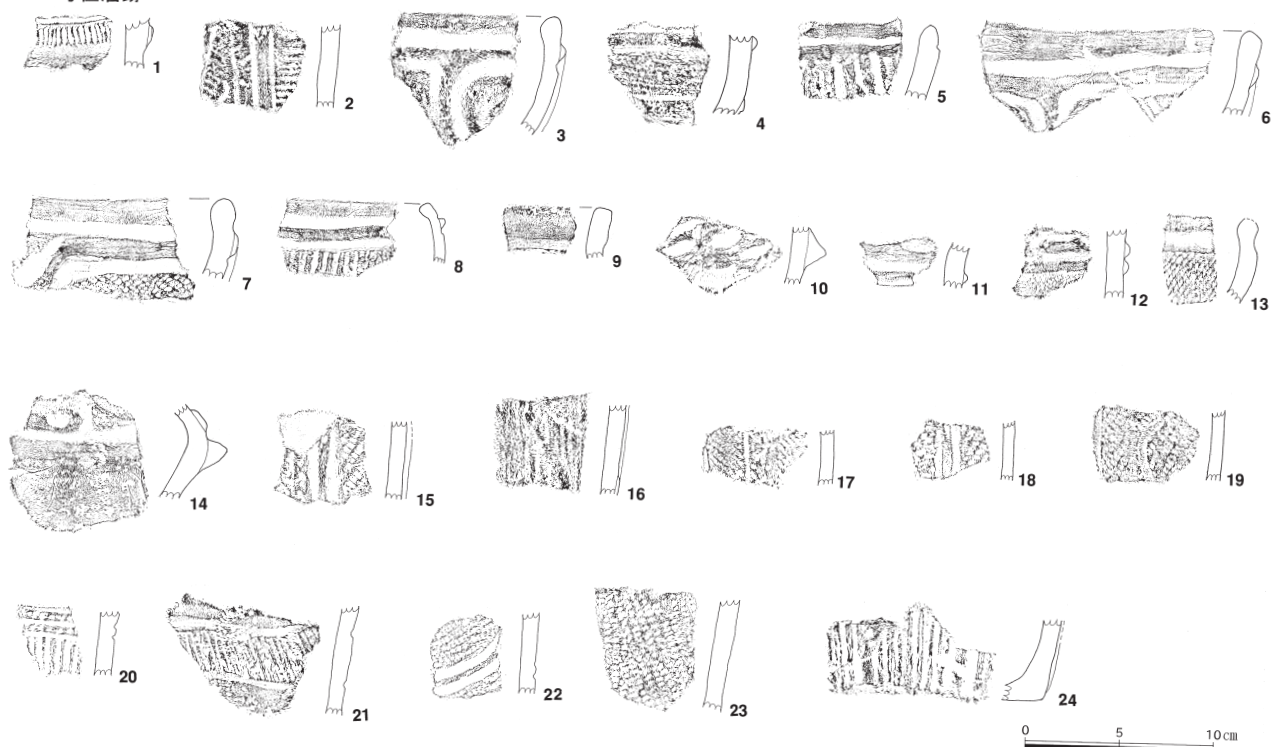


第38図 西ノ原遺跡166・167・168号住居跡 (1/60)

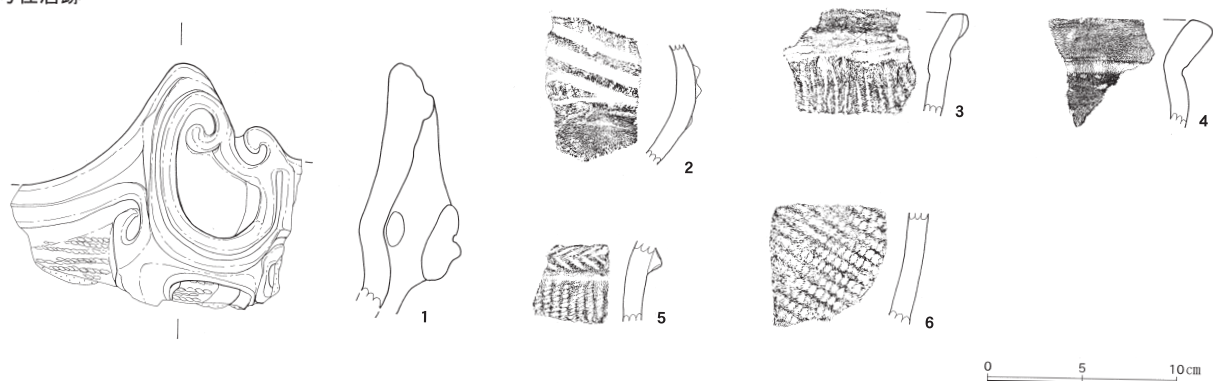
166 号住居跡



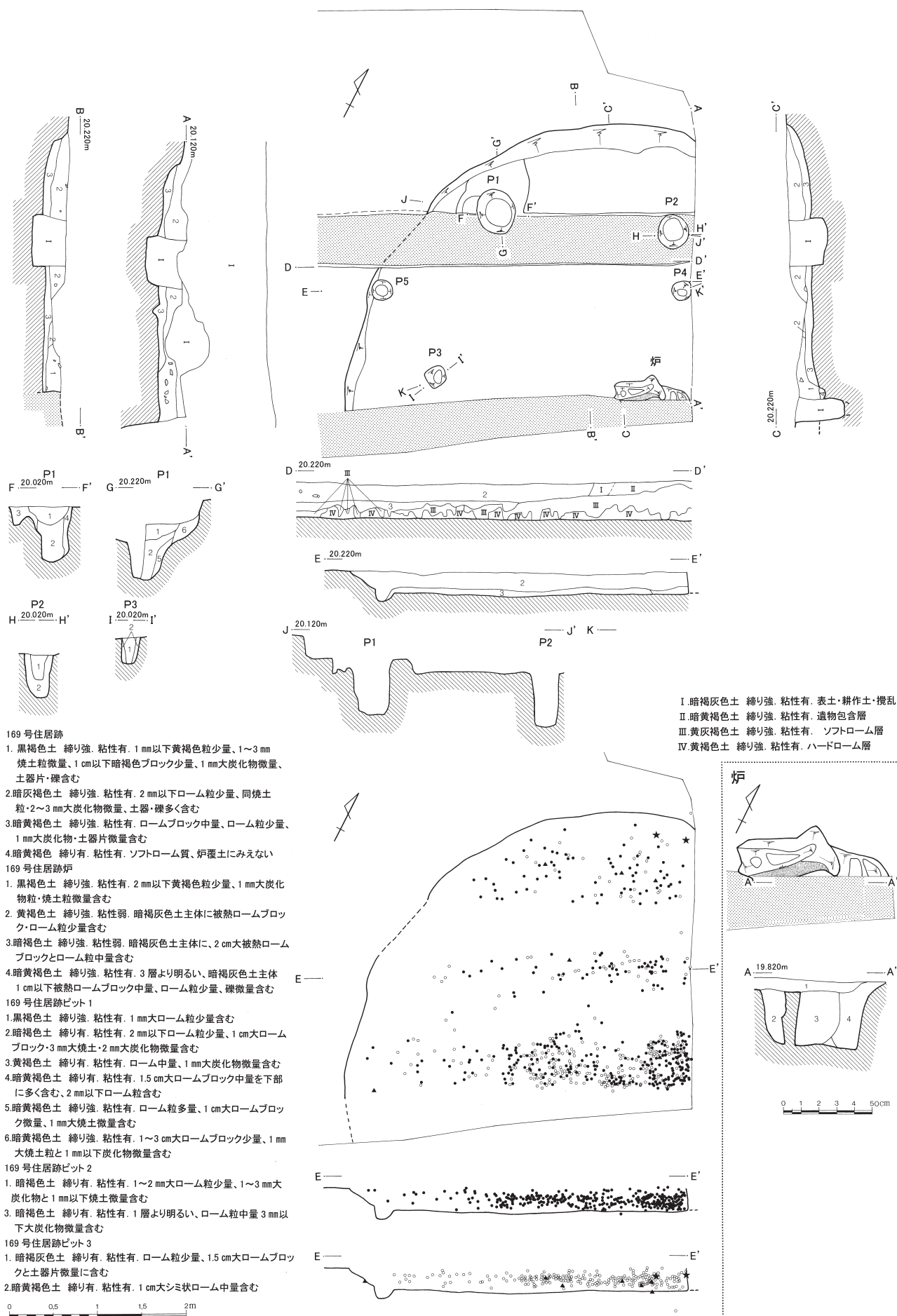
167 号住居跡

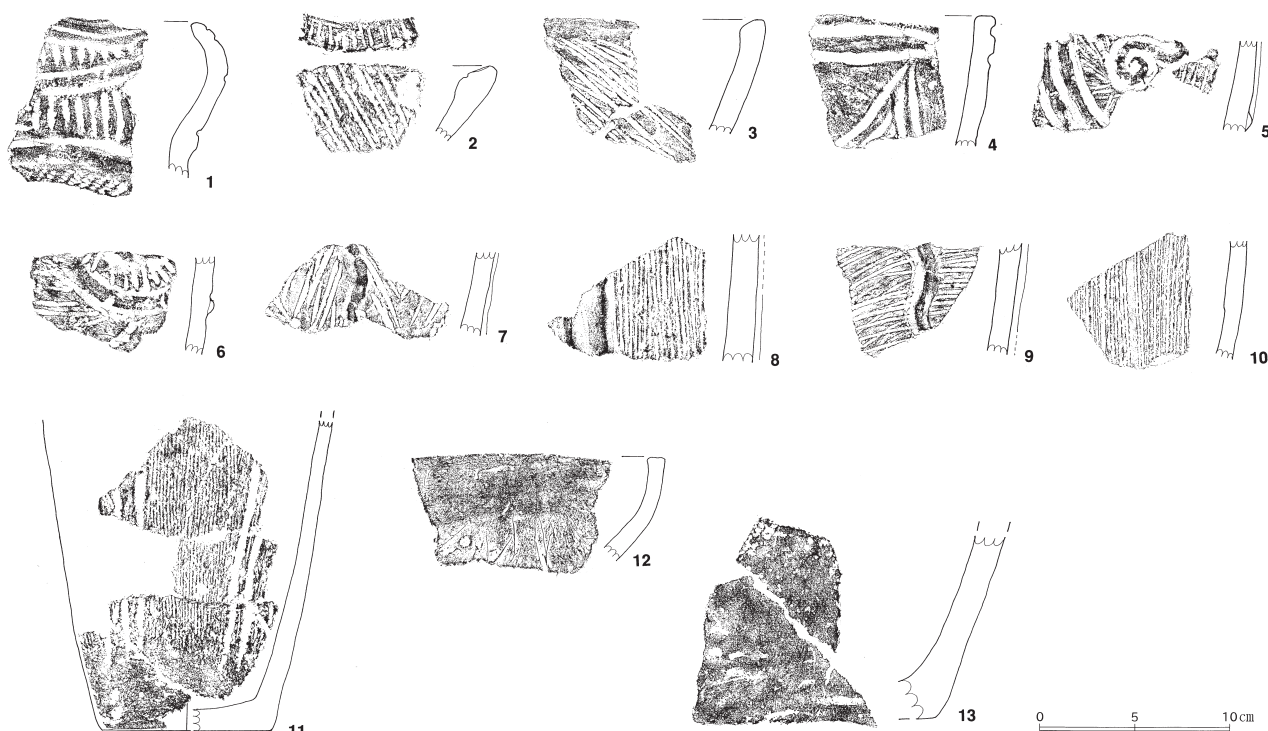


168 号住居跡



第39図 西ノ原遺跡166・167・168号住居跡出土土器 (1/4)





第41図 西ノ原遺跡169号住居跡出土土器（1/4）

⑦170号住居跡

【位置】調査区の南側に位置し167号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。

【形状・規模】住居跡範囲は掘り込みがほとんど確認出来ないため地山ローム土の僅かな色調の違いで判断した。平面はほぼ円形で規模は直径5mと推測される。

【炉】炉と埋甕が住居中央部に東西に並んで位置する。炉の平面形は楕円形で炉内北側に口縁部を下にした逆位に縄文土器を埋設する。土器内面に被熱によるハジケ現象がみられるため炉内埋設土器とした。また炉内埋設土器周辺には礫が数点出土しており石囲埋甕炉の可能性もある。炉内の焼土層はあまり発達していない。掘り込みの規模は65×60cm、深さ11cmである。

【埋甕】炉の西側45cmに位置し、平面形は楕円形で、中央部に僅かに炉の方向に傾く縄文土器を正位に埋設する。掘り込みの規模は44×34cm、深さ8.2cmである。

【ピット】ピットは2基検出する。平面形は全てほぼ円形を呈する。ピット1は確認面径37cm、底径18cm深さ14.9cmである。ピット2は確認面径40cm、底径17～18cm深さ10.8cmである。

【遺物出土状況】埋甕より西側の覆土層から僅かに土器・礫が出土する。遺物の出土する高さがほぼ床面とみられる。

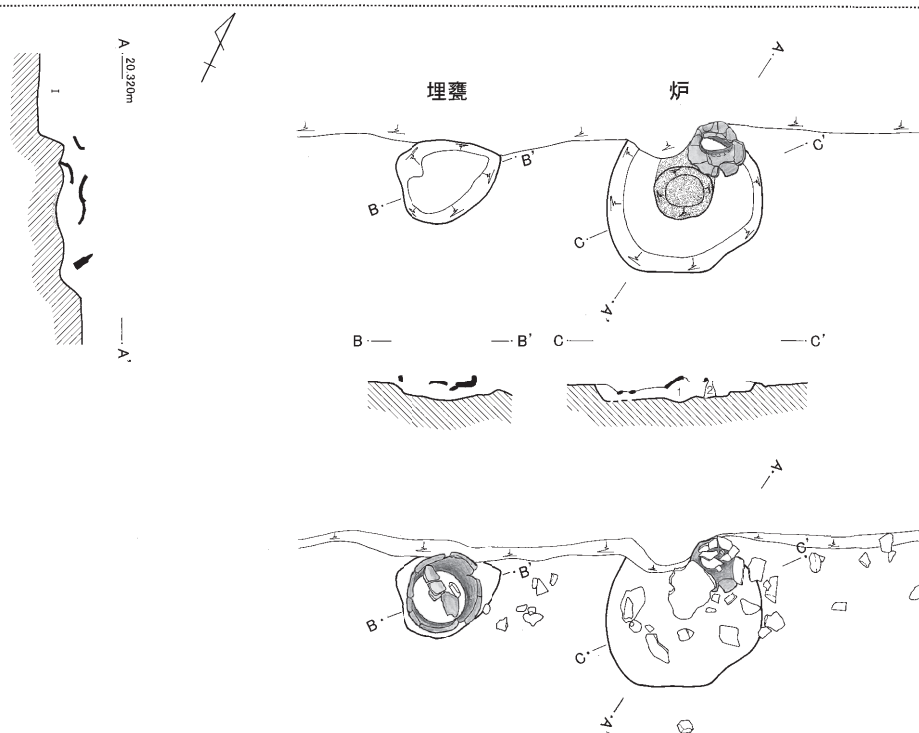
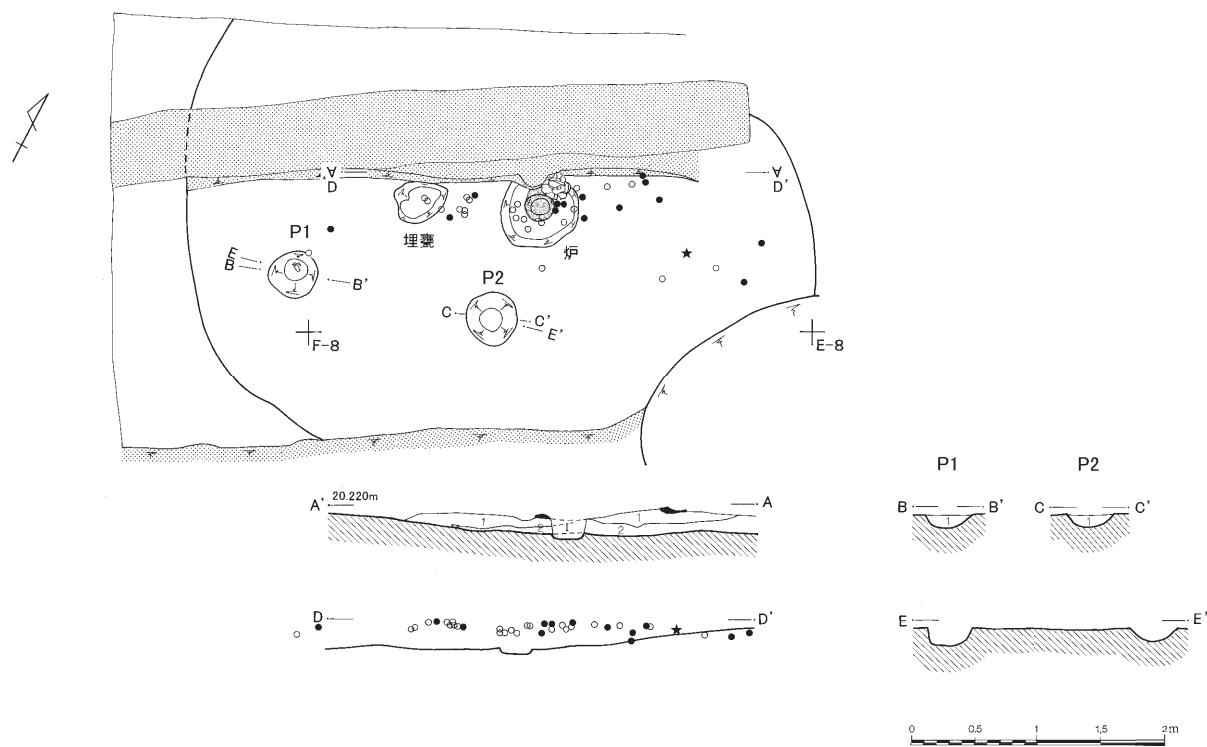
【時期】加曽利EⅢ期。

【出土遺物】1は炉体土器で口縁から胴上部の90%を遺存する。やや外反する無文口縁下部に列点文をめぐらす。胴部はRL縄文を地文とし、4本の逆U字形弧状沈線を施し、沈線間を磨消す。胎土に白色砂粒と橙色粒子を多く含み、赤褐色を呈する。二次被熱によるハジケ現象が著しい。口径14cm、現存部高9.5cmである。加曽利EⅢ式といえる。

2は住居西半の床面に埋設された埋甕で、口縁から胴中部までの約80%を遺存し、口径24cm、残存部高15cmの素口縁の深鉢である。内傾する口縁部には列点文がめぐる。体部は細いLR縄文を地文とし、胴部に2本組沈線による連弧文をラフに描き、ここから沈線による蛇行懸垂文を入れる。胎土に白色砂粒と橙色粒子を含む。加曽利EⅡ式の新相である。

3も炉体土器で、口縁部の80%と胴上部の40%を遺存し、復元口径21cm、現存部高18cmである。1に酷似する器形と文様構成をとり、列点文を欠きやや大型にした埴形土器である。胎土・焼成も同様で2と同時期である。

4は無文の碗形に近い浅鉢で、口径18cm弱、現存高8cmである。加曽利E式後半～末葉の小型浅鉢である。



170号住居跡

1. 暗褐色土 締り強、粘性有。ソフトローム主体、シミ状暗褐色土・2mm以下シミ状ローム粒・焼土極少し含む(貼床?床面)

2. 暗褐色土 締り強、粘性有。地山ソフトローム

170号住居跡炉

1. 黒褐色土 締り強、粘性有。1mm以下焼土・炭化物極少し含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有。1層よりやや明るく、1mm以下シミ状焼土極少し含む

170号住居跡埋壙

1. 黒褐色土 締り強、粘性有。1mm以下焼土粒極少し含む

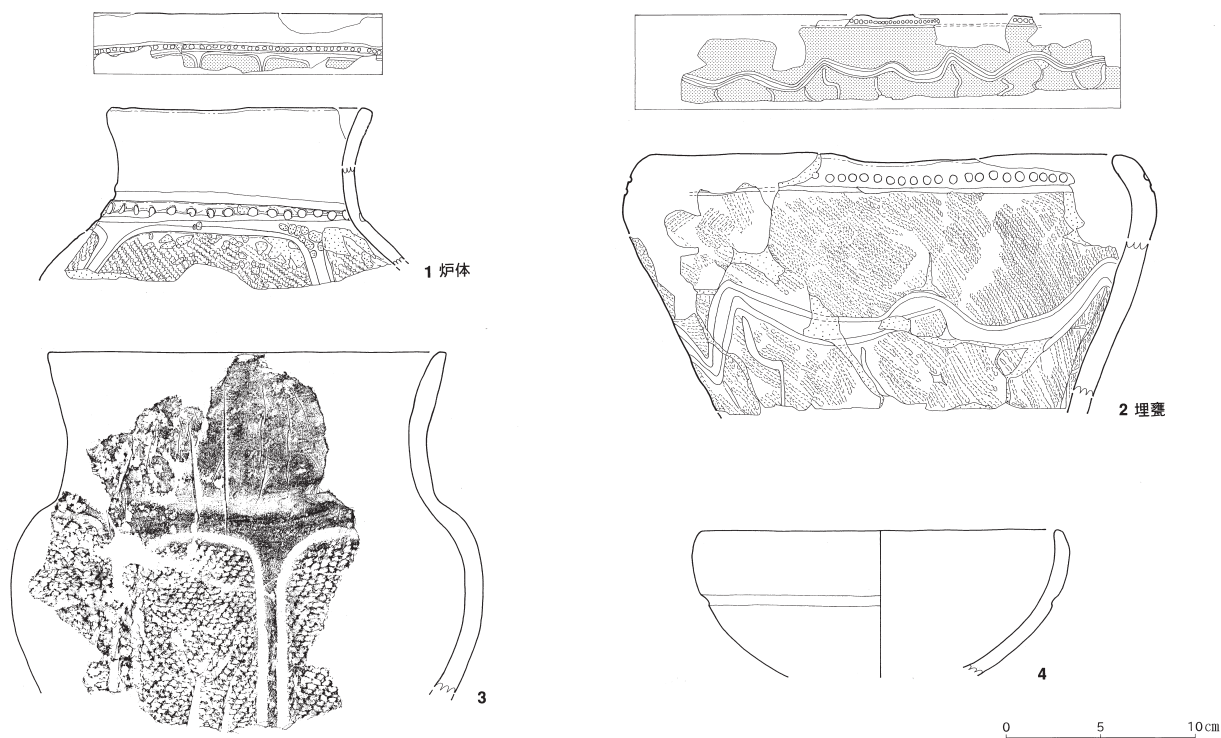
170号住居跡ピット1

1. 暗褐色土 締り強、粘性有。シミ状ローム中量、1mm大炭化物・黄白色土粒微量含む

170号住居跡ピット2

1. 暗褐色土 締り強、粘性有。シミ状ローム中量、1mm大炭化物・赤褐色粒1~2mm大黄白色土粒微量含む

第42図 西ノ原遺跡170号住居跡・遺物出土状況(1/60)、埋壙・炉(1/30)



第43図 西ノ原遺跡170号住居跡出土土器 (1/4)

⑧171号住居跡

【位置】調査区の北よりに位置し173号住居跡、落とし穴と重複する。新旧関係は、落とし穴→171号住居跡、173号住居跡→171号住居跡の順に新しい。

【形状・規模】平面形はほぼ円形で、規模は長軸6.3×短軸5.8m、深さは最深部で32.3cmである。

本住居跡の主軸は炉と埋甕を結ぶ線とみられる。

本住居跡は、炉跡の検出状況やピットの配置から住居跡の建て替え・拡張、重複などが考えられる。

【炉】住居内の中央部に位置する。平面形は円形で、炉内底部はよく焼け焼土層が発達している。掘り込み掘り込みの規模は70×30cm、深さ15cmである。また炉跡の北側床面に、直径約54cmの焼土面が広がるが掘り込みはみられない。

【埋甕】住居内の南側、ピット10東側の周溝内に位置する。平面形は楕円形で、中央部に底部を欠損する縄文土器を正位に埋設する。土器は僅かに北側に傾く。

【周溝】住居内の南側、ピット2からピット12までの壁際に沿って延びる。上幅17～33cm、下幅7～18cm、深さ9.6～15.9cmである。

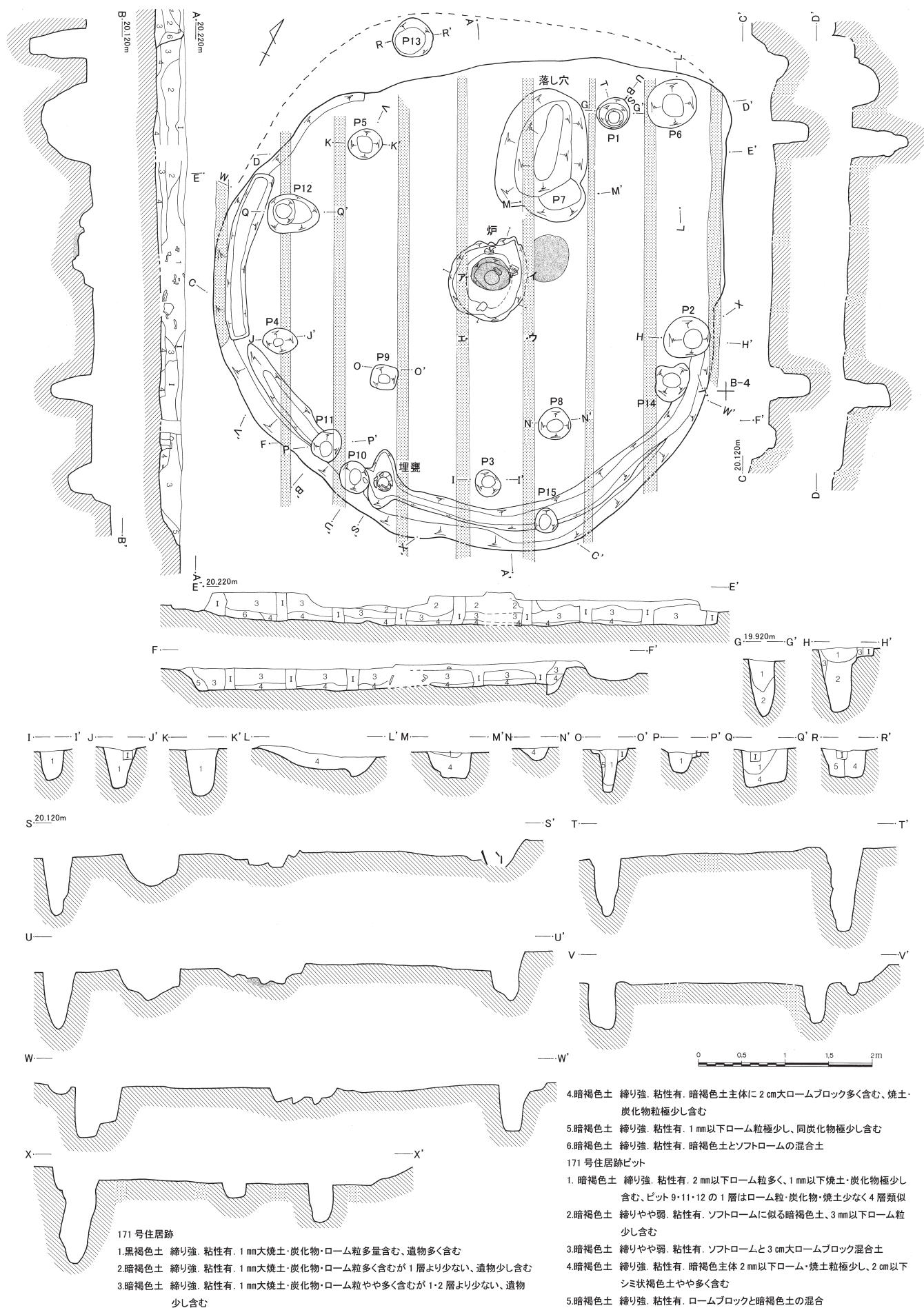
【ピット】重複する173号住居跡と合わせて15基検出する。平面形は円形や楕円形を呈するものが多い。

主柱穴はピット1・3・4・5・(2又は14)を結ぶ5本柱と、ピット1・5・9・(2又は14)の4本柱が考えられる。ただしピット2・14についてはどちらが4本柱・5本柱に属するのか明らかではない。4本主柱穴と5本主柱穴では、埋甕と炉の位置を考慮すると5本主柱穴の方が新しいと考えられるが。しかしこれ以外にも主柱穴配置の可能性はある。また、ピット13については173号住居跡のものの可能性もある。

【遺物出土状況】床面付近及び覆土層から完形に近い土器が数点出土する以外は破片と礫が出土する。第47図2の土器はピット3北側の床面から口縁部を下にして伏せた状態で出土した。同4は炉跡上部の住居跡覆土層から出土した。

【出土遺物】1は住居内南側の入口部出土の埋甕で、口縁部から胴部下半までの50%を遺存する深鉢形土器であり復元口径21cm残存部高16cmである。口縁部には2本の沈線をめぐらせ胴部は条線を地文とし、胴部の中ほどにはラフな沈線を3本めぐらす。胴上部には斜位に長い楕円形を沈線で描く。加曽利EⅢ式併行のものである。

2は上部がやや外反する小型深鉢で、口径22cm現存部高11.6cm。口唇直下に沈線をめぐらせる。口縁部か



第44図 西ノ原遺跡171号住居跡 (1/60)

ら胴部にかけて沈線による「□」状の区画を配し沈線の区画間は磨消す。区画内の口縁部と胴部境の括れ部分には沈線による楕円形や「6」字状の文様を施す。加曽利 EⅢ式段階とみられる。

3 は地文沈線の深鉢で、口縁から胴上部の約30%を遺存し復元口径22cm。口唇部上面に刻目と沈線をもち口縁部外面は斜位の沈線列で、頸部には隆帯を貼り付け交互刺突を加える。胴部は粗い斜位沈線を地文とし、隆帯を垂下させ押圧を加える。曾利Ⅲ式。

4 は覆土層から横位で出土したほぼ完形の中型深鉢であり、口径31cm・器高40cmである。櫛状工具による条線を地文とし3本の沈線で胴上部と胴下部を区画する。胴上部には3本組沈線による連弧文を2段に配し、胴下部には3本を垂下させる。加曽利 EⅡ新段階の連弧文。

5 は口唇部に円形刺突文と穿孔のある半円状突起を有し、頸部無文帯をもつ口縁部片である。口縁部には隆帯により渦巻文と楕円形区画を配し区画内に R L 縄文を施す。

6 は渦巻文と長方形区画文で口縁部文様帯をつくり胴部は2本の沈線間を磨消した直下懸垂文をもつ地文 RL 縄文の深鉢。加曽利 EⅡ式中相。

7 は口縁部文様帯と胴部文様帯からなる口径33cm、現存部高20cm強の深鉢であり、地文は R L 縄文である。口縁部は沈線による楕円形区画のみであり、胴部には

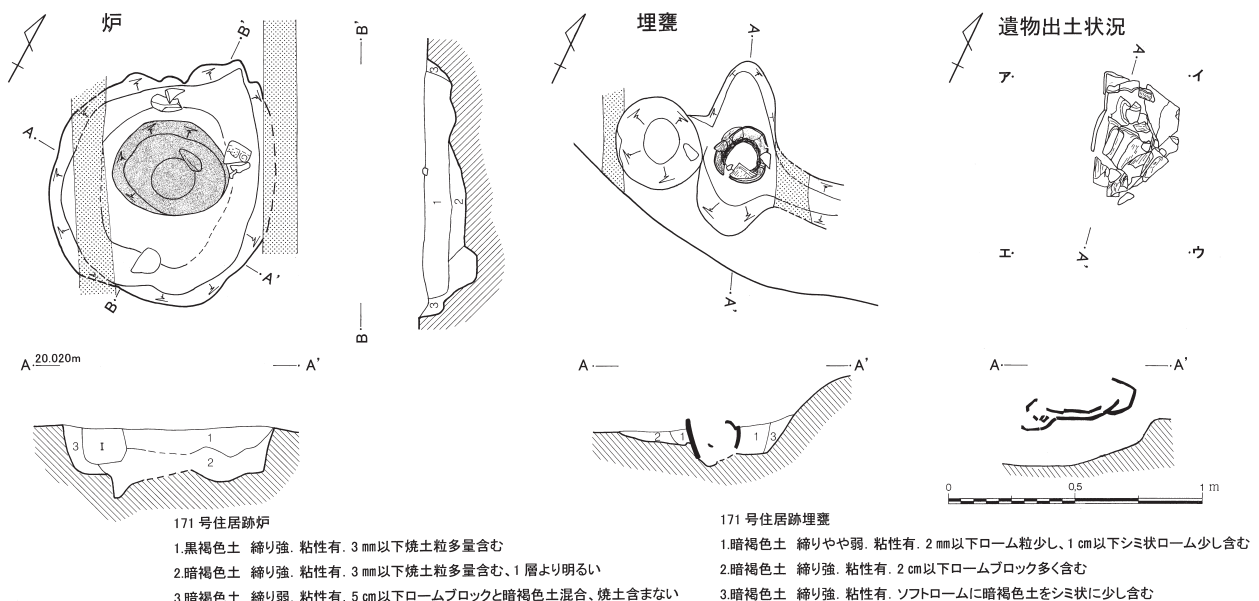
3本の沈線を垂下し、沈線間を磨消す。加曽利 EⅡ式新相。

8 は浅鉢の底部から胴下半部で、無文である。

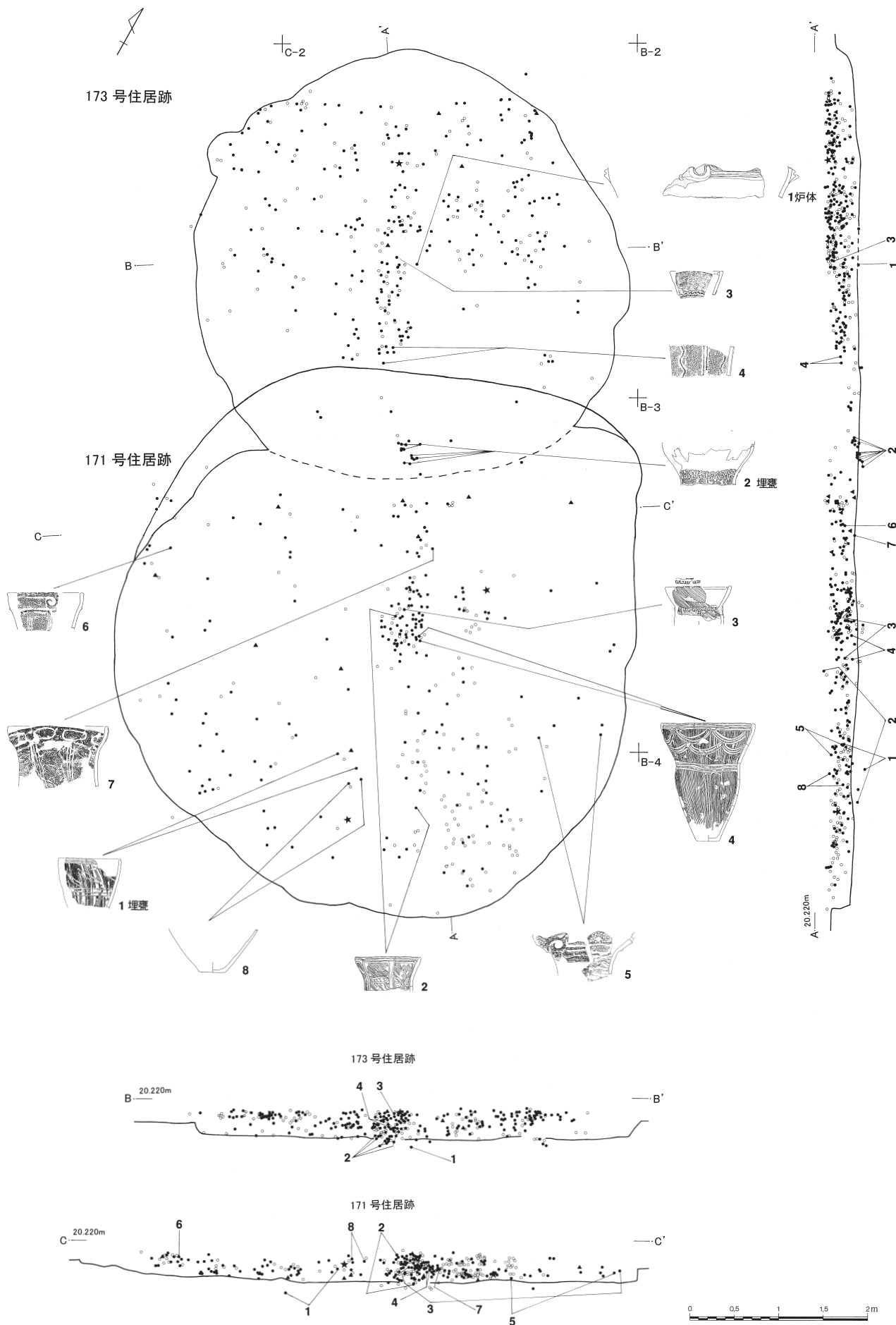
第26表 西ノ原遺跡171号住居跡ピットー覧表

単位：cm（推定）

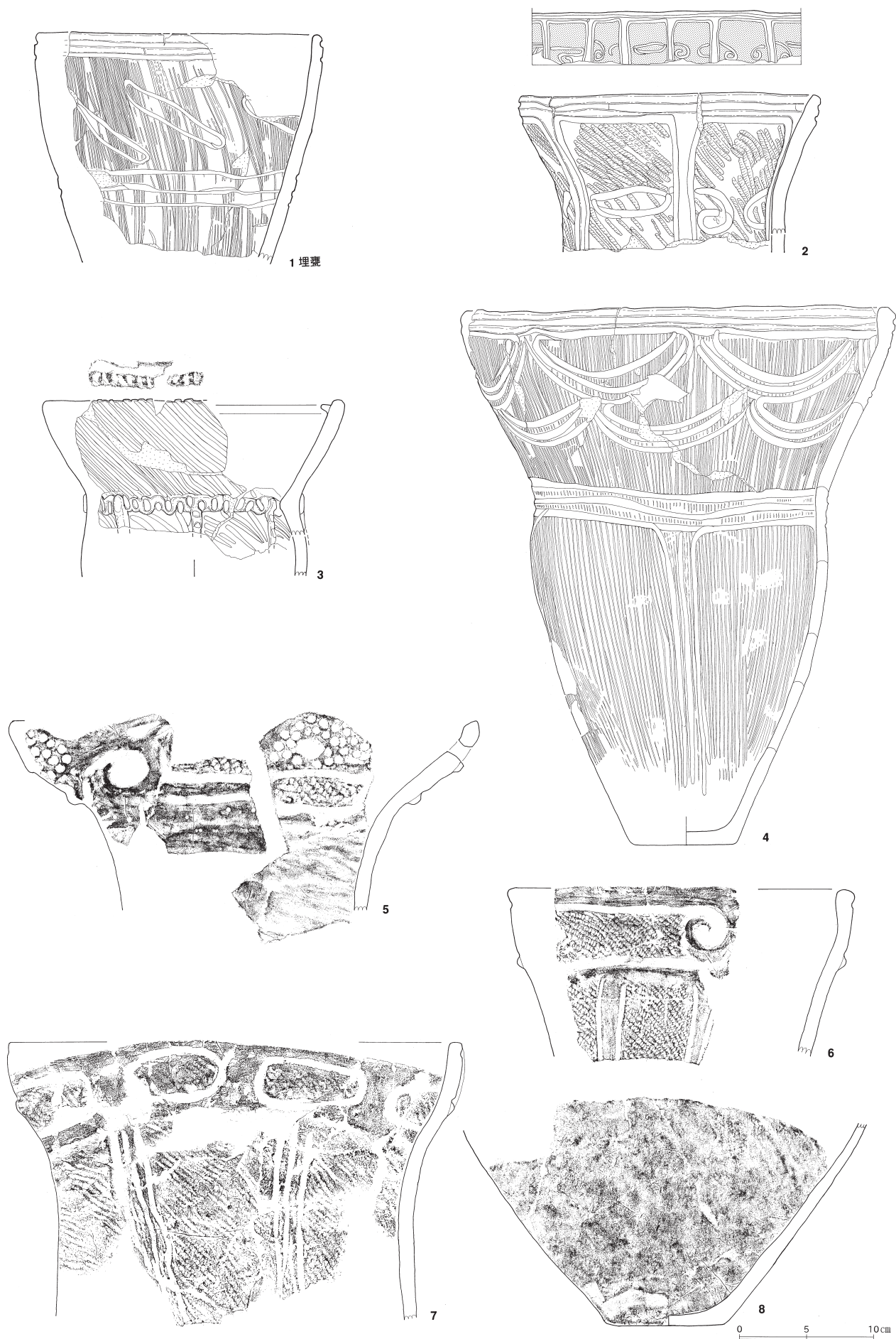
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	36	13~14	65.8	主柱穴
2	円形	47~50	20~23	74.0	主柱穴？
3	円形	28~31	14~15	48.0	主柱穴
4	楕円形	30~41	9~10	47.4	主柱穴
5	円形	34~37	17~19	52.5	主柱穴
6	円形	53~60	25	29.2	
7	不明	(40)~65	(25)~46	38.8	
8	円形	35~37	15~20	17.3	
9	方形	30×27	10×14	48.3	主柱穴
10	円形	32×35	12~14	66.6	
11	円形	32~36	14~20	28.3	
12	楕円形	45~60	16~18	58.5	主柱穴？
13	円形	45	29~34	36.7	
14	円形	40	17~20	53.8	主柱穴？
15	円形	27~30	13~20	24.0	



第45図 西ノ原遺跡171号住居跡炉・埋壺・遺物出土状況 (1/30)



第46図 西ノ原遺跡171・173号住居跡遺物出土状況 (1/60)



第47図 西ノ原遺跡171号住居跡出土土器 (1/4)

⑨172号住居跡

【位置】調査区の北端に位置し、半分以上は調査区外へ延びる。

【形状・規模】検出部の平面形は半円形で、規模は深さ49.8cmである。

【炉】ピット3の北側床面に、直径26～30cmの焼土面が広がるが掘り込みはみられない。住居本来の炉跡は調査区外に存在するとみられる。

【周溝】住居西側の壁際に一部存在する。上幅21～23cm下幅11～13cm、深26.8cmである。

【ピット】ピットは3基検出した。平面形は全てほぼ円形を呈する。ピット1・2は主柱穴とみられる。ピット1は確認面径54～61cm、底径28～34cm深さ73.9cmである。ピット2は調査区外へ延びるため全体は確認できない。検出部は半円形で規模は直径48cm、深さ71.9cmである。ピット3は確認面径51～57cm、底径27～34cm深さ16.3cmである。また、住居南側の壁際に直径16～24cm、深さ6.2～24.1cmの小ピットが5基存在する。

【遺物出土状況】覆土中層から上層にかけて大量の土器片と礫が出土する。

【出土遺物】1は炉体土器の浅鉢で、口縁部と体部の接合部以下を欠失し、口径40cm・現存部の高さ9cmで文帯部分の一部を欠損する。文様帯は長方形区画と両端が渦巻く長楕円形区画を沈線で作る。区画間は交互引沈線で埋める。体部を全て欠くが、文様帯部分の表裏は丁寧に横撫で調整が行なわれている。加曽利EⅠ式。

2は深鉢の口縁で、口縁部文様帯は地文のLR縄文のうえに2本組み隆帯を貼付けて、両端が渦巻くつなぎ文で連結する。文様帯の下方に僅かに頸部無文帯が遺存する。胎土に白色砂粒を多量に含み、赤褐色を呈する。加曽利EⅠ新式古相。

5は、幅広い頸部無文帯の上と下が遺存する。無文帯下部の隆帯のうち下方には交互刺突が付加されている。胎土・焼成・色調共に2と同じで、直接に接合しないが同一個体と思われる。

3は区画隆帯と胴上部片で、深く密に施文された撚糸文で、4は頸部無文帯に続く胴上部片で撚糸文が前面施文される。3は加曽利EⅠ式古相で4は加曽利EⅠ新式古相の大型深鉢破片である。

⑩173号住居跡

【位置】調査区の北よりに位置し171号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡が171号住居より古い。

【形状・規模】平面形はほぼ円形で、規模は直径5m、深さは最深部で29.6cmである。

住居跡の主軸はピット5・炉・埋甕を結ぶ線である。

【炉】中央部やや北よりに位置する。平面形は円形で、炉内底部はよく焼け焼土層が発達している。底部を欠損する縄文土器を正位に埋設するが、耕作により土器の一部が残存するのみである。掘り込み面の規模は80×77cm、深さ10cmである。炉内南側に縄文土器の大型片を埋設する。

【埋甕】住居内の南側、ピット2・3のほぼ中間で住居壁際に位置する。平面形は円形で、北よりに底部を欠損する縄文土器を正位に埋設する。北西側に傾く土器は、攪乱などで一部が残存するのみである。

【ピット】重複する171号住居跡と合わせて8基検出する。平面形は円形を呈するものが多い。主柱穴はピット1～5の5本柱である。

【遺物出土状況】覆土中層から上層にかけて大量の土器片と礫が出土する。

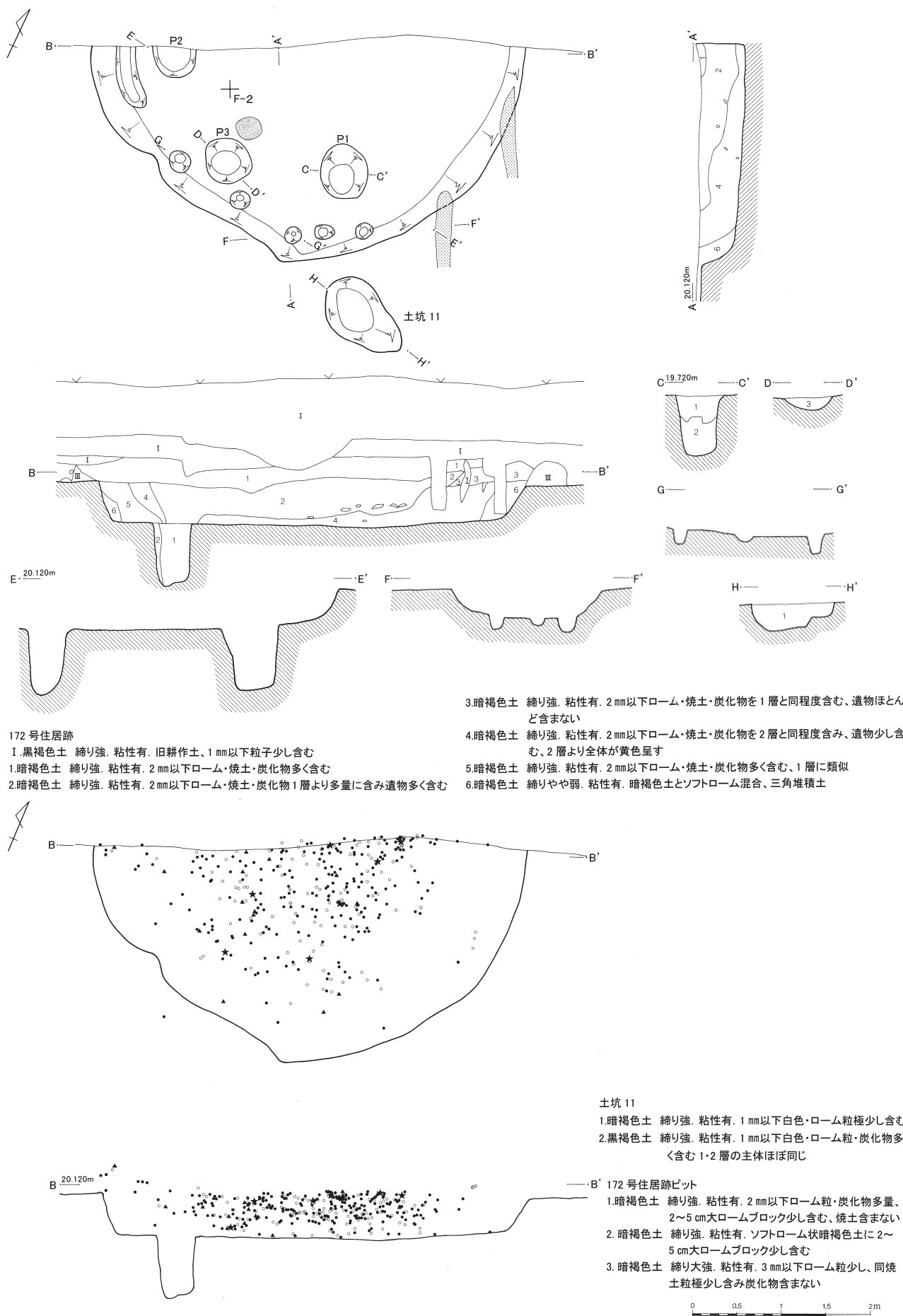
第27表 西ノ原遺跡173号住居跡ピット一覧表

単位：cm

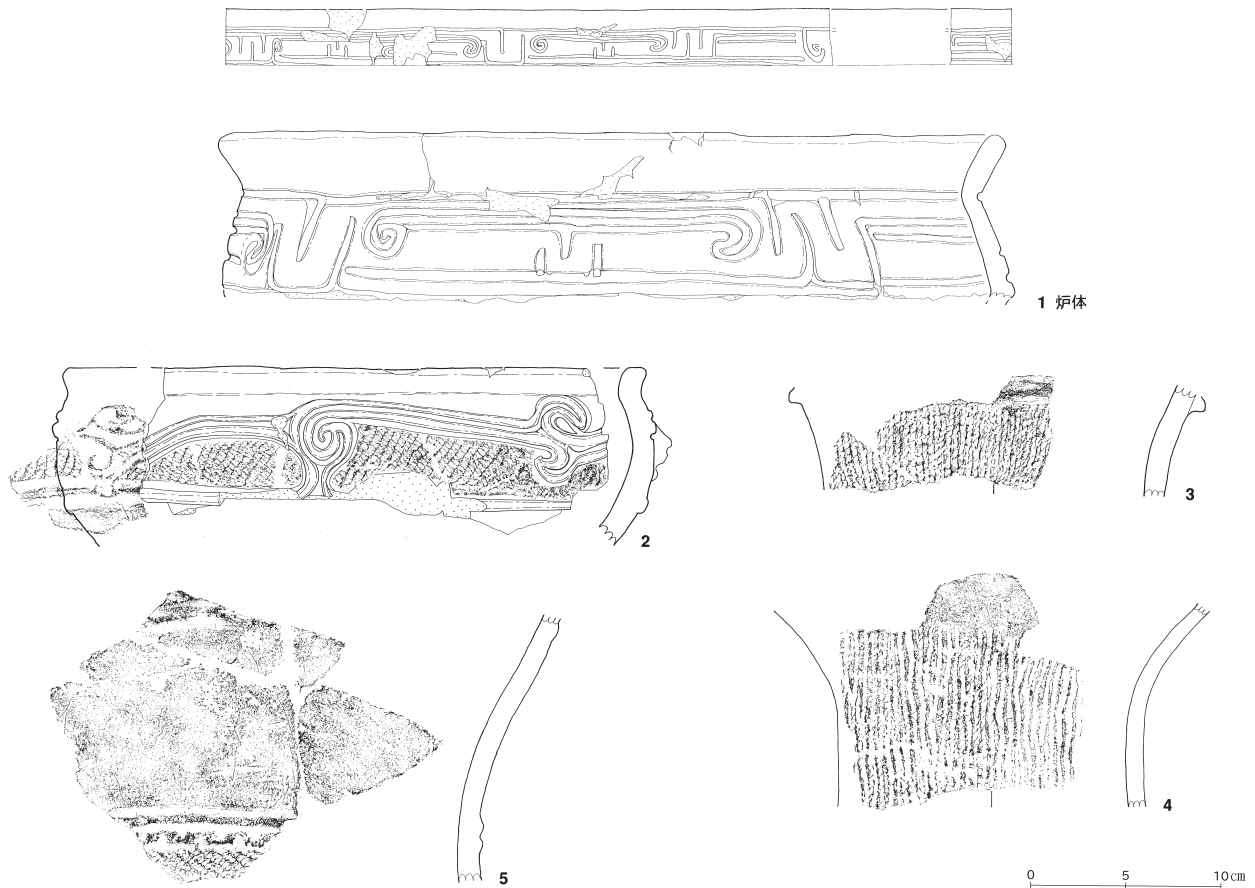
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	37～40	18	69.4	主柱穴
2	円形	40～50	14	61.5	主柱穴
3	円形	45～53	17～22	67.6	主柱穴
4	円形	42～50	15～20	58.0	主柱穴
5	円形	45	20～28	58.6	主柱穴
6	円形	52～62	34～36	26.1	
7	円形	40	24	24.9	

【出土遺物】1は炉体土器で遺存状態状態は悪く、深鉢の口縁部文様帯下部と頸部文様帯の20%強を遺存しており、口径50cm程の大型深鉢である。突出した渦巻文と楕円形区画を地文縄文のうえにつくる。胎土に白色砂粒・白色軟質物質・橙色粒子を多く含み、整形・焼成良好で赤褐色を呈する。口径に比べ頸部無文帯の幅が狭いのが特徴である。加曽利EⅠ新式古相。

2は住居跡南壁近くの床面下に埋設された埋甕で、口縁部を欠き、胴中央部以下を欠く。頸部無文帯下部に紐状の貼付文で横位の蛇状文2列を配する。胴部の地文はRL縄文で隆帯による蛇行と直下の懸垂文を4単位加える。曾利Ⅲ式古相の深鉢である。



第48図 西ノ原遺跡172号住居跡・遺物出土状況 (1/60)



第49図 西ノ原遺跡172号住居跡出土土器 (1/4)

3は小型深鉢で頸部以下を欠失し、推定口径15cm・現存部高8cmである。口唇部は内屈し口縁部は無文である。頸部には半截竹管による半隆帯による2本の沈線と頸部に2本の沈線をめぐらす。

4は173号住居跡覆土層出土の2片と171号住居跡覆土層出土の1片が接合した大型深鉢の胴部片で、地文は深く蜜に施文された撚糸文であり、隆帯貼付による蛇行懸垂文と2本組みの直下懸垂文4単位がある。加曽利EⅠ新式古相。

5は頸部無文帯を横位隆帯で区画し、胴部は地文縄文を施す、加曽利EⅠ新式新相。

⑪174号住居跡

【位置】調査区の東よりに位置し調査区外へ延びる。179号住居跡と重複し新旧関係は本住居跡が179号住居跡より古い。

【形状・規模】平面形は楕円形を呈するとみられ、規模は長軸5.55m、深さは最深部で30.5cmである。

住居跡の主軸はピット1・4の中間、炉、ピット2・3の中間を結ぶ線である。埋甕、周溝は確認されてい

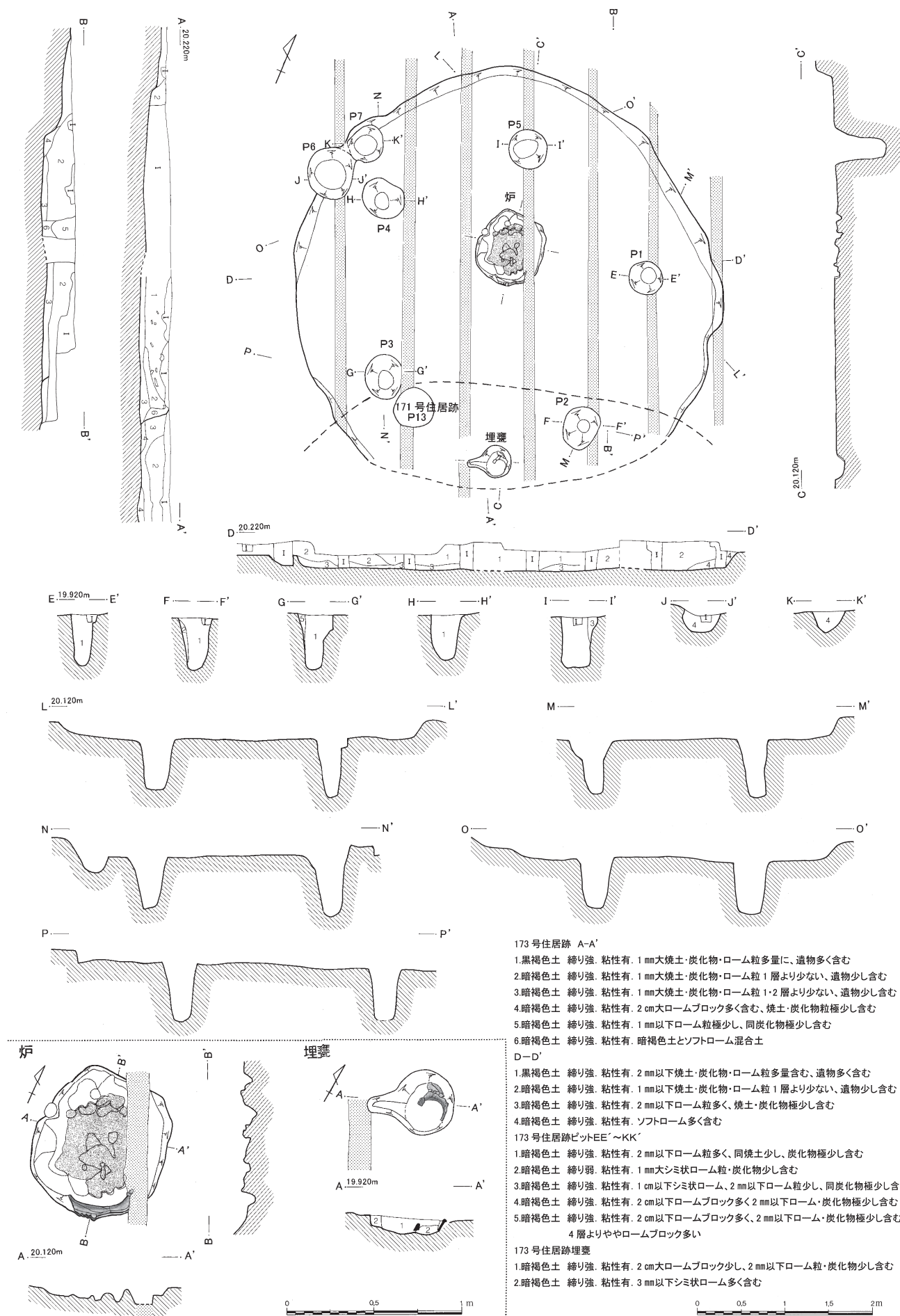
ない。

【炉】中央部に位置する。平面形は楕円形に近く、炉内底部はよく焼け中央部は焼土層が発達している。掘り込み面の規模は110×95cm、深さ17.6cmである。

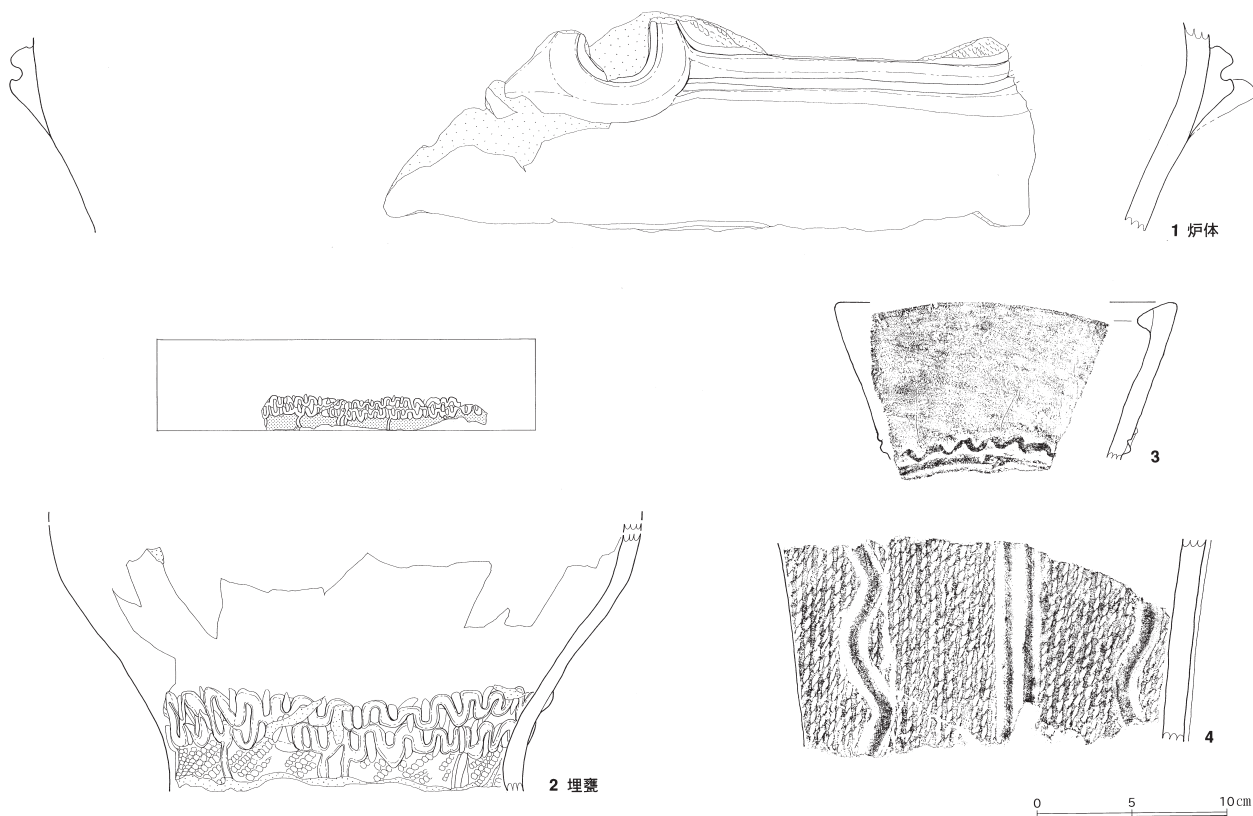
【ピット】重複する179号住居跡と合わせて12基検出した。そのうち本住居内にあるものは8基あるが、明確に本住居に伴うものは主柱穴のピット1～4である。他の4基のピットについては本住居跡に伴うものか179号住居跡に伴うものか不明である。ピットの平面形は円形を呈するものが多い。

【遺物出土状況】第52図1の土器は、口縁部を下にした状態でピット4西側の覆土層から出土した。覆土中層から上層にかけて土器片と礫が出土する。

【出土遺物】1は住居跡北西部壁際からピット4にかけて出土した。口縁部から胴中央部までをほぼ完存し、口径27cm強・現存部高20.6cmである。やや内湾する無文口縁の深鉢である。頸部から胴部にかけて地文は櫛状工具による条線を施し、頸部に半截竹管の内側を用いた2本の半隆帯をめぐらし、同様に2本組みの直下



第50図 西ノ原遺跡173号住居跡 (1/60)、炉・埋塞 (1/30)



第51図 西ノ原遺跡173号住居跡出土土器 (1/4)

懸垂文と蛇行懸垂文を3単位つくる。胎土には白色砂粒・橙色粒子を含み焼成良好で黄褐色から赤褐色を呈する。加曽利EⅠ式の新相。

2は地文LR縄文とする深鉢で、口縁部直下に3列の列点文を入れ、その下に3本組の連弧文をラフに入れる。頸部には2本の沈線をめぐらす。加曽利EⅡ式新相。

3は地文条線口縁の深鉢で、口唇部直下に2本の並行沈線をめぐらす。並行沈線の下には沈線による波線とその直下に沈線による蕨手状の文様を施し、なおかつ連弧文状を呈する。

第28表 西ノ原遺跡174・179号住居跡ピット一覧表

単位: cm

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	45	30	66.1	174住主柱穴
2	円形	48~(50)	23~25	49.8	174住主柱穴
3	円形	56~64	26~31	90.0	174住主柱穴
4	円形	55~60	20~24	79.2	174住主柱穴
5	円形	31~(36)	18~22	58.6	
6	円形	41~51	8~11	29.4	
7	円形	35~40	12~18	17.0	
8	円形	40~45	13~14	19.8	
9	円形	38~43	8	22.4	
10	円形	46~55	34~39	31.2	
11	円形	43~50	15~23	21.9	
12	円形	60	36~52	24.8	

⑫175号住居跡

【位置】調査区の中央部に位置し176号住居跡、180号住居跡、土坑9と重複する。新旧関係は176号住居跡より新しく180号住居跡より古い。また集石土坑1・2・5・7とも重複し、集石土坑のほうが新しい。

【形状・規模】柱穴の配置と周溝の状況から、東側に住居の拡張が行なわれたとみられる。当初の平面形は隅丸長方形にちかく、推定規模は長軸6.25×短軸5mである。

拡張後の平面形は隅丸五角形で、規模は長軸6.25×短軸(6.1)m、深さは最深部で38.9cmである。

拡張後の本住居跡の主軸は、ピット4・炉内埋設土器・ピット11を結ぶ線とみられる。

【炉】住居内の中央部に位置する。平面形は楕円形で、炉内底部はよく焼け焼土層が発達している。炉内南側に底部を欠損する縄文土器を正位に埋設する。掘り込み面の規模は137×117cm、深さ16cmである。

【周溝】周溝は住居内の東側で2重にめぐり、その他は1本である。拡張前の周溝は、隅丸長方形の住居壁際に位置したとみられる。拡張後はピット1・11の中間付近からピット4の東側まで外側に広がり住居の壁

際に位置した。上幅14～30cm、下幅6～16cm、深さ1.3～12.2cmである。

【ピット】重複する176・180号住居跡と合わせて15基検出する。ピット平面形は円形や楕円形を呈するものが多い。ピットの詳細は第29表のとおりである。

拡張後の支柱穴はピット1・2・3・4・13を結ぶ5本柱である。拡張前はピット6・7・10・15の4本柱が考えられるが、拡張前の周溝の配置よりかなり内側となることから、他遺構の重複などの可能性も考えられる。また、土層の確認からピット5は拡張前の周溝より古い。さらにピット8は180号住居跡の可能性もある。

【遺物出土状況】集石土坑1・2・5・7以外にも覆土層から大量の焼けた礫と土器片が出土する。土器は破片のことが多い。

【出土遺物】1は炉体土器の小型深鉢で、口縁部から胴中央部までを完存し、口径16cm・現存部高8cmである。地文は半截竹管状工具の内側による半隆帯状の沈線列で、口縁下に3本組みの鋭い連弧文をめぐらす。胎土には大量の白色粒子と若干の黒色粒子を含み、赤褐色を呈する。加曽利EⅡ式新相。

2は覆土下層出土の深鉢で口縁部文様帯と胴最下部を欠失し、頸部径25cm・現存部高28cmである。頸部から胴上半部は太く深い横位の半隆帯文、胴下部は同様の手法による縦位の半隆帯文で充填する。頸部には横位の蛇行隆帯を貼付する。胴上部には2本組の垂下する隆帯を貼付、胴下部には隆帯の蛇行懸垂文を16単位貼付ける。胎土には白色・茶褐色の微砂粒を多く含み、黄褐色ないし暗褐色を呈する。曽利Ⅱ式である。

3は有孔罎付土器片で、口縁端と胴上部を遺存するが、胴部は球形で細縄文を弧状に大きく磨消す。罎部を貫通する円孔が約6cmおきにみられる。茶・黒・白色の細砂粒が胎土に多く含まれる。整形は極めて入念で丁寧な磨消しである。加曽利E式後半で細分は困難。4は口縁部から胴中央部までの40%を残す深鉢で、地文は櫛状工具による条線で、口縁下に3本、胴上部と胴中部境に2本の横位の沈線をめぐらす。胴上部には2本組沈線による、「人」状と「人」の両端が渦巻く沈線文を交互に施し、連弧文状を呈する。胎土には粗砂粒と白色砂粒を多く含み、赤褐色～暗褐色を呈する。

加曽利EⅡ式新相からEⅢ式といえる。

5は櫛状工具による条線文を地文とする小型深鉢で、口径16cm、現存部高8.5cmである。口縁部直下と頸部にそれぞれ2本のラフな沈線をめぐらす。加曽利EⅡ式末～EⅢ式期の条線文土器である。

第29表 西ノ原遺跡175号住居跡ピット一覧表

単位：cm

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	46～56	28～30	107.3	支柱穴
2	円形	54～56	28～31	71.1	支柱穴
3	円形	48～55	31～33	96.3	支柱穴
4	円形	54～57	40～43	86.3	支柱穴
5	円形	46～51	28～33	74.5	旧支柱穴？
6	円形	40～59	17～25	68.5	旧支柱穴？
7	円形	34～37	17～24	68.6	旧支柱穴？
8	円形	46～47	23～32	35.8	180号住居穴？
9	円形	26～28	13	51.6	
10	楕円形	38～54	23～28	67.7	旧支柱穴？
11	円形	24～31	13～15	23.9	
12	円形	41～45	24～26	13.0	旧支柱穴？
13	楕円形	40～50	23～30	99.6	支柱穴
14	楕円形	41～52	23～28	112.8	176号P7
15	楕円形	35～48	16～18	60.5	旧支柱穴？

⑬176号住居跡

【位置】調査区の中央部に位置し175号住居跡・177号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡が175号住居跡・177号住居跡より古い。

【形状・規模】柱穴の配置と周溝の状況から、住居の拡張が行なわれている。当初の平面形は隅丸方形にちかく、推定規模は長軸4.95×短軸4.85mである。

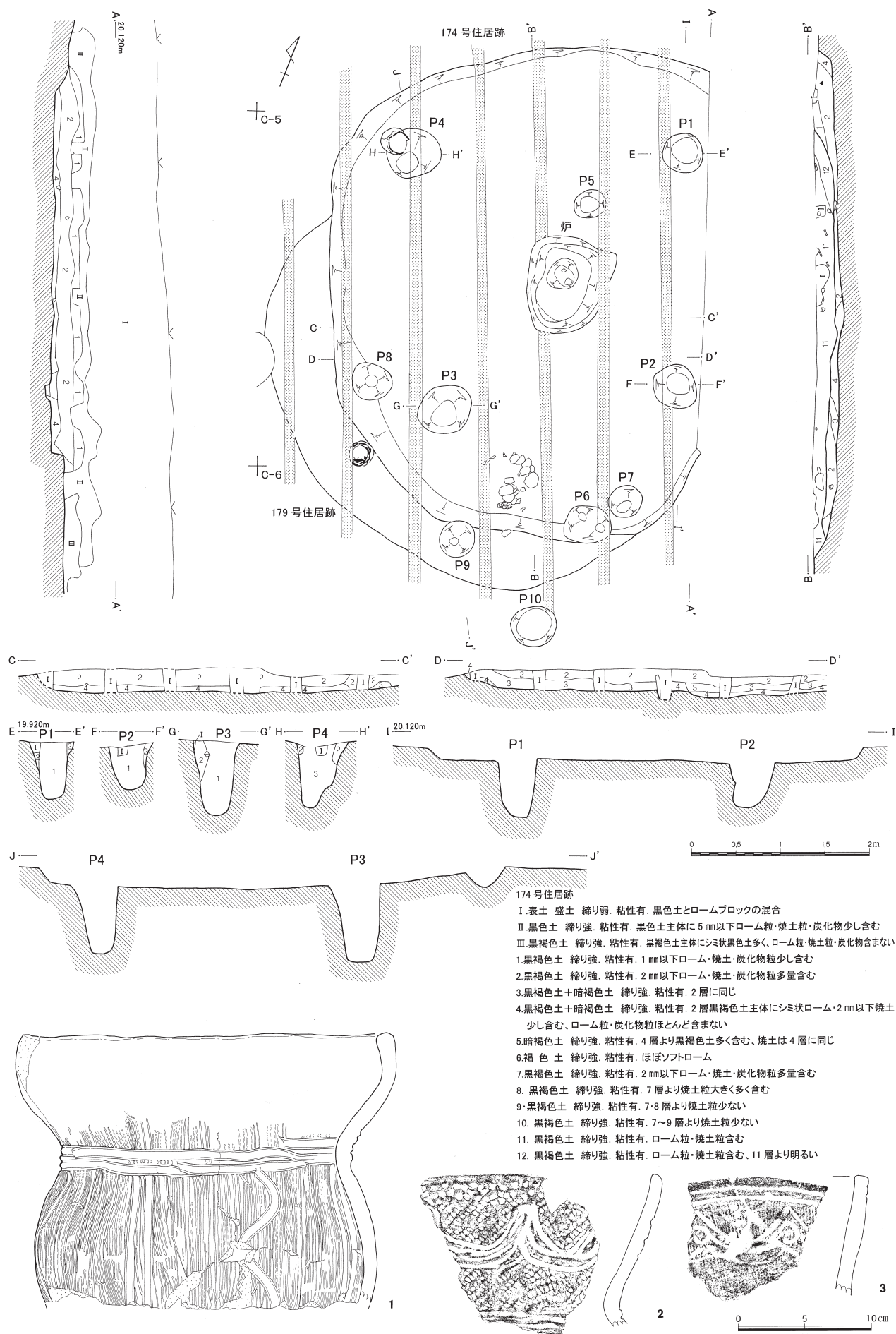
拡張後の平面形は隅丸長方形で、規模は長軸6.83×短軸5.85m、深さは最深部で78cmである。

拡張前の本住居跡の主軸はピット3・13を結ぶ線である。拡張後の主軸は、ピット4・炉内埋設土器・ピット15・16の中間を結ぶ線である。

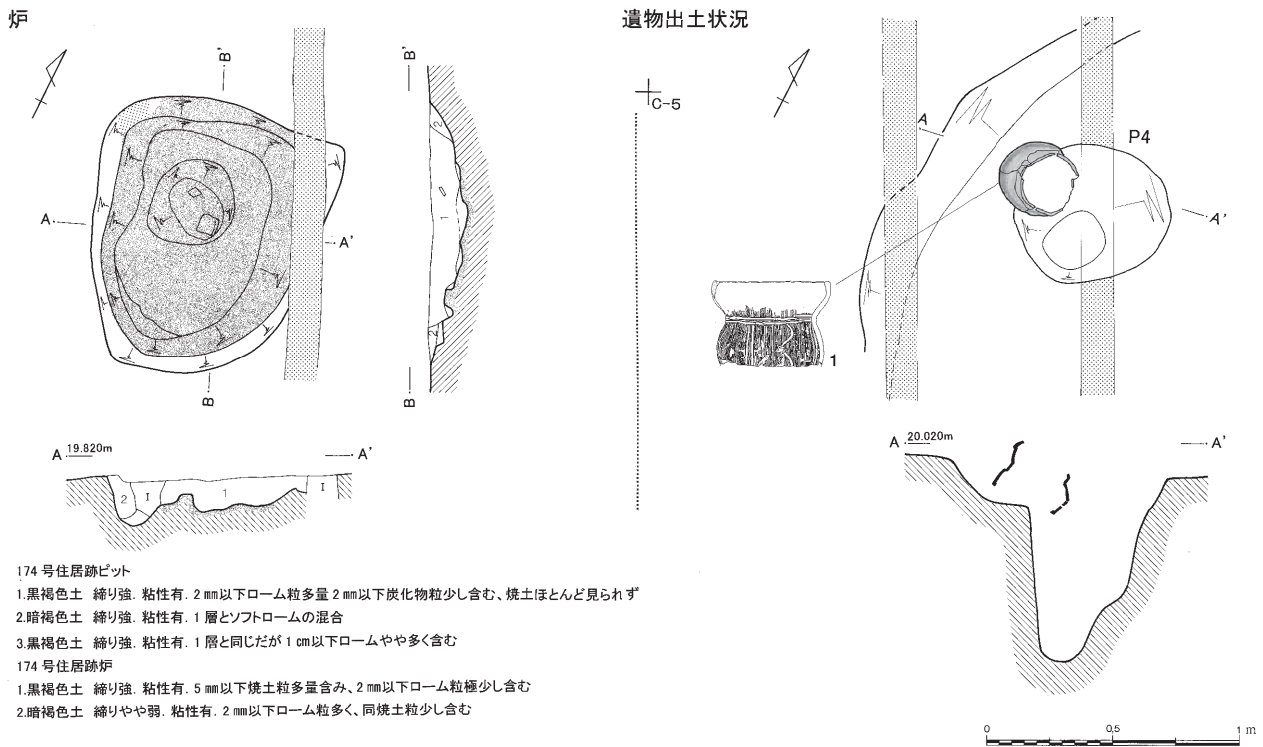
【炉】住居内の中央部やや北よりに位置する。平面形は楕円形で、炉の南側がよく焼け焼土層が発達している。炉内中央に底部を欠損する縄文土器を正位に埋設する。掘り込み面の規模は86×70cm、深さ37.6cmである。

炉跡の他に住居中央部とやや南側に床面が被熱した直径20～25cmの焼土面が広がる。

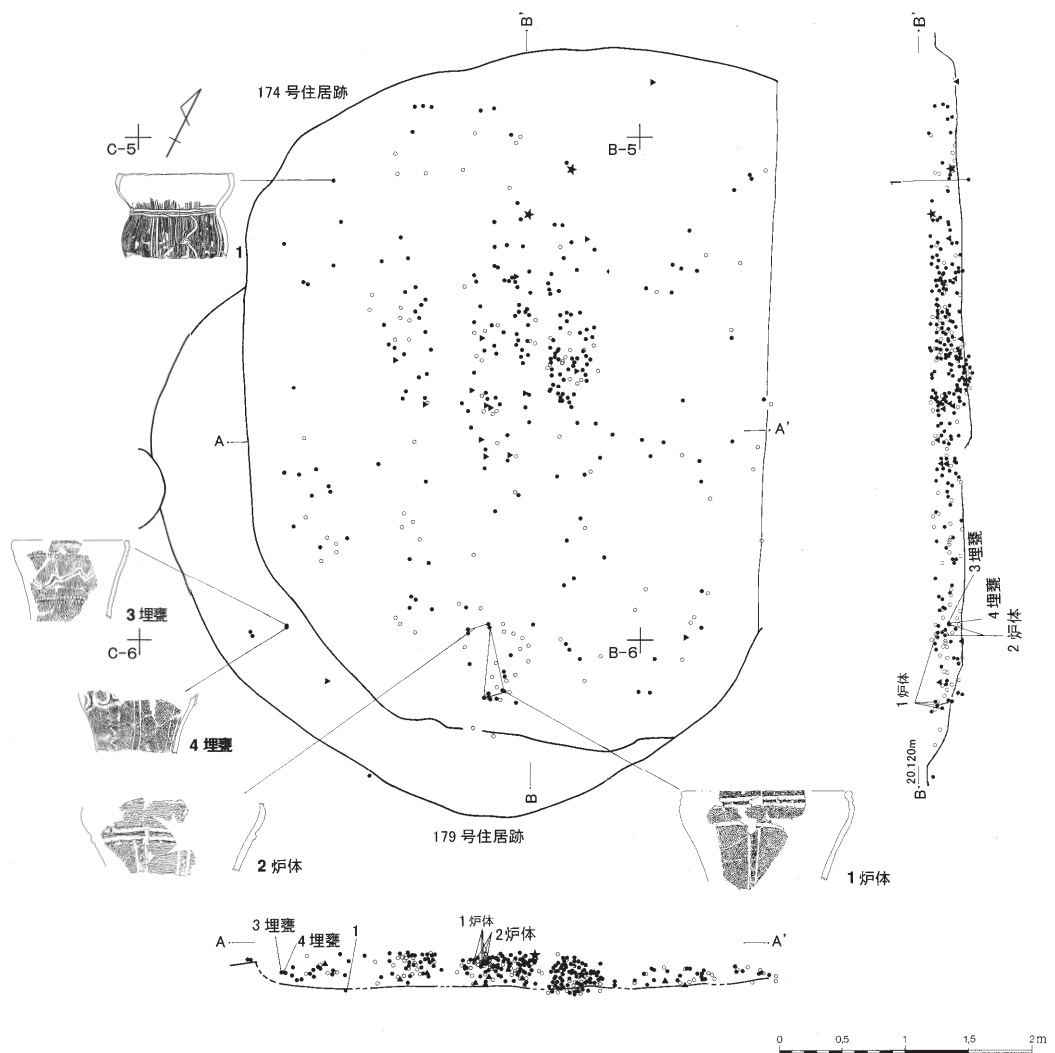
【周溝】周溝は住居跡南側の出入り口とみられる部分が3重になる他は2重にめぐらる。拡張前の周溝は、隅丸方形の住居壁際に位置したとみられる。拡張後は四方に広がるが、特に東・南・西方向への拡張が顕著である。拡張前の周溝は上幅15～35cm、下幅5～15cm、



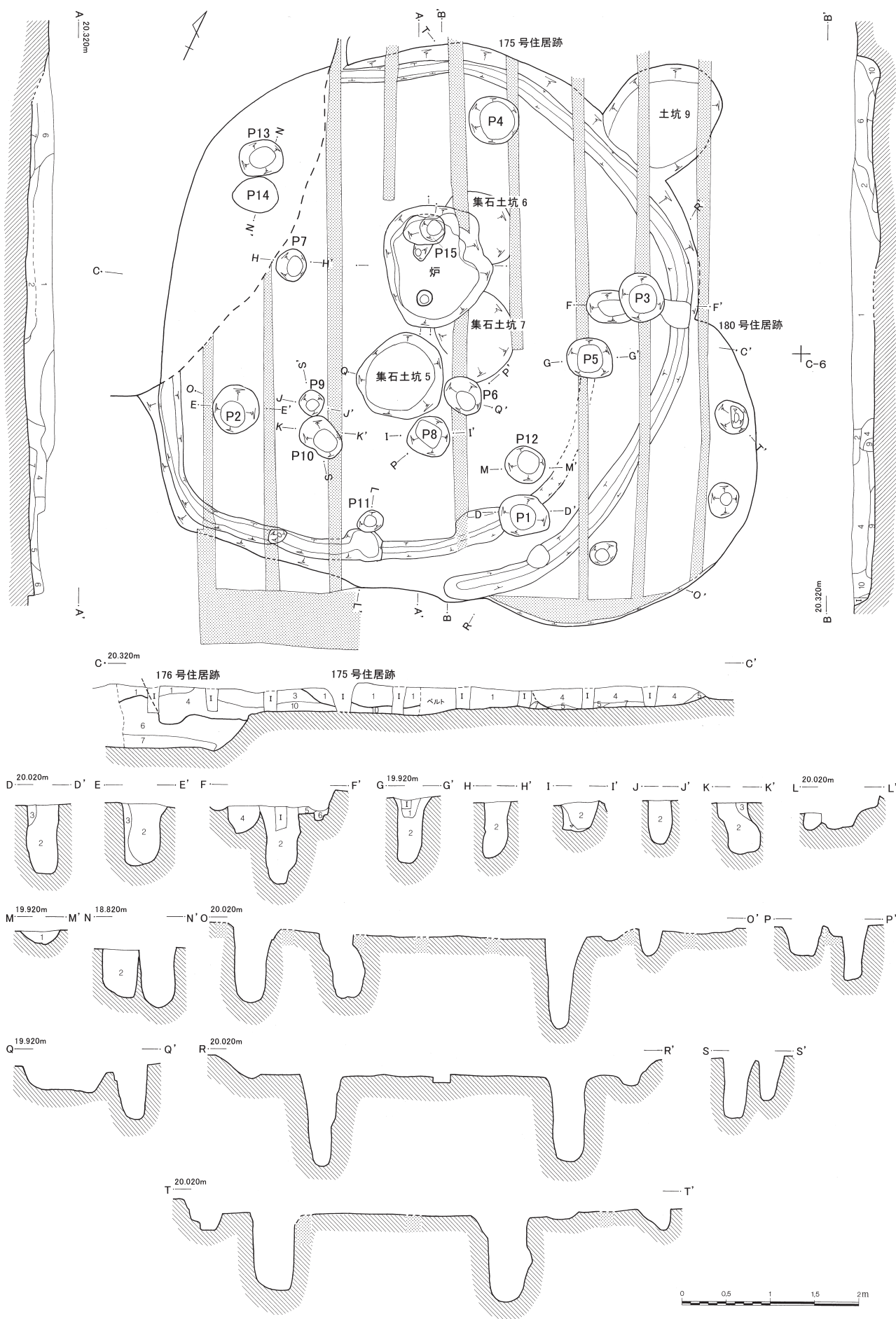
第52図 西ノ原遺跡174号住居跡 (1/60)、出土土器 (1/4)



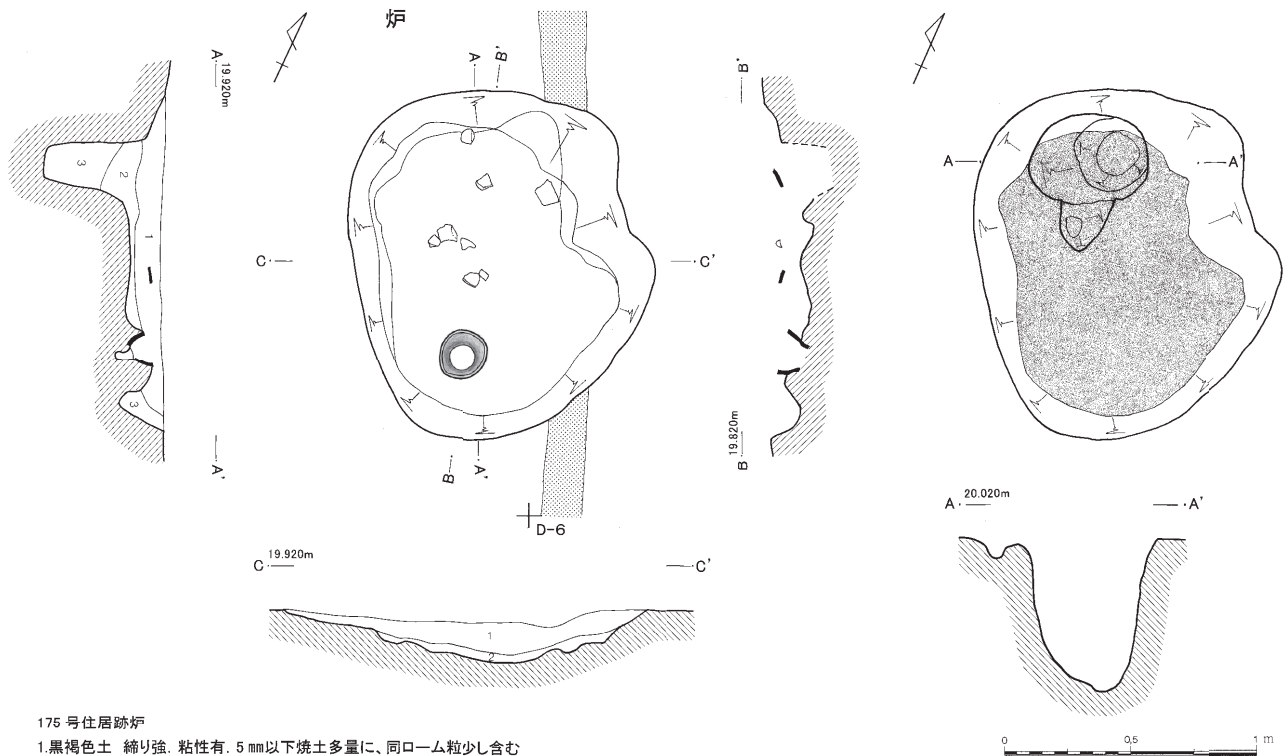
遺物出土状況



第53図 西ノ原遺跡174号住居跡炉・埋壺 (1/30)、遺物出土状況 (1/60)



第54図 西ノ原遺跡175号住居跡 (1/60)



175 号住居跡炉

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、5 mm以下焼土多量に、同ローム粒少し含む
- 2.暗赤褐色土 締り強、粘性有、シミ状焼土多量に、ローム粒・炭化物ほとんど含まない
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下焼土粒極少し含む、同ロームやや多く含む

175 号住居跡

I. 表土 盛土 締り弱、粘性有、黒色土とロームブロック混合

- 1.黒色土 締り強、粘性有、5 mm以下焼土粒と礫多量に、1 mm以下ローム粒と2 mm以下炭化物多く含む
- 2.黒色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒多量に同炭化物多く、1 mm以下焼土極少し含む
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒多く、炭化物と焼土粒ほとんど含まない
- 4.黒褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒多く、同炭化物・焼土粒極少し含む
- 5.黒褐色土 締り強、粘性有、4 層に類似するがローム粒を含む割合が僅かに少ない
- 6.黒褐色土 締り強、粘性有、5 層に類似するが2 cm以下ロームブロック多く含む
- 7.暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色ロームベースに 4～6 層シミ状に含む、180 号住居跡床面又は 175 号住居跡床直上覆土
- 8.黒褐色土 締り強、粘性有、4～6 層に類似、2 mm以下ローム粒多く、焼土・炭化物ほとんど含まない

- 9.黒褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒多く、同焼土・炭化物少し含む、7 層よりローム粒等多く含むがほぼ同一層

10.暗褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下シミ状ローム・炭化物少し含む

※1 層集石土坑覆土、2・5～7 層は 180 号住居跡覆土、4・8～11 層は 175 号住居跡覆土

175 号住居跡ピット

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、5 cm以下ロームブロック多く含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒多く、同炭化物やや多く含む
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒多く(2 層より少ない)、同炭化物極少し含む
- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒少し、同炭化物極少し含む
- 5.黒褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒少し、炭化物・焼土含まない
- 6.暗褐色土 締り強、粘性有、ローム質でローム粒少し含む以外は何も含まない

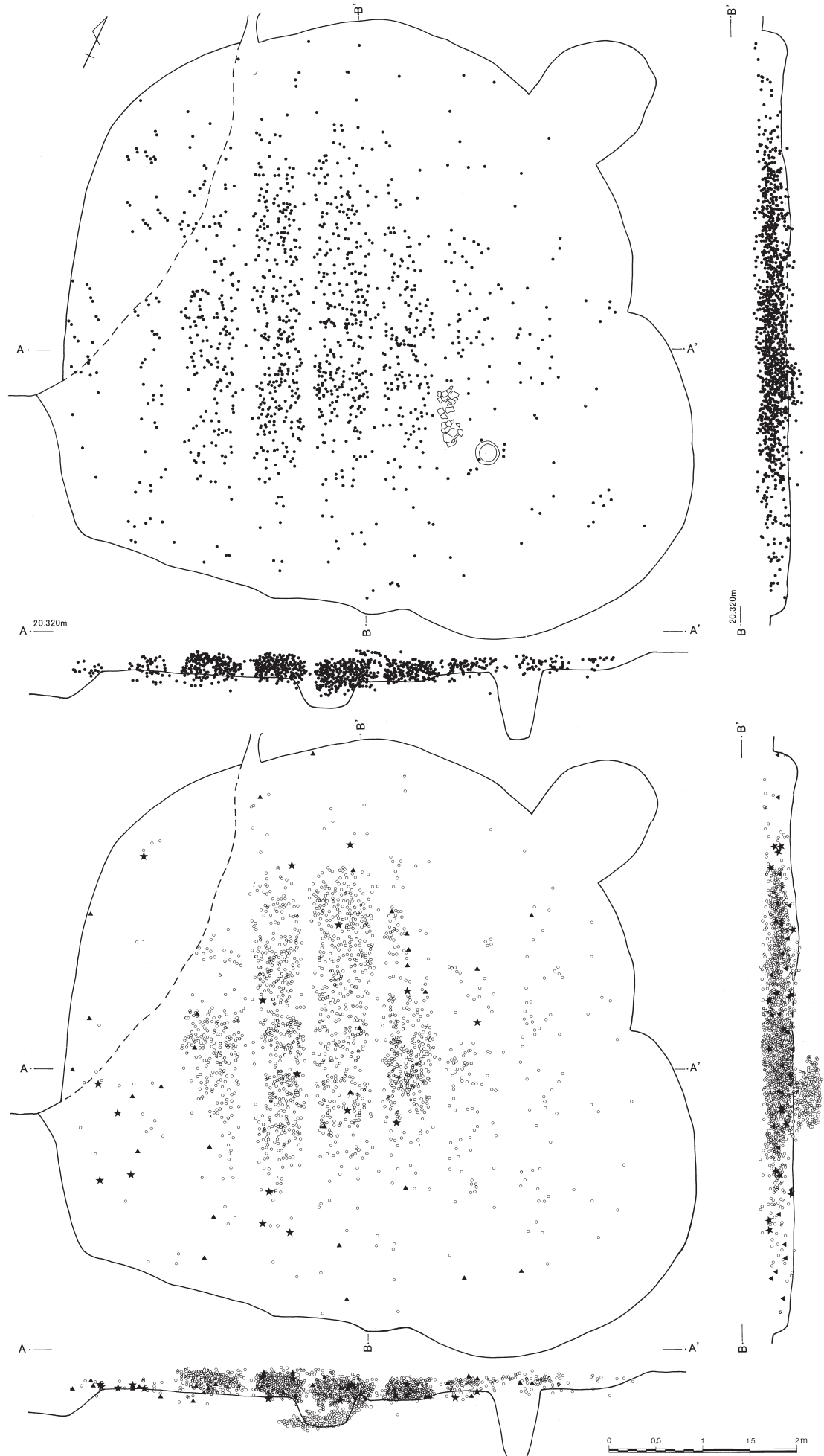
第55図 西ノ原遺跡175号住居跡炉 (1/30)

第30表 西ノ原遺跡176号住居跡ピット一覧表

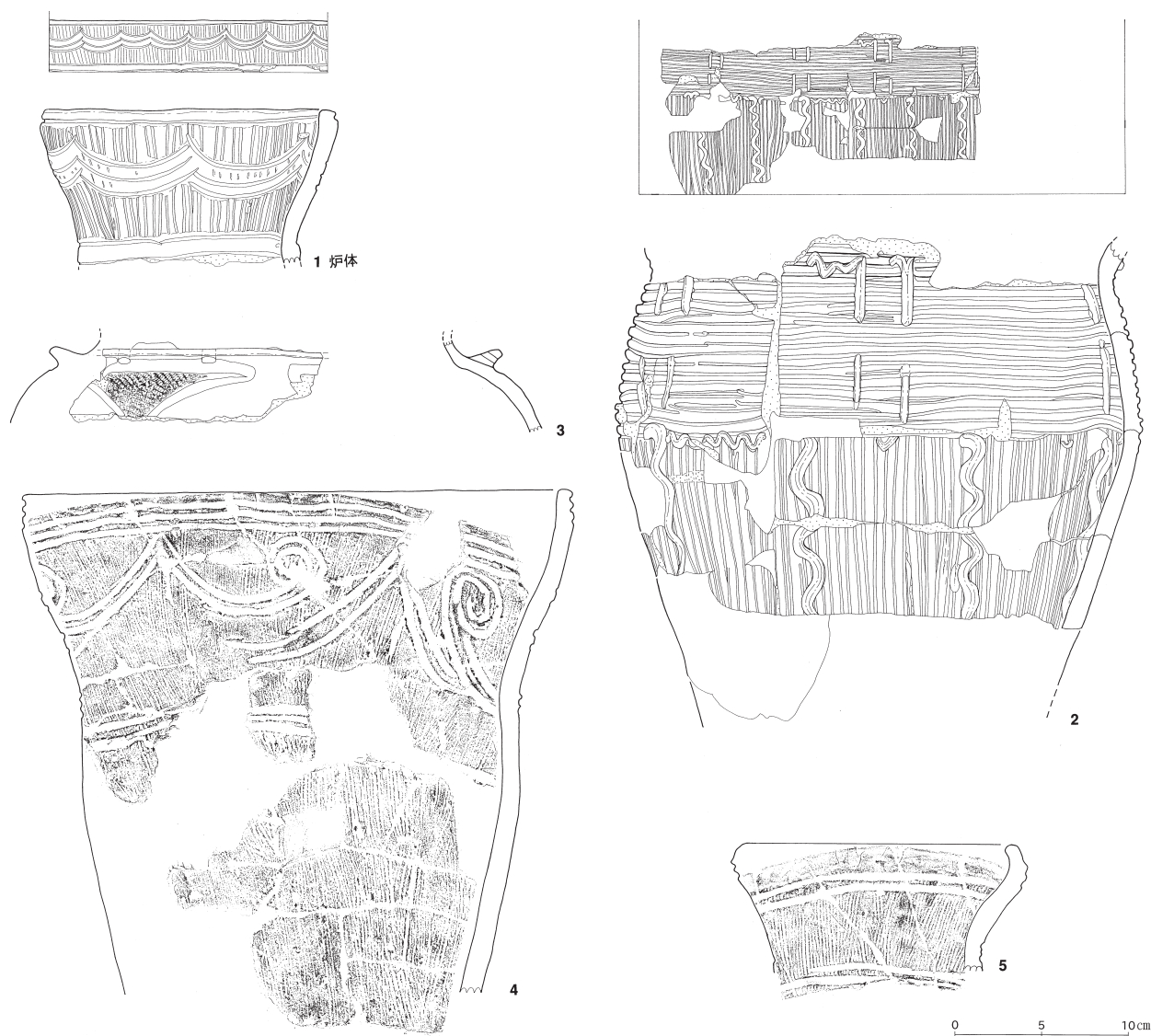
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	50～65	38	83.0	新主柱穴
2	楕円形	53～61	33～43	61.0	古主柱穴
3	円形	(50～70)	22～48	52.0	古主柱穴
4	楕円形	35～45	28～32	60.0	新主柱穴
5	円形	60～66	34～43	62.0	古主柱穴
6	方形	38～40	28～32	62.0	新主柱穴
7	楕円形	42～55	23～27	66.0	新主柱穴
8	円形	50	30～36	70.0	古主柱穴
9	円形	42～50	21～23	77.0	新主柱穴
10	楕円形	(32～42)	19～25	60.0	
11	楕円形	50～61	40～42	64.0	古主柱穴
12	円形	38～41	16～24	82.0	新主柱穴
13	不明	40～45	21～23	21.0	
14	円形	18～21	9	47.2	
15	円形	34～36	23	74.0	古柱穴
16	円形	(35～47)	22～27	64.6	古柱穴

単位：cm

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
17	円形	30	18	45.3	新柱穴
18	円形	30～34	13～19	65.1	新柱穴
19	楕円形	16～24	8～11	25.1	
20	円形	20	9～11	24.8	
21	楕円形	10～20	5～6	22.5	
22	円形	15～16	3～6	25.4	
23	楕円形	22～25	6～10	18.5	
24	楕円形	17～28	6～10	28.7	
25	円形	20	9～13	27.6	
26	円形	18	9	34.5	
27	卵形	22～34	9	35.5	
28	楕円形	16～30	6～10	46.9	
29	楕円形	13～24	8～15	24.4	
30	楕円形	15～24	9～16	28.0	
31	楕円形	16～25	9～15	23.4	
32	楕円形	13～21	5～11	35.5	



第56図 西ノ原遺跡175・180号住居跡遺物出土状況 (1/60)



第57図 西ノ原遺跡175号住居跡出土土器（1/4）

深さ6.7～27.9cmである。拡張後の周溝は上幅18～31cm、下幅8～22cm、深さ4.6～26.6cmである。

【ピット】支柱穴と小ピット合わせて32基検出する。ピットの平面形は円形や楕円形を呈するものが多い。

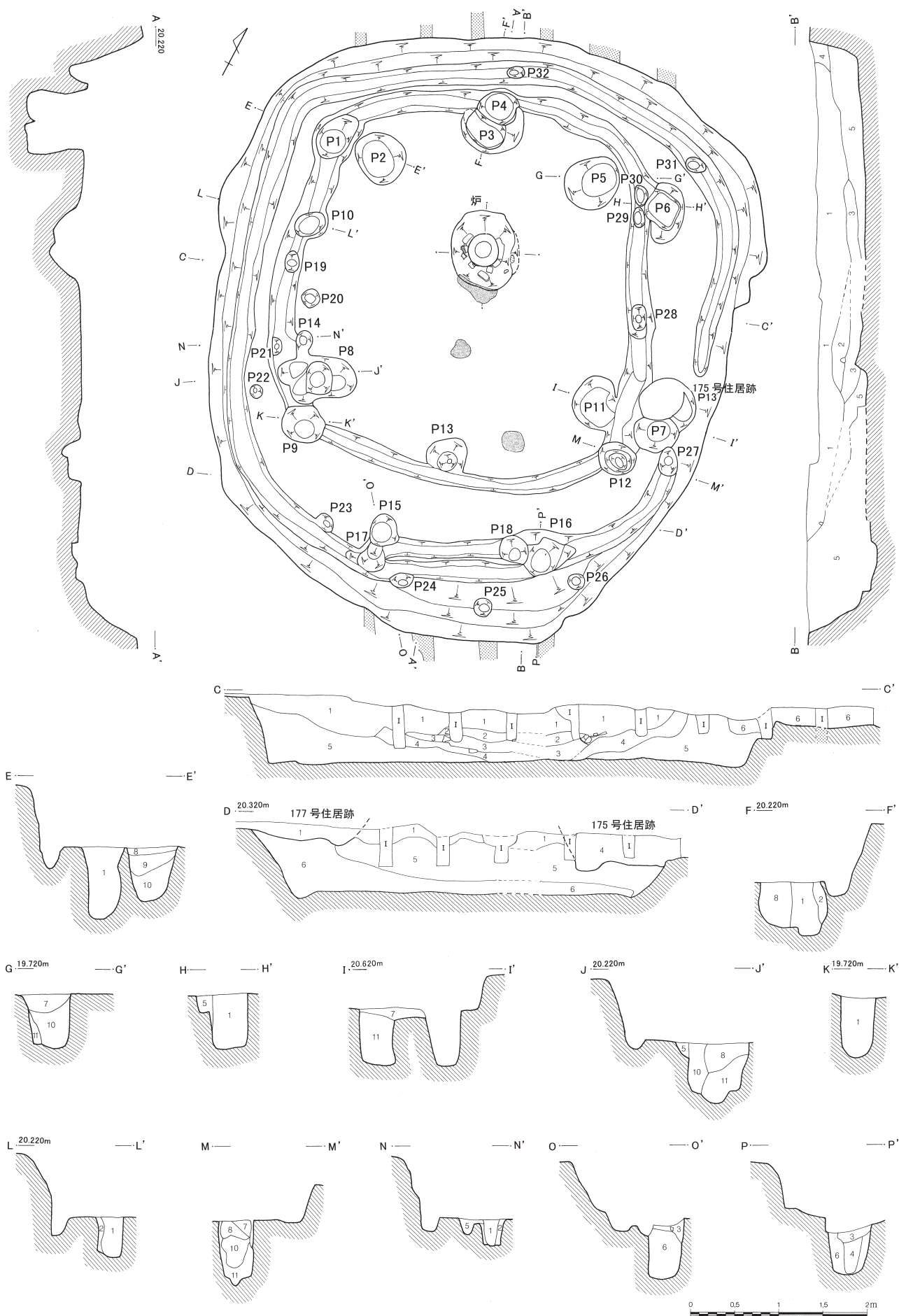
拡張前の支柱穴はピット2・3・5・8・11を結ぶ5本柱である。拡張後はピット1・4・6・7・9を結ぶ5本柱に、出入り口部分の2本ピット15・16（旧）、17・18（新）を加えた7本柱が考えられる。ピットの詳細は第30表のとおりである。

【遺物出土状況】覆土層から完形に近い土器を含む大量の土器片が出土する。住居跡が廃棄された後、自然堆積する過程で窪地を利用し、土器などを廃棄したものとみられる。

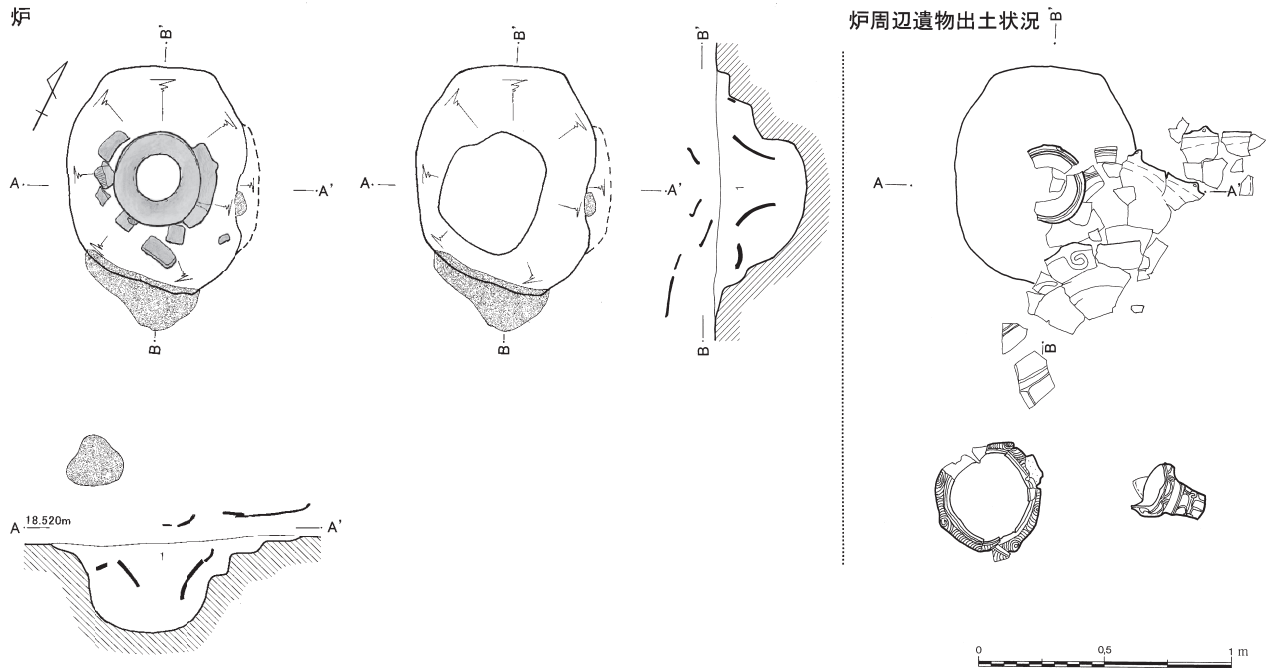
【出土遺物】1は炉体土器であり、口縁部文様帯から

胴中部までを完存する。口縁部推径45cm以上、現存部高24cm。口縁部文様帯は、沈線と半隆帯による渦巻文をつなぎ文様に連続する。幅広い頸部無文帯と胴部間には2本の横位の隆帯をめぐらす。胴部文様は重弧状の大渦巻き5を半隆帯でつくり、渦巻間に2本の半隆帯を縦位に入れて区画する。文様は全て半隆帯・沈線のみであるという特徴をもつ。加曽利EⅠ新式古相併行の異系統土器。

2は口縁部から胴下半までをほぼ完存する大型深鉢で、口径32cmから36cm、現存部高37.4cmである。口縁部文様帯は半截竹管状工具と棒状工具による半隆帯で描かれた渦巻8単位であり、1つおきに渦巻中央部が前上方に中空に突出し、その部分の口縁部が小波頭をなす。幅広い頸部無文帯下の胴部文様帯は、半隆帯に



第58図 西ノ原遺跡176号住居跡 (1/60)



176号住居跡

1.表土 盛土 締り弱. 粘性有. 黒色土とロームブロック混合

1.黒色土 締り強. 粘性有. 2mm以下ローム・焼土・炭化物多く含む

2.黒褐色土 締り強. 粘性有. 2mm以下ローム粒. 5mm以下焼土・炭化物多量に含み全体に焼土の影響で赤褐色呈す

3.黒褐色土 締り強. 粘性有. 2mm以下ローム粒. 5mm以下焼土・炭化物多量に含む. 2層と異なり赤褐色ではない

4.黒褐色土 締り強. 粘性有. 2mm以下ローム粒多量に. 住居中心部で2mm以下焼土・炭化物多く含む

5.暗褐色土 締り強. 粘性有. 2mm以下ローム粒多量に. 同焼土・炭化物極少し含む

6.暗褐色土 締り強. 粘性有. 5層とほぼ同じだがややローム粒少ない. 5層同一層

176号住居跡ピット

1.黒褐色土 締り弱. 粘性有. 2mm以下ローム粒多く. 5mm以下炭化物少し含む

2.暗褐色土 締り強. 粘性有. ローム主体 2mm以下ロームブロック多く含む. 又は黒褐色土でローム極少し含む

3.黒褐色土 締り弱. 粘性有. 黒色土含む. 下層2cm大ロームブロック少し含む

4.黒褐色土 締り弱. 粘性有. 2cm大ロームブロック多く含みボロボロで締り弱い

5.暗褐色土 締り超強. 粘性有. 2cm以下ロームブロック多く. 焼土・炭化物ほとんど含まない. 8層より粘性強い

6.暗褐色土 締り弱. 粘性有. 4層よりロームブロック少ない

7.暗褐色土 締り超強. 粘性有.

8.暗褐色土 締り超強. 粘性有. 3mm以下ローム粒・炭化物少し含む. 貼床

9.黒褐色土 締り弱. 粘性有. 5mm以下ローム粒少し含む

10.暗褐色土 締り弱. 粘性有. 2mm以下ローム粒少し. 3cm以下ロームブロック多く含む. 焼土・炭化物含まない(ピット8は2mm以下焼土・炭化物多く含む)

11.暗褐色土 締り弱. 粘性有. 2mm以下ローム粒少し. 2cm以下ロームブロック多く. 焼土・炭化物含まない

12.暗褐色土 締り弱. 粘性有. 5cm以下ロームブロックとソフトローム混合

176号住居跡炉

1.黒褐色土 締り弱. 粘性有. 1mm大焼土粒多く. 同ローム粒・炭化物少し含む

第59図 西ノ原遺跡176号住居跡炉・土器出土状況① (1/30)

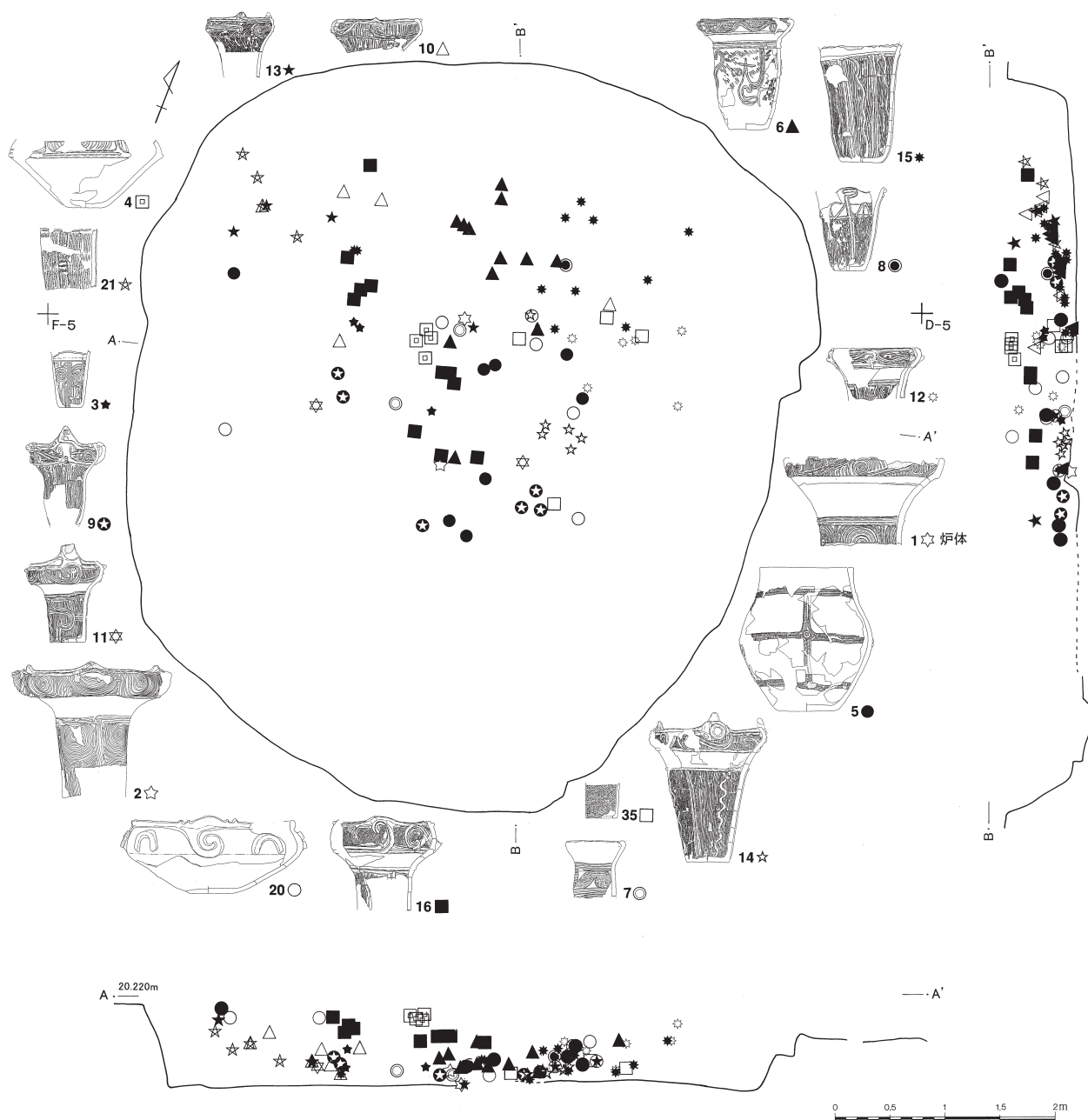
よる大渦巻文4個と区画間に各2本の半隆帯を施す。胎土には白色粒子・橙色粒子のほか若干の細砂粒を含み、整形・焼成良好で黄～赤褐色を呈する。口縁下部の歪みは、焼成前に打撃を受けたものとみられる。胴部文様帯は1の炉体土器と相似する。加曽利EⅠ新式古相併行の異系統土器である。

3は口縁下部から底部までの80%を遺存する筒形小型深鉢で現存部高15cmである。頸部無文帯と胴部文様帯の間には横位の半隆帯と沈線がめぐる。胴部文様の上半は沈線による半隆帯状渦巻文で下半は不定形の縦長沈線で半隆帯状に直下する3本組沈線によって5単位つくられる。胎土には、茶褐色・白色・橙色粒子が多く含まれる。沈線のみで、異系統の天神山式に近い。

4は浅鉢で、口縁部文様帯下半から底部までの約30%を遺存し最大径42.8cm・底径13cm・現存部高16cmで

ある。口縁部は体部上端から内傾するが、棒状工具による弧状沈線列半隆帯状を呈し区画内中央は渦巻く。体部の高い浅鉢で胎土には角閃石・白色微砂粒を含み、整形良好で黒斑のほかは黄褐色を呈する。加曽利EⅠ新式古相に併行する異系統の土器である。

5は大型の樽形土器で、口縁部から底部までの40%を遺存する。推定口径26cm・底径16cm・現存部高40cmである。無文の直口に近い内傾の口縁部には小孔がないが器形・規模・文様構成共に東台遺跡第12地点屋外埋甕出土の有孔罎付樽形土器に酷似する。口縁部直下と胴中央部と胴最下部を、刻目のある隆帯を貼り付け、撚った2本組みの紐で胴全体を上下に4ヶ所縛った形をつくる。胴中央の隆帯が交差する部分にはへそ状の円形隆帯が貼り付けられている。これ以外の無文部はきれいに撫で整形をされている。胎土には白色・茶褐



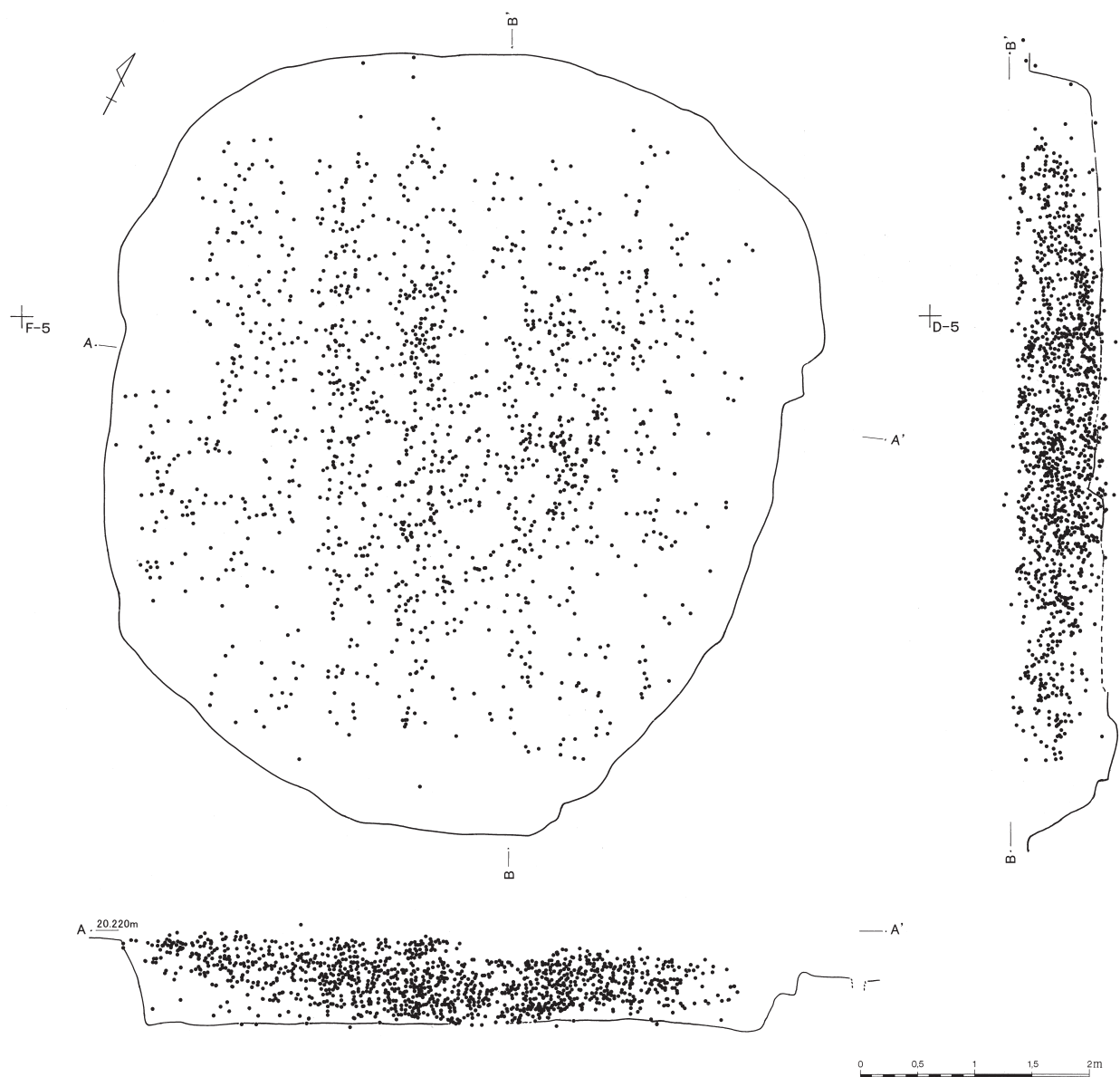
第60図 西ノ原遺跡176号住居跡土器出土状況② (1/60)

色粒子を多く含み焼成良好で赤～黄褐色を呈する。集落の祭祀に使用されたものの可能性が高い勝坂Ⅲ式である。

6 は口縁部文様帯・頸部無文帯・胴部文様帯をもつほぼ完存の中型深鉢で、口径24cm・器高30.5cmである。口縁部文様帯の地文は、連続三角押引文を密にめぐらせ、貼付隆帯で渦巻文とつなぎ文を入れる。幅狭の頸部無文帯は良く撫で整形されている。胴部の地文は短い原体を用いた縄文であり貼付隆帯で十字形や鋸形などを不定形につくる。胎土にはガラス質粒子・白色粒子などを含み焼成良好である。整形も良い。7 の土器

と同様の地文は特徴的で大木8 a 式の特徴をもつ異系統土器である。

7 は無文口縁の小型深鉢で、口縁部から胴中央部までをほぼ完存し、口径15.5cm・現存部高16cmである。上部がやや広がる無文口縁部下の胴部文様帯は、上・下を各4本の沈線をめぐらす。区画内には15段の連続小押文(矢状)列を施し、その上をコンパス状の曲線による区画をつくり、その間を丁寧に磨消す。胎土には石英、白色・茶褐色・橙色粒子を含み整形と施文も入念で焼成良好で暗褐色～赤褐色を呈する。稀な手法をもつ土器であり、勝坂Ⅲ式～加曽利EⅠ式併行の



第61図 西ノ原遺跡176号住居跡土器出土状況③ (1/60)

曾利式系土器である。

8は波状口縁の筒形に近い小型深鉢であり80%を遺存し、口径26cm・器高27cmである。無文の波状口縁で、波頭部に蛇頭状貼付隆帯を胴下部まで垂下させる。頸部にあたる部位には粘土紐を波状又は山形に貼付する。胴部の地文は、深く縦位に施文された撚糸文である。胎土に粗砂粒・白色粒子・橙色粒子を含み、焼成良好で黄褐色を呈する。6～8は加曾利E I 古式併行の異系統土器である。

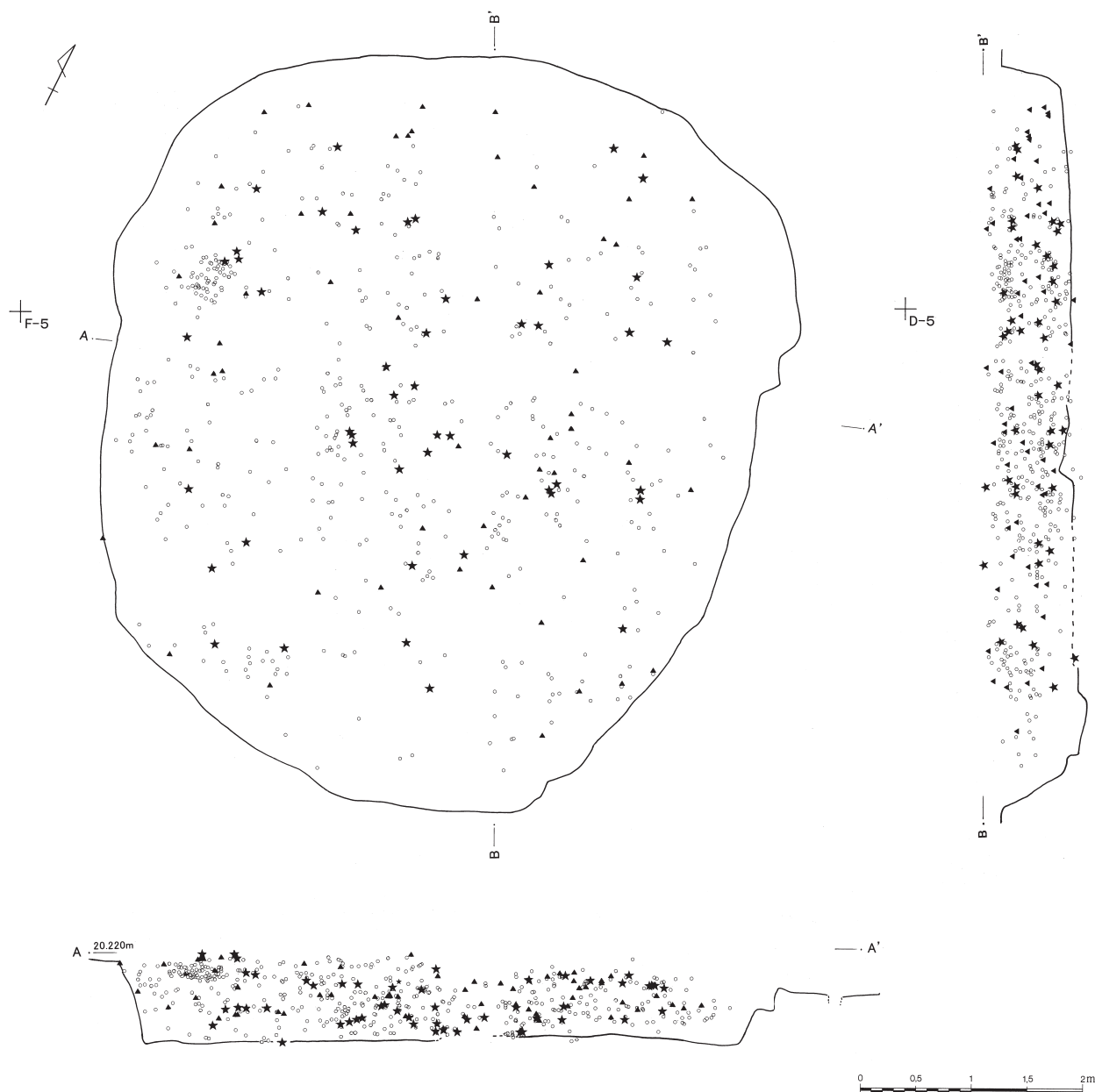
9は胴最下部の一部と底部を欠く小型深鉢である。口縁部文様帯の正面に中空把手が突出しその上方が山形となり渦巻文を配する。口縁部は横位に施文された撚糸文の上に貼付隆帯を端が渦巻く「∞」字状に貼り

付ける。胴部は細い撚糸文を深く施文するのみ。典型的な加曾利E I 古式。

10は平縁の深鉢で胴部中位以下を欠く。口縁部最大径25cm・現存部高9.8cmである。口縁部の地文は条間が空いた撚糸文で、口縁部は2本組み隆帯で端が渦を巻く繋ぎ文をつくる。口縁部と胴部の間に横位の隆帯1本を入れる丁寧に作られた土器で、加曾利E I 古式。

11は小型深鉢で口径19cm・現存部高27.2cmである。口縁部は高い山形把手をもち隆帯で繋ぎ文を作り端は大きく渦巻く。頸部無文帯の幅が狭い特徴をもつ。胴部の懸垂文は唐草状端部となる。口縁部、胴部共に地文は縦位の撚糸文を施す。

12は中型深鉢で口径22cm・現存高14.6cmである。口



第62図 西ノ原遺跡176号住居跡石器・礫出土状況 (1/60)

縁部は隆帯で楕円形区画を配し、間に簡略化された渦巻文4単位つくる。無文帯の幅は狭く、胴部は2本組み直下懸垂文と蛇行隆帯4単位がある。11と12は加曽利E I 新式古相である。

13は小型深鉢で口径17.5cm・現存部高18cmである。口縁部文様帯は2本組み隆帯を横位につなぎ、小渦巻部で十字状文様をつくる。口縁部、胴部とも地文は無節LR縄文を施し、胴部は地文のみである。加曽利E I 古式といえる。

14は80%を遺存する大型深鉢である。口縁部は4波頭をもち口径28cm・器高42cmである。地文撚糸文に「∞」字状隆帯で口縁部文様帯をつくる。頸部無文帯

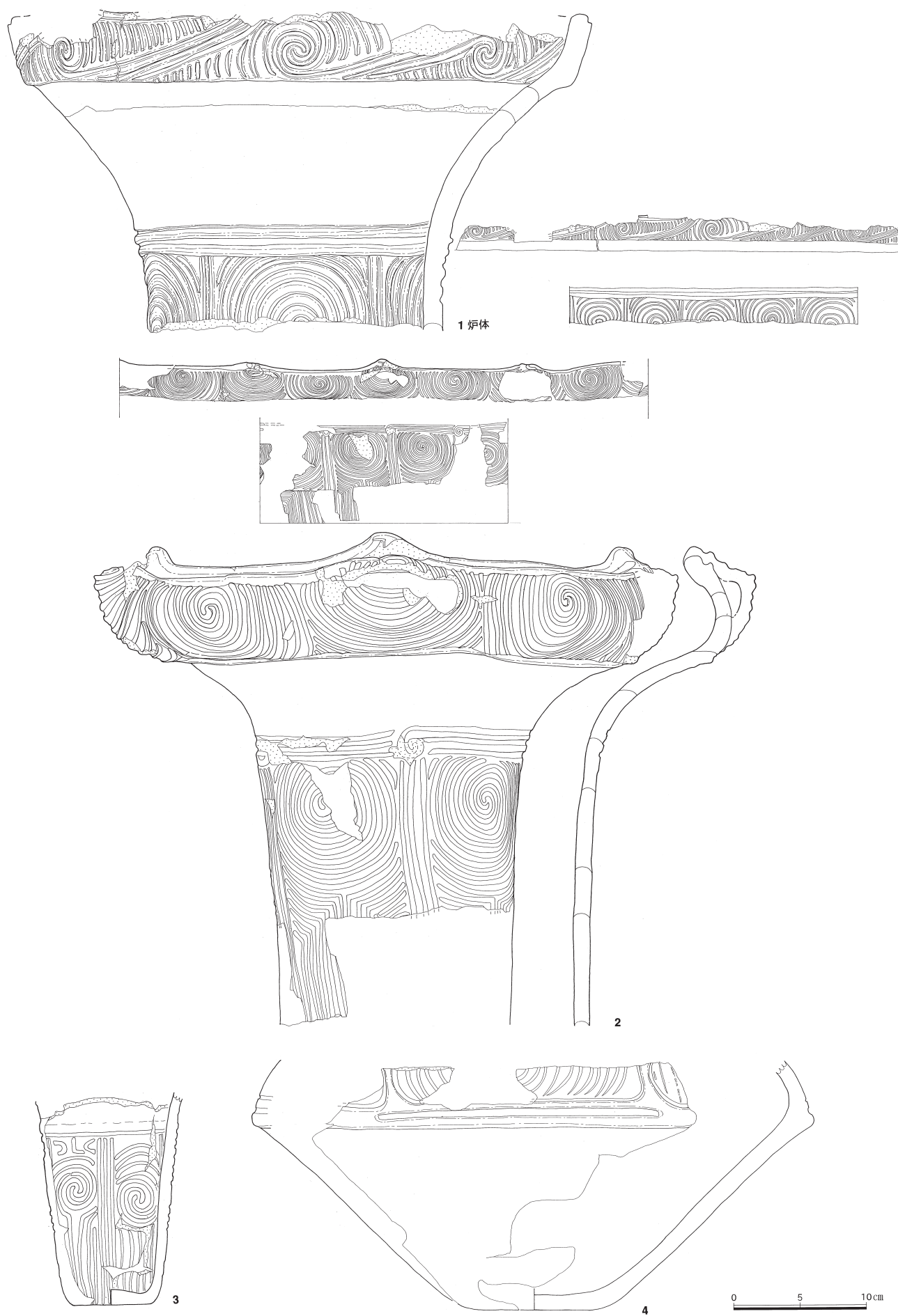
は幅狭く、胴部は地文撚糸文に2本組み直下隆帯と蛇行懸垂文3単位をつくる。

15は大型深鉢の頸部無文帯最下部と胴部を完存する。地文撚糸文に隆帯の2本組み直下懸垂文と蛇行懸垂文6単位をつくる。

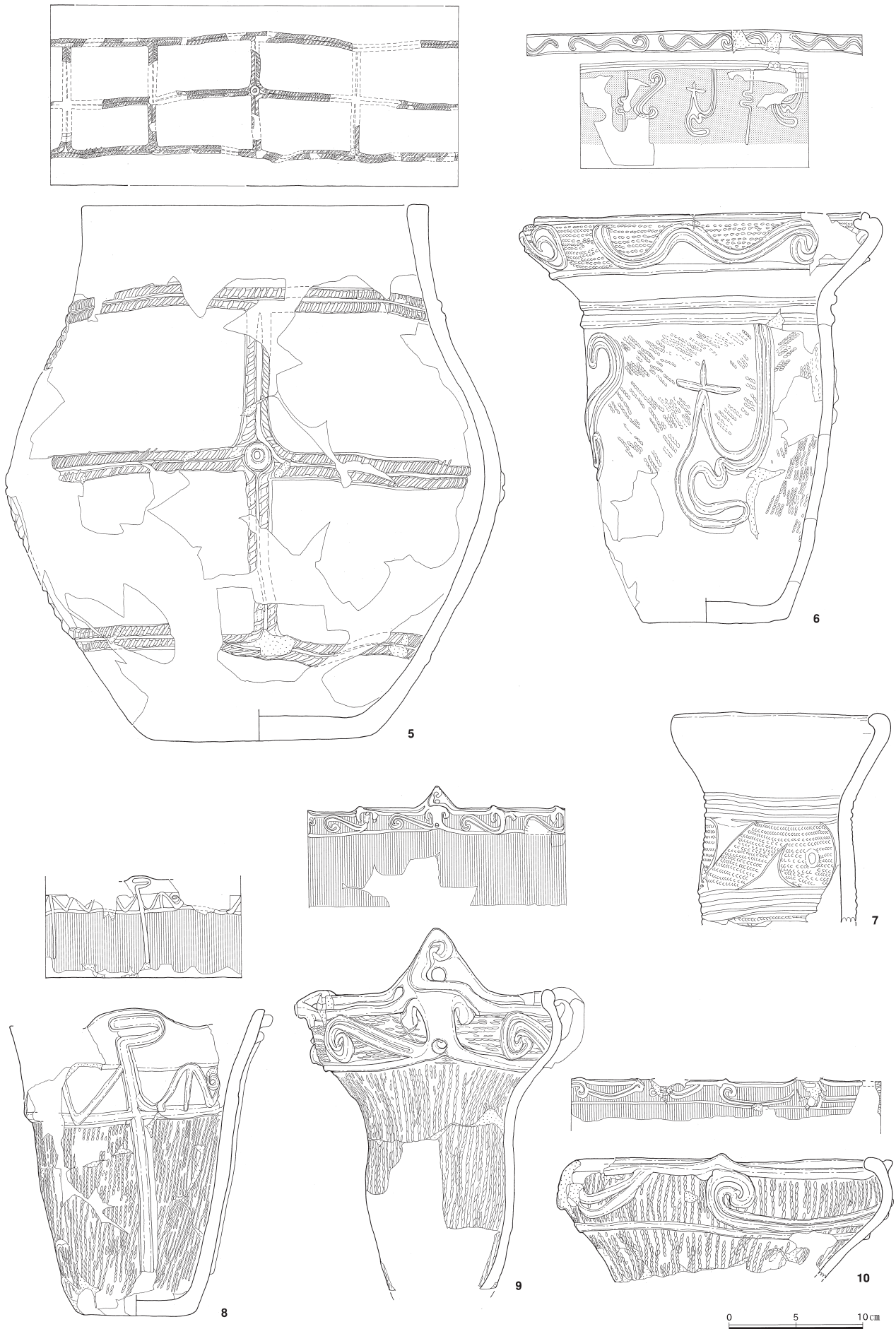
16は口縁部から胴上部までの30%を遺存し、推定口径30cm・残存部高26cmである。口縁部文様帯は中空の把手状の波頭が突出する間に、太い2本組み隆帯による「∞」字状文を配する。2本組み直下懸垂文と蛇行懸垂文を4単位つくる。加曽利E I 新式古相。

17～19は浅鉢の口縁部から底部で無文である。

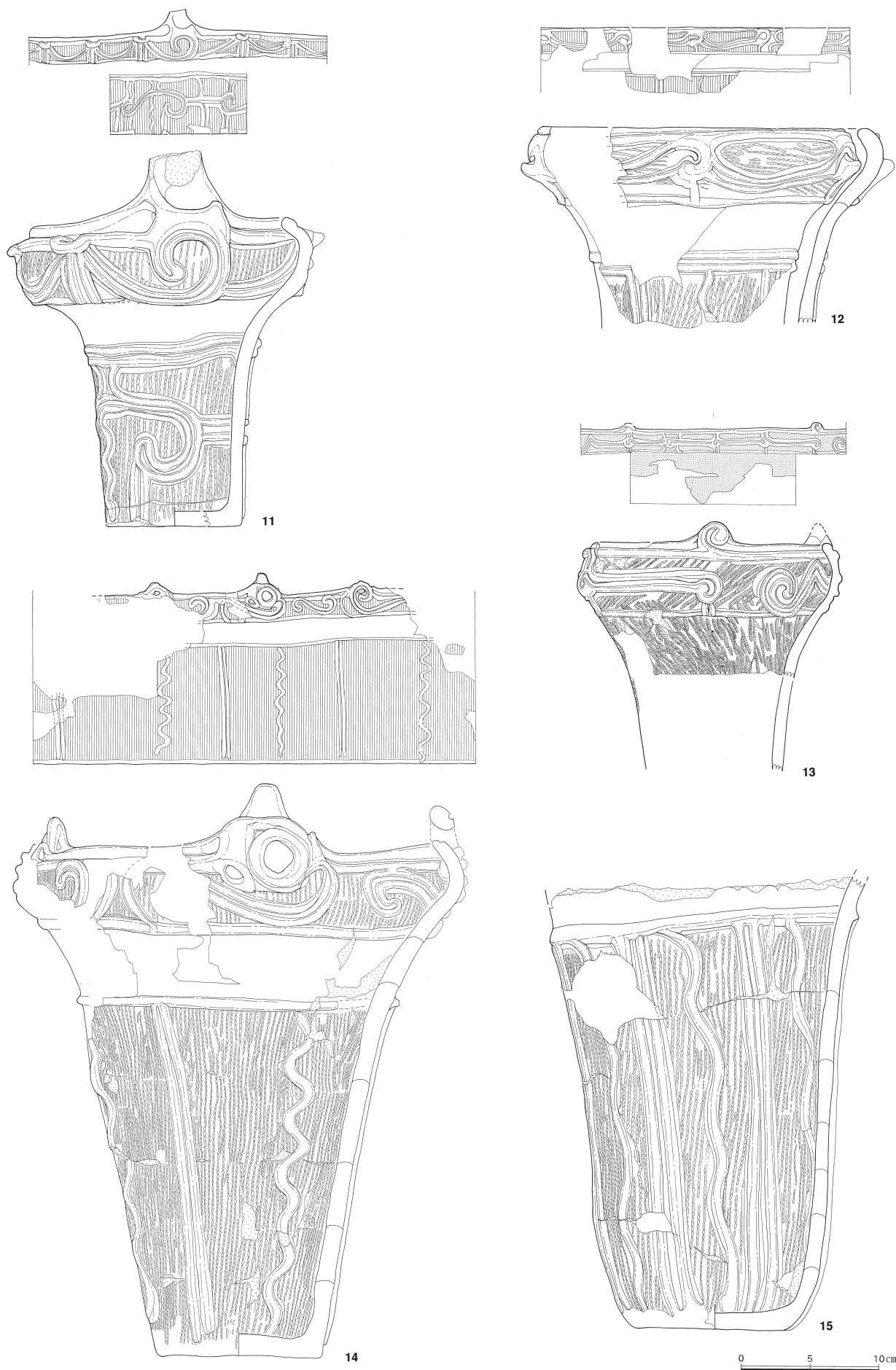
20はほぼ完形の大型浅鉢で口径45cm・器高21.5cmで



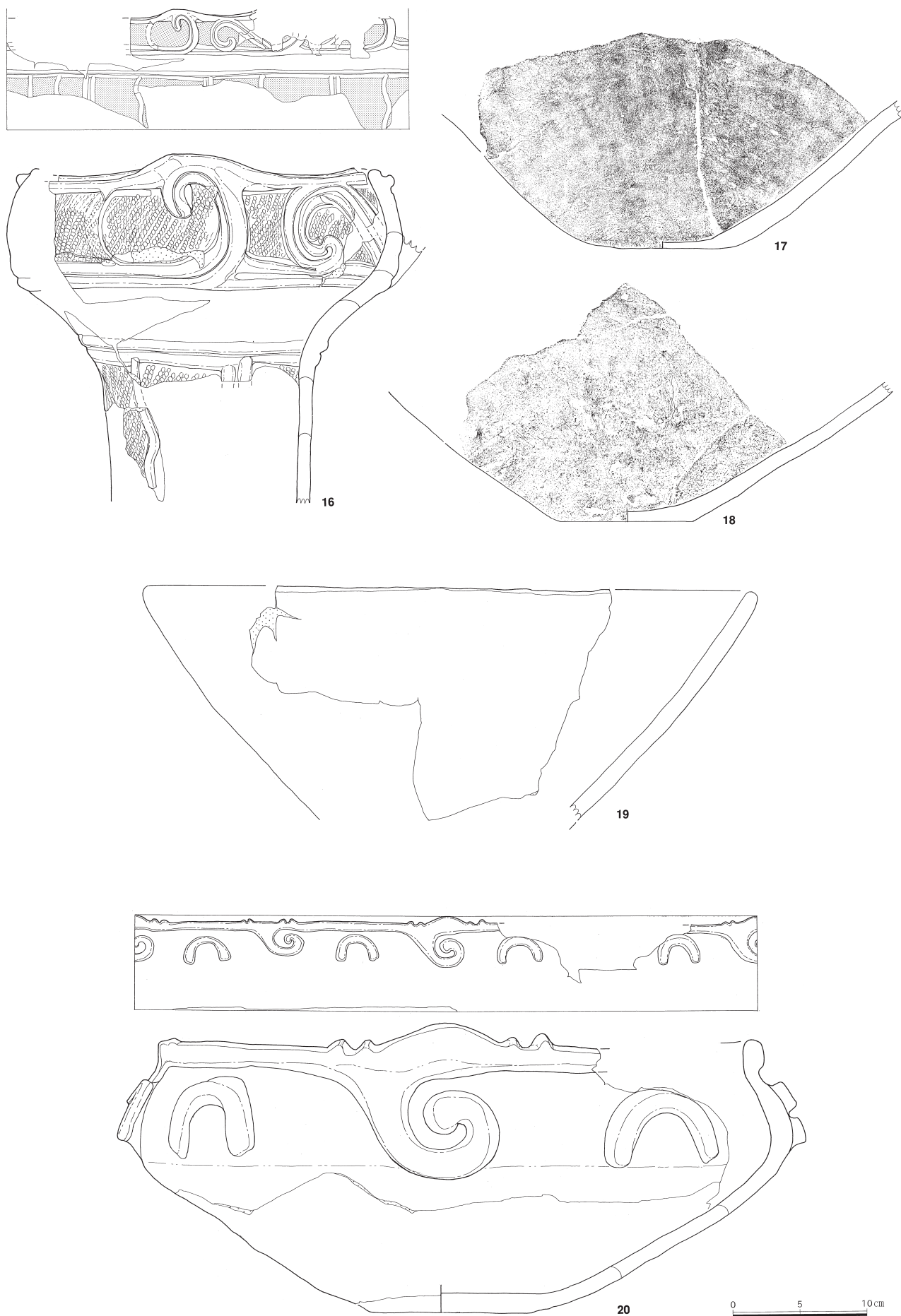
第63図 西ノ原遺跡176号住居跡出土土器① (1/4)



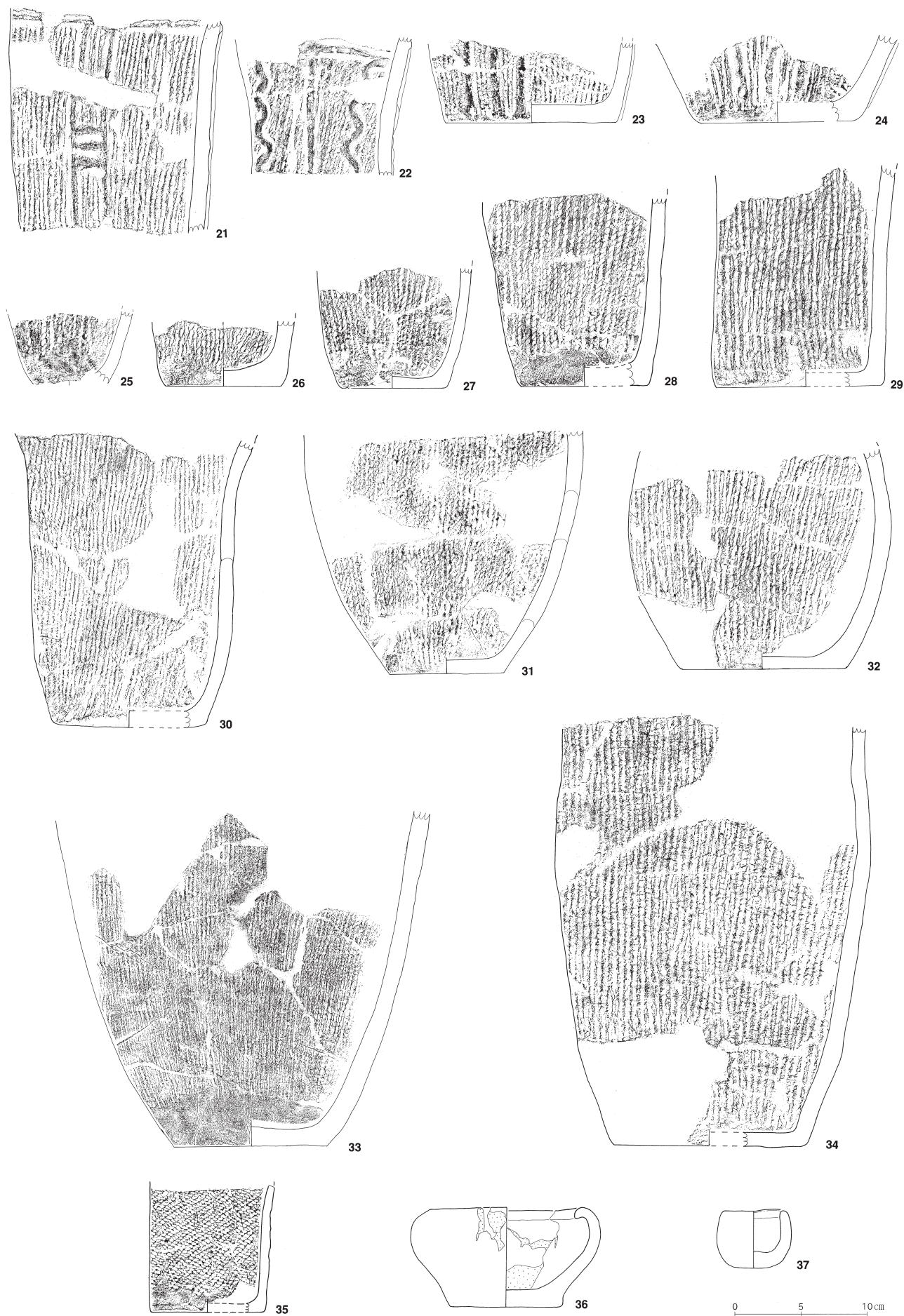
第64図 西ノ原遺跡176号住居跡出土土器② (1/4)



第65図 西ノ原遺跡176号住居跡出土土器③ (1/4)



第66図 西ノ原遺跡176号住居跡出土土器④ (1/4)



第67図 西ノ原遺跡176号住居跡出土土器⑤ (1/4)

ある。口唇上部には大波頭があり、大波頭の裾と波頭間に2対の小突起を入れる。広い口縁部文様帯に大きな隆帯で逆U字形と渦巻形4単位をつくる。胎土には白色微砂粒と白色軟質物質を含み、入念な横撫で整形を施し焼成良好、赤褐色ないし朱色を呈する。加曽利EⅠ式。

21～34は深鉢の胴部から底部にかけてで、地文撚糸文である。21～25は隆帯を貼り付ける。35は深鉢の胴部から底部で地文縄文である。36は無文の小型鉢形土器でほぼ完形である内面は黒色に塗られていた可能性が高く、外面は磨きが施され、二次被熱を受ける。

37は完形のミニチュア土器で口径4.7cm・器高4.5cmで、胎土に白色粒子を含み、焼成良好で黒～暗褐色を呈する。36・37共に中期のミニチュア土器である。

21～34は勝坂式最末期から加曽利EⅠ古式である。

⑭177号住居跡

【位置】調査区の西部に位置し176号住居跡、178号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡が176号住居跡・178号住居跡より新しい。また集石土坑3・4と重複し住居跡の方が古い。

【形状・規模】柱穴の配置と床面の状況から楕円形又は円形を呈するとみられる。推定規模は長軸6.2×短軸5.6mで深さは8.8cmである。

【炉】住居内の中央部に位置する。平面形は楕円形で底部はよく焼け焼土層が発達している。底部焼土の周囲が溝状に掘り込まれていることから、炉内に礫を埋設する石囲炉であった可能性がある。掘り込み面の規模は116×54cm、深さ32.1cmである。

【埋甕】埋甕2基が住居内の南側、ピット4・7の間に並んで位置する。西側は埋甕1、東側が埋甕2で埋甕2が新しい。埋甕1・2ともに底部を欠損する縄文土器を北西に傾いた状態で正位に埋設する。掘り込み面の規模は70×40cm、深さ22cmである。

【ピット】10基検出し1基は176号住居跡の覆土層でプランのみを確認した。平面形は円形を呈するものが多い。主柱穴はピット1・2・4・7・9・11である。未確認のピットがあるため、主柱穴の配置は不明であるが5～6本主柱穴とみられる。

【遺物出土状況】住居の確認面がほぼ床面であったため、遺物のほとんどは床面もしくはその上層から出土

したものである。176号住居跡と重複する部分から出土した遺物は、沈下のためローム層の床面レベルより低い位置にある。

【出土遺物】1は埋甕1で口縁部40%胴部90%が遺存し、復元口径26cm・現存部高28cmである。口縁部直下と胴中部に2列の列点文を施し、胴上部と下部に3本組沈線の連弧文をめぐらせる。地文は撚糸文である。胎土に大量の橙色粒子を含み、口縁部内面は撫で調整され黄～暗褐色を呈する。加曽利EⅡ式中相。

2は埋甕2で、口縁部から胴中部までの90%を遺存し復元口径30cm・現存部高21cmである。口縁部文様帯は長楕円と渦巻文の区画を基本とする。胴部は地文縄文で、磨消懸垂文が不揃いながら13単位ある。胎土に橙色粒子を多く含み暗褐色を呈する。加曽利EⅡ式新相。

3は口唇部と底部を欠く壺形土器で40%を遺存する。ほぼ直立する無文口縁部は丁寧に横撫で調整される。体部は球形に近くLR縄文を地文とし、2本の沈線間を磨消す直下懸垂文6単位がある。胎土には粗砂粒、橙色粒子と白色砂粒を多く含み赤褐色を呈する。加曽利EⅢ式。

⑮178号住居跡

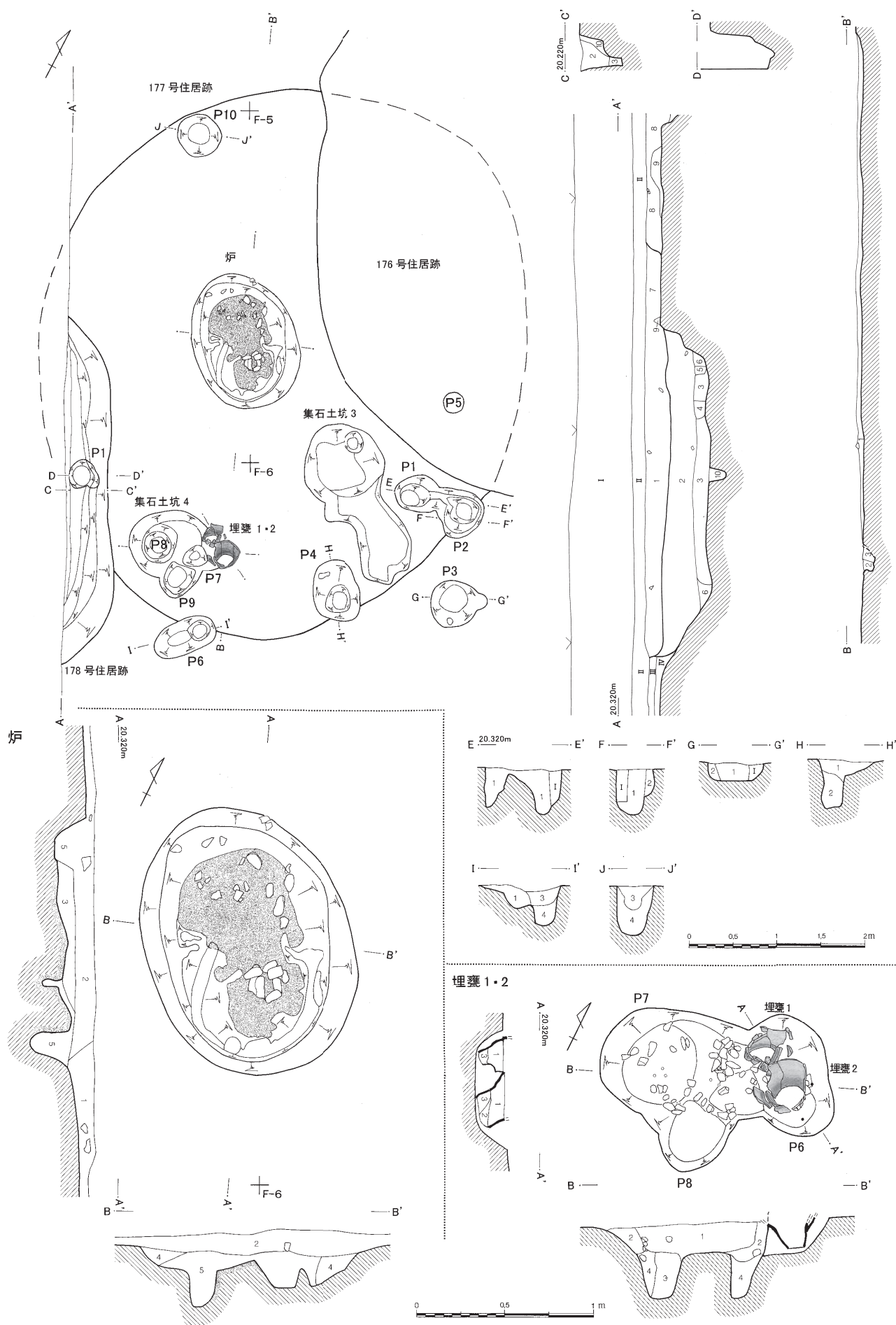
【位置】調査区の西端に位置し、177号住居跡と重複し大部分は調査区外へ延びる。177号住居跡より古い。

【形状・規模】形状は不明であるが、住居壁際に周溝が巡り、ピット1基を検出する。検出部の規模は長さ3.95m深さ32.6cmである。

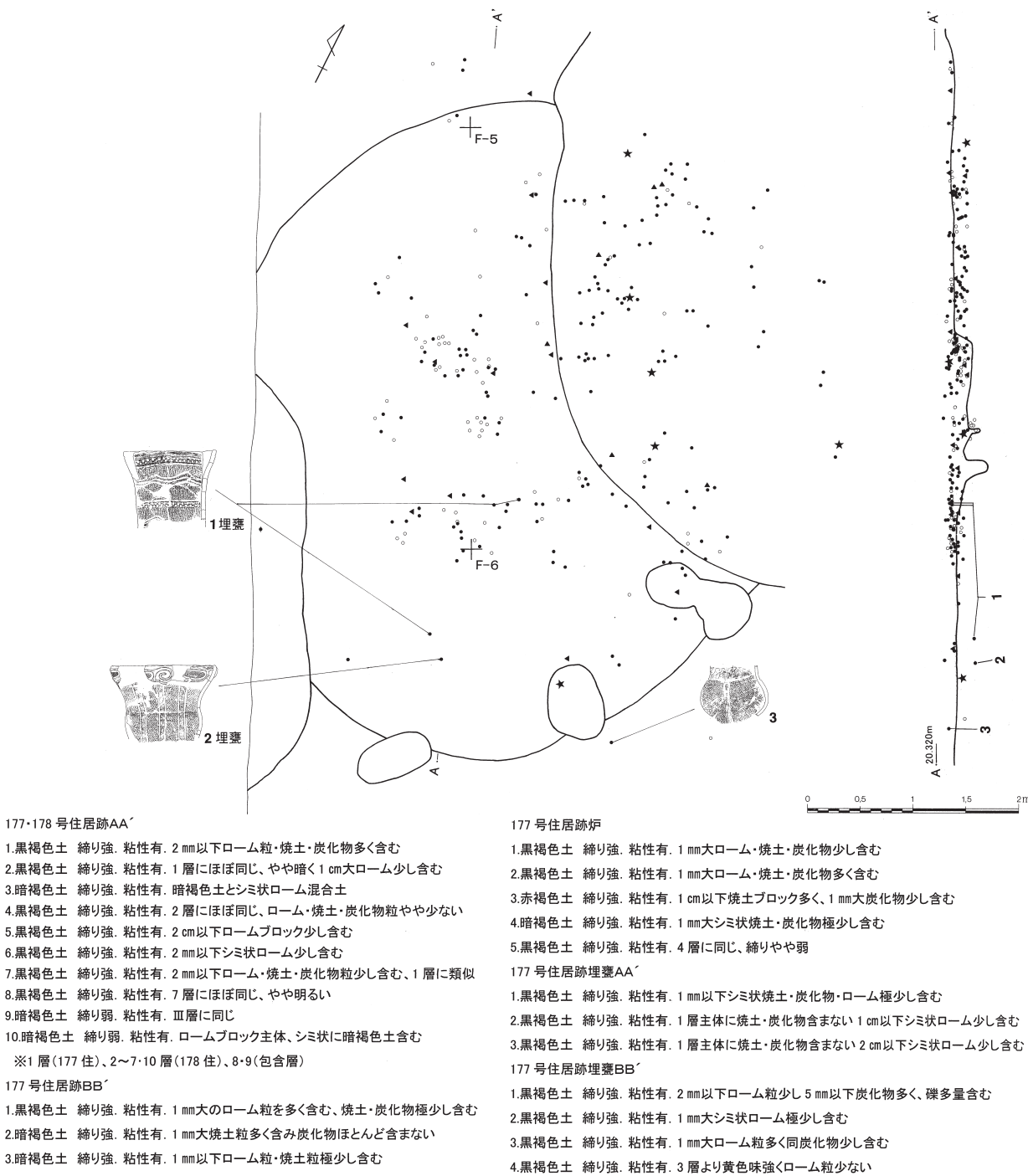
【周溝】周溝は住居壁際に1本を確認し、床面からの深さは19～22cmである。

【ピット】周溝内から円形のピット1基を検出した。確認面径35cm、底径21cm深さ45.4cmである。

【遺物出土状況】覆土層から数点が出土するが、復元可能なものはない。



第68図 西ノ原遺跡177・178号住居跡 (1/60)、炉・埋壙 (1/30)



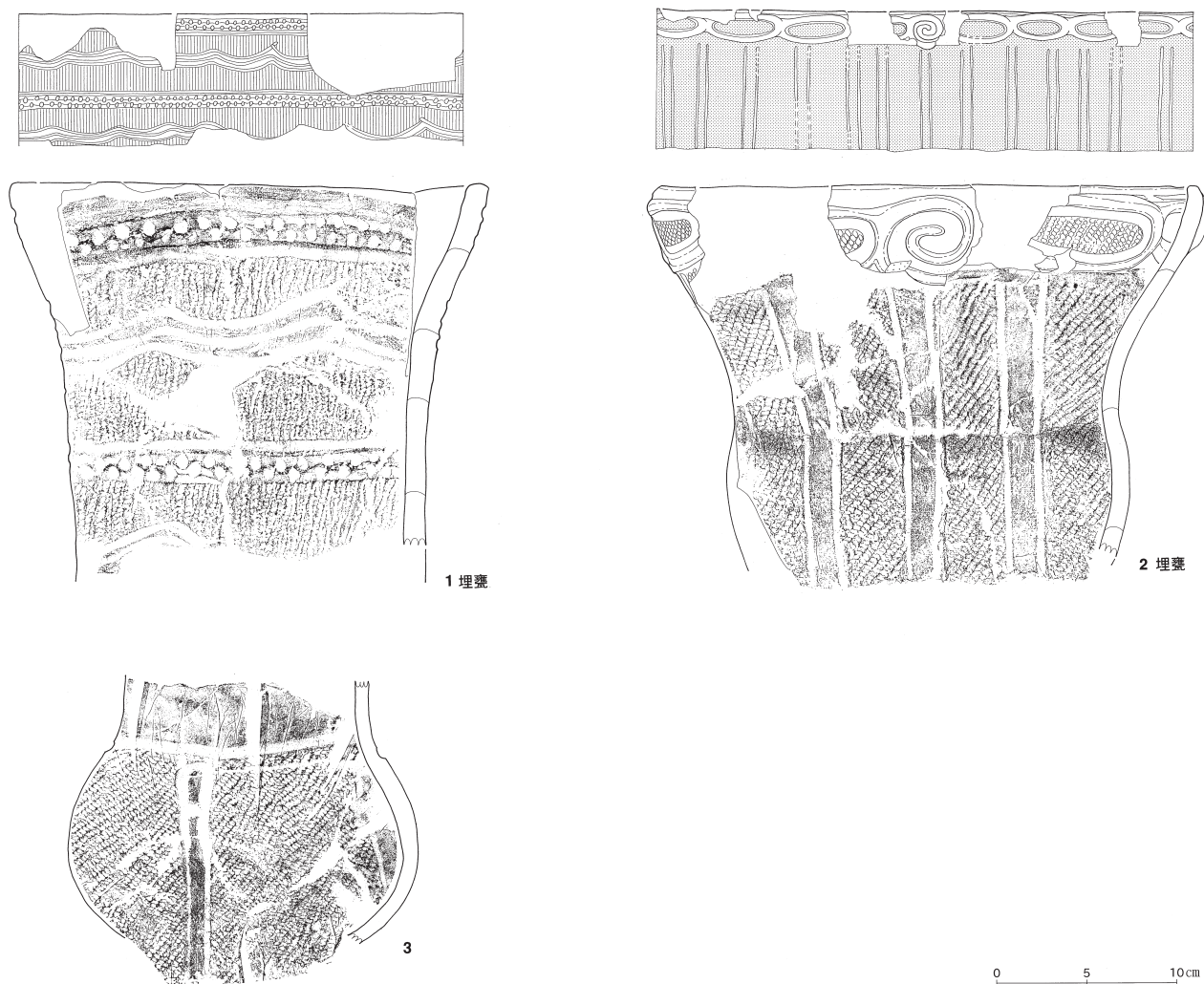
第69図 西ノ原遺跡177号住居跡遺物出土状況 (1/60)

第31表 西ノ原遺跡177・180号住居跡ピット一覧表

117住No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	30~42	18~24	50.0	主柱穴
2	円形	50~57	16~18	54.0	主柱穴
3	円形	52~54	28~31	31.8	
4	楕円形	55~70	18~20	53.2	主柱穴
5	円形	(23)	—	40以上	プランのみ確認
6	楕円形	38~74	14~17	45.2	
7	卵形	50~60	9~14	72.4	主柱穴
8	円形	41~44	18~20	55.2	主柱穴
9	楕円形	(35~45)	18~24	33.4	
10	円形	48	22~25	59.8	主柱穴

単位: cm

180住No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	35~41	5~11	30.8	主柱穴?
2	円形	35~40	15	36.4	主柱穴?
3	円形	26~35	15	27.6	主柱穴?
4	円形	46~48	24~32	35.8	主柱穴?
5	円形	42~47	26~29	13.0	
6	楕円形	36~56	18~28	32.0	主柱穴?
7	楕円形	23~27	—	32.0	主柱穴?



第70図 西ノ原遺跡177号住居跡出土土器 (1/4)

⑩179号住居跡

【位置】調査区の東よりに位置し174号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡が新しい。

【形状・規模】平面形は円形又は楕円形を呈するとみられる。推定規模は直径約5m、深さは最深部で約20cmである。

【炉】炉と埋甕が住居中央部やや南よりに東西に並ぶ。炉と埋甕の距離は1.1～1.2mである。炉は直径5～18cm大の礫と縄文土器を用いた石囲埋甕炉である。土器が礫の外側に配置され、一般的な石囲埋甕炉とは異なる。礫の外側を囲うため、炉体土器も破片を使用したものとみられる。土器は正位に埋設され、北側に配置された礫以外は耕作などの影響を受ける。炉内底部はよく焼け焼土層が発達し硬化面がみられる。掘り込み面の規模は深さ約20cmである。

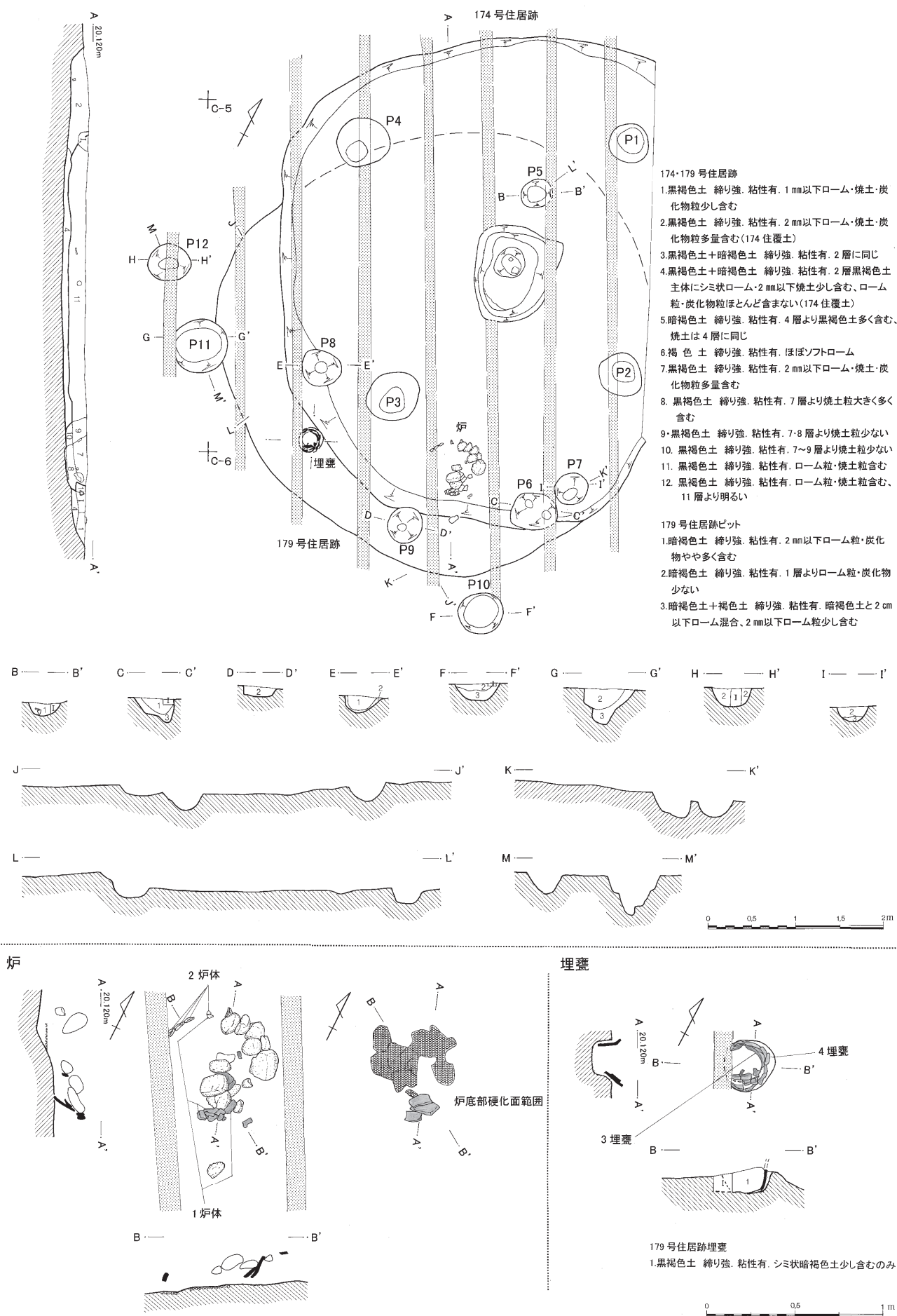
【埋甕】住居内の西側に位置する。平面形は円形で、底部を欠損する縄文土器を正位に埋設する。西側の一

部は攪乱で欠損する。復元した土器から、複数の土器を使用していたものとみられる。

【ピット】住居跡内および周辺で8基のピットを検出した。ピット1～4は174号住居跡に伴うものと考えられる。ピット10～12は住居跡の範囲外にあるが、住居範囲が広がる可能性もあり本住居に伴うことが考えられる。ピット5～8は174号住居跡か179号住居跡に伴うものか明らかではない。

【遺物出土状況】覆土層中の遺物は、174号住居跡覆土層中の遺物と明確に分けることが出来ない。

【出土遺物】1は炉体土器で大型深鉢の口縁部から胴部の一部を遺存する。口縁部は太い沈線で区画し内にRL縄文、胴部も地文縄文に沈線間を磨消した懸垂文を施す。2も炉体土器で大型深鉢の口縁部から胴部の一部を遺存する。口縁部は太い沈線で区画し内にLRL複節縄文、胴部も地文縄文に磨消懸垂文を施す。1と2は別個体だが文様構成は酷似する。加曽利EⅡ古



第71図 西ノ原遺跡179号住居跡 (1/60)、炉・埋甕 (1/30)

～中相。

3 は埋甕で深鉢の40%が遺存、地文は胴上部が櫛状工具による条線文、胴下半は無節のLR縄文を施す。口縁直下と胴中央部に2列の列点文を入れる。胎土に白色微粒子と大きい橙色粒子を多く含む。

4 も埋甕で深鉢の50%を遺存し、口縁部文様帯は長楕円形と渦巻が退化して円形化した区画文である。地文LR縄文で、胴部は2本の沈線間を磨消した直下懸垂文と蛇行懸垂文を不規則に配する。胎土に白色微粒子と大型の橙色粒子を含む。全体的に脆く黄暗褐色を呈する。3・4は加曾利EⅡ式新相。

①180号住居跡

【位置】調査区の中央部に位置し175号住居跡、集石土坑5と重複する。新旧関係は、本住居跡が176号住居跡より新しく集石土坑5より古い。

【形状・規模】平面形は円形で、規模は直径約5m、

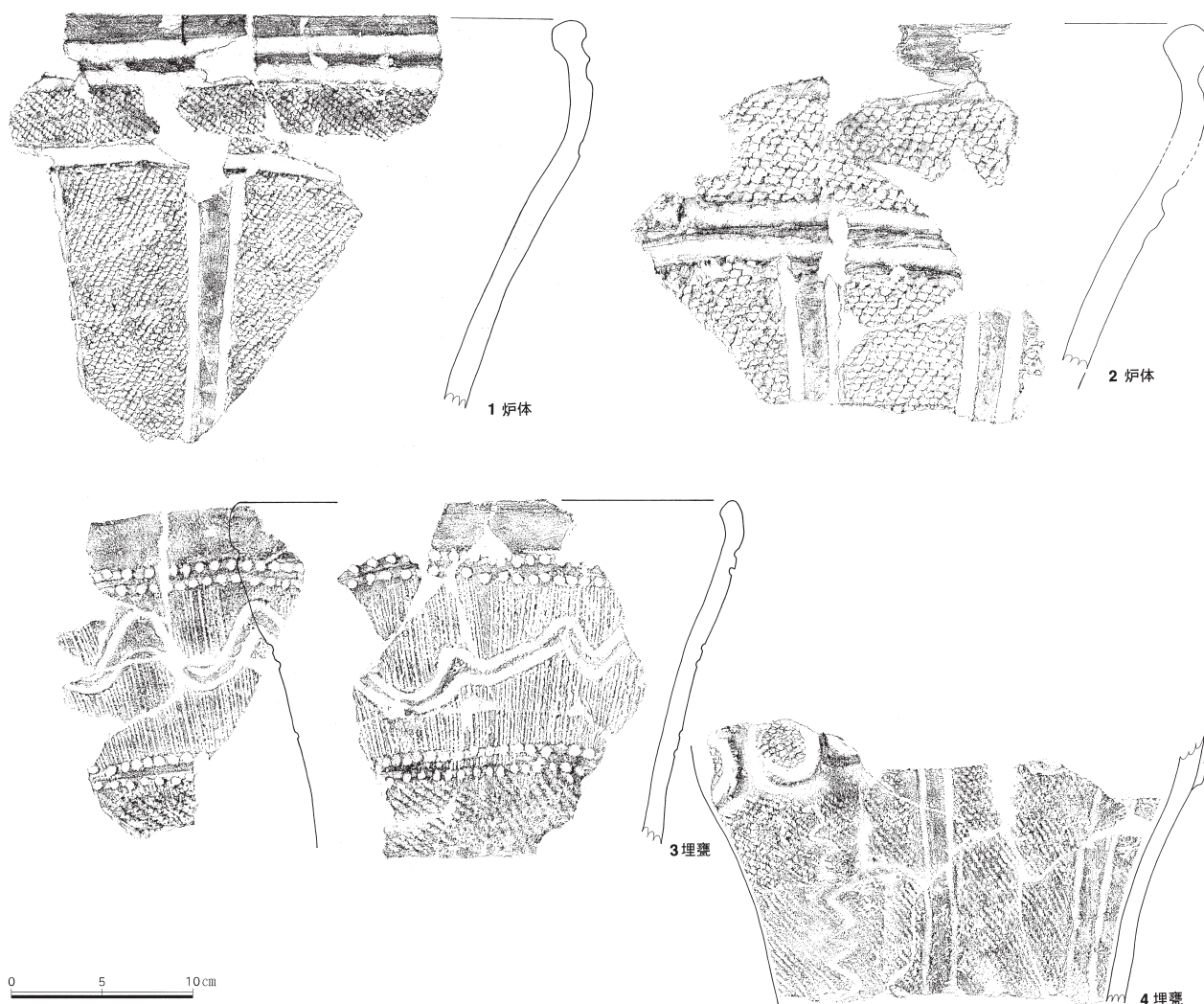
深さは約10cmである。

【炉】住居中央部に位置し、平面形は円形で直径10～15cm大の礫の内側に底部を欠損する縄文土器を正位に埋設する石囲埋甕炉である。炉内底部は焼土層が発達している。規模は直径70cm深さ6cmで、深さ約12cmの溝状の掘り込みがある。

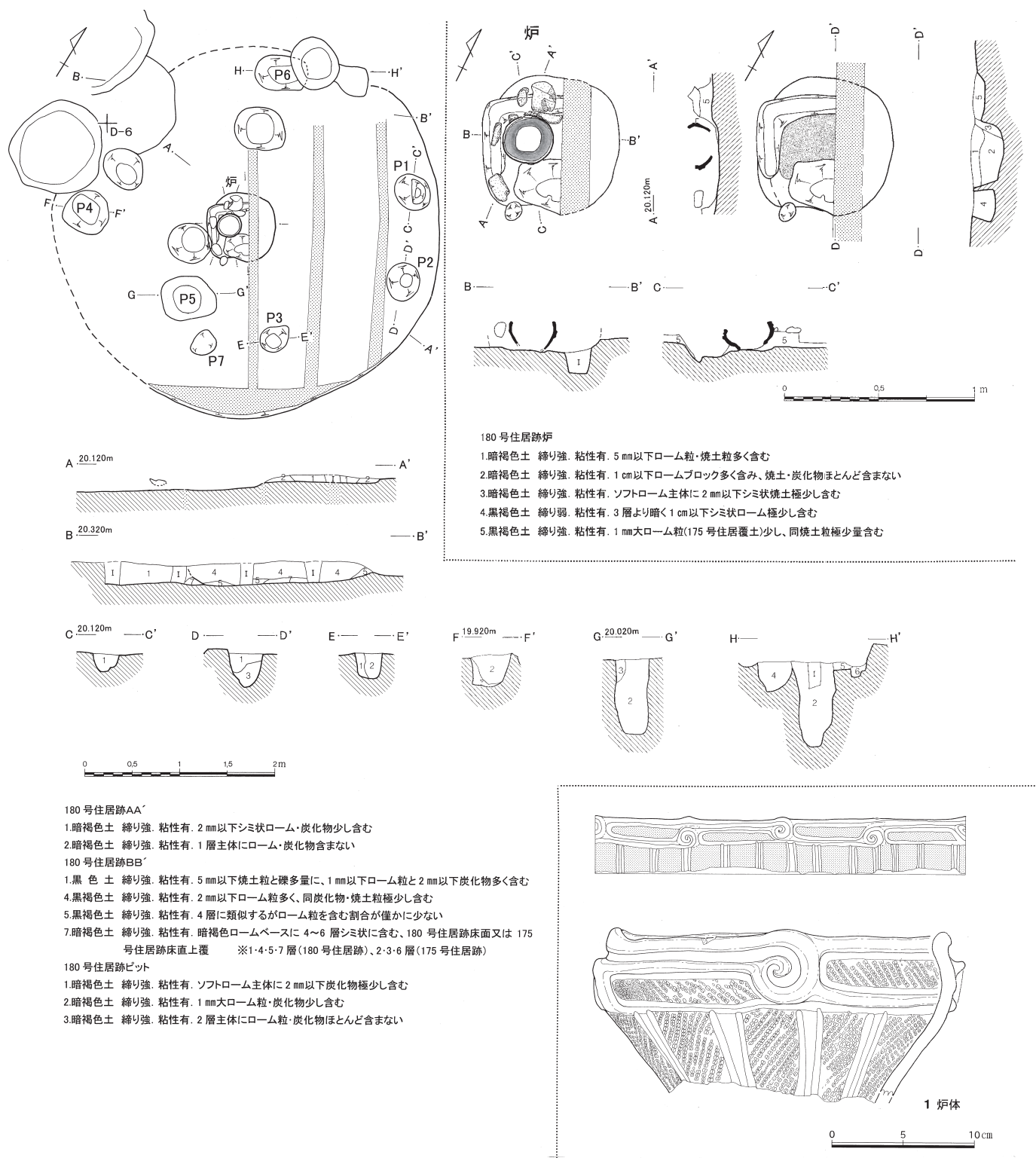
【ピット】住居跡の範囲内から7基のピットを検出する。175号住居跡ピット8は180号住居跡に伴う可能性もある。主柱穴はピット1（又は2）・3・4・6の4本主柱穴。

【遺物出土状況】集石土坑に伴う礫が覆土層から多数出土するが、本住居跡に伴うものは少ない。

【出土遺物】1は炉体土器で深鉢の口縁部から胴中部までを完存。口径23.5cm・現存部高12.2cm、口縁部文様帯は長楕円区画と渦巻文、胴部は垂下沈線間を磨消した懸垂文で地文複節RL縄文である。胎土に橙色粒



第72図 西ノ原遺跡179号住居跡出土土器 (1/4)



第73図 西ノ原遺跡180号住居跡(1/60)、炉(1/30)、出土土器(1/4)

子多数を含み整形・焼成良好。加曽利EⅡ式古相。

⑩落とし穴

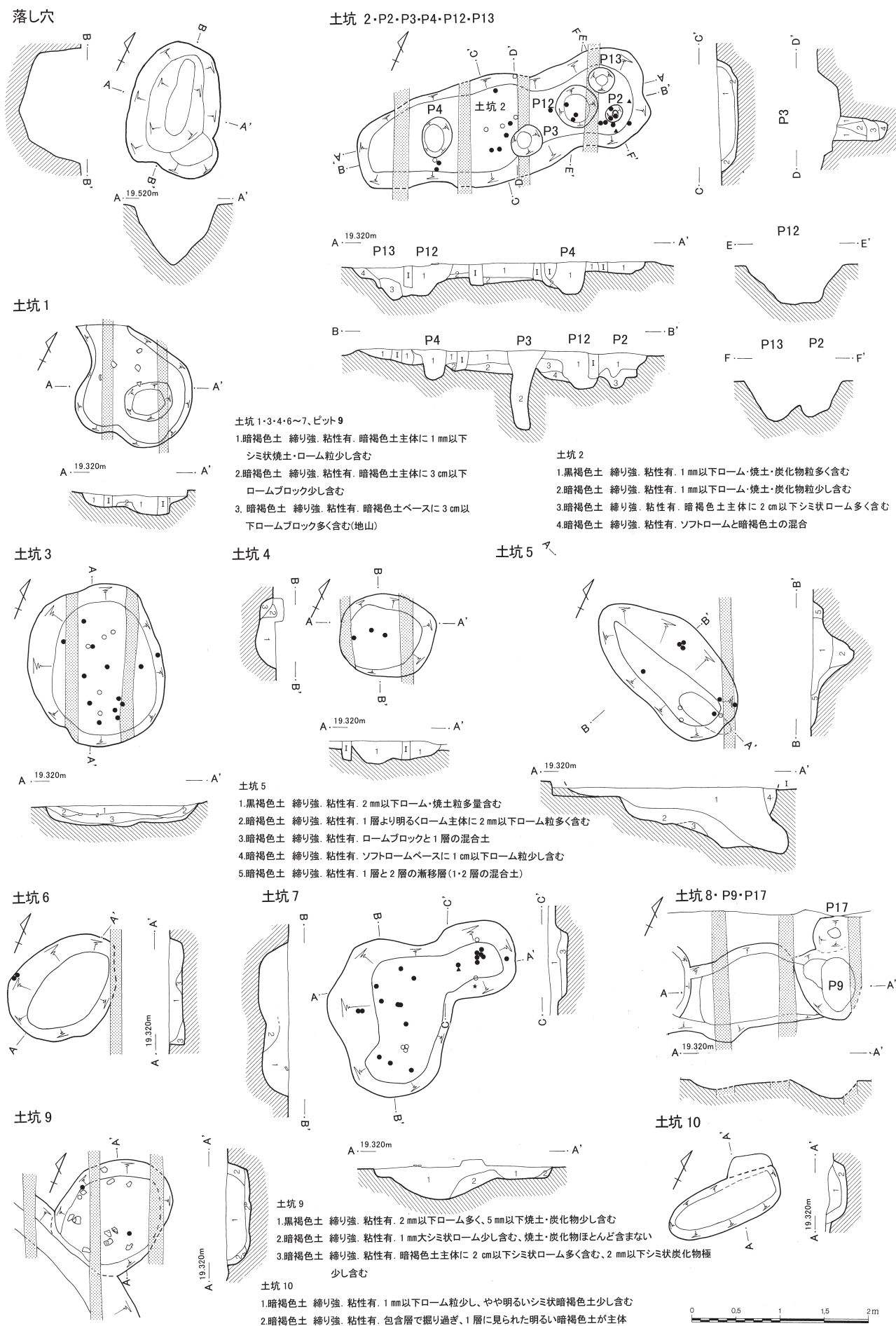
落とし穴は調査区北側で1基検出し、171号住居跡と重複する。新旧関係は落とし穴が171号住居跡より古い。

長軸はほぼ磁北と同じである。平面形態は楕円形、断面は「V」字状を呈する。規模は上端145×103cm深

さ70.7cmである。

⑪土坑・ピット

土坑10基、ピット17基を検出した。土坑とピットの区別を確認面の規模が1m以上を土坑、未満をピットとした。土坑とピットの大部分は、C-2~3区・D-2~3区・E-2~3区周辺に多く位置する。出土遺物、土層観察から縄文時代のもものとみられる。周辺部



第74図 西ノ原遺跡第128地点落とし穴・土坑・ピット① (1/60)

では出土遺物も多く住居跡の可能性もある。出土遺物は遺構外の遺物集中とした。各土坑・ピットの詳細については第32・33表のとおりである。

第32表 西ノ原遺跡第128地点土坑一覧表 単位：cm

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不整形	(165)×135	(150)×106	27.0	
2	長楕円形	334×122	308×98	40.8	
3	楕円形	185×152	150×118	23.1	
4	楕円形	108×86	82×66	20.6	
5	長楕円形	190×100	70×25	75.0	
6	楕円形	140×108	103×53	20.4	
7	「く」の字形	220×180	147×140	36.6	
8	—	(140)×93	(130)×74	19.9	旧名称無し
9	楕円形	135×115	112×110	38.9	
10	長楕円形	135×54	121×34	19.5	旧試掘土坑6
11	楕円形	105×65	55×35	31.8	旧ピット9

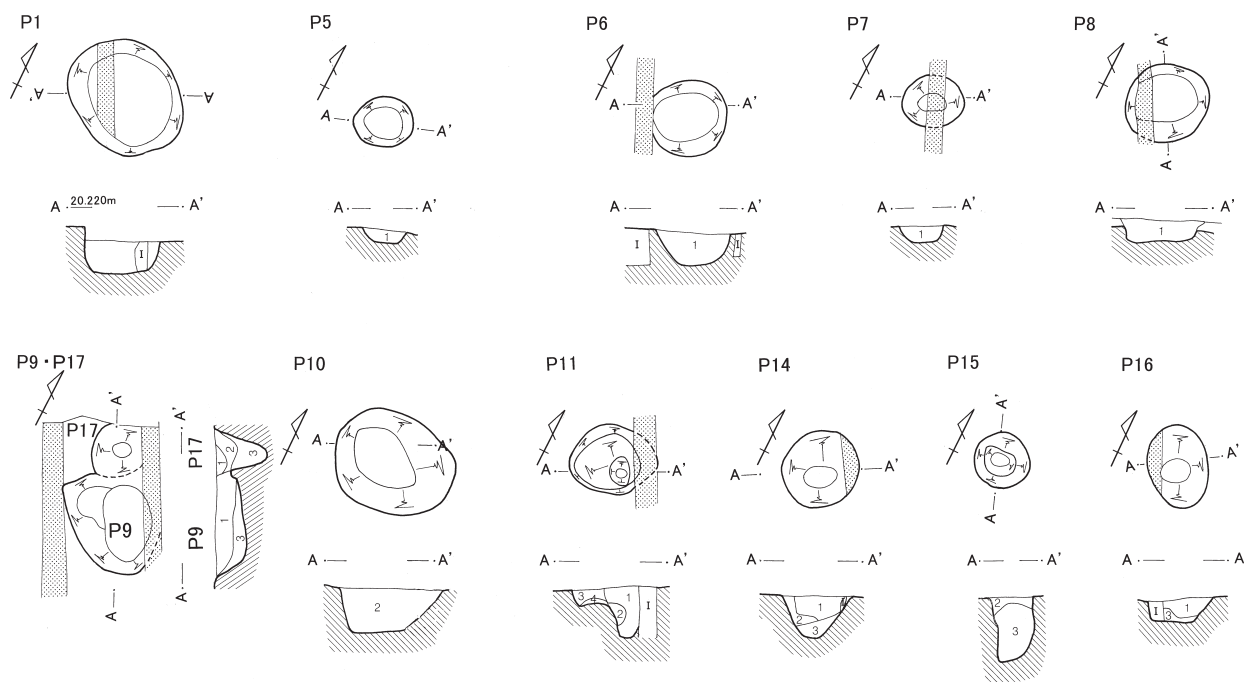
第33表 西ノ原遺跡第128地点ピット一覧表 単位：cm

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	80～99	65～75	31.0	
2	円形	18～20	7～9	41.2	
3	円形	32～38	16～20	85.6	
4	楕円形	35～47	22～32	36.5	
5	円形	40	25～26	13.0	
6	円形	67～(99)	33～(60)	32.2	
7	円形	45	16～18	19.2	
8	円形	57～65	48～56	9.4	
9	—	88×(60)	60×47	24.8	旧土坑8
10	楕円形	78～98	40～61	42	
11	円形	53～(60)	7～10	40.4	
12	円形	45～46	30～33	43.4	
13	円形	28～30	11～14	46.4	
14	円形	58～63	18～28	34.2	
15	円形	45	10～17	62.4	
16	楕円形	35～65	18～24	23.3	
17	楕円形	40×(40)	12～15	44.2	

第34表 西ノ原遺跡第128地点集石土坑・出土礫観察表

単位：cm・g・%

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	礫範囲	礫数	礫重量	赤化数	赤化数(%)	煤付着数	煤付着数(%)	完形礫数	完形礫数(%)	備考
1	楕円形	(65×50)	—	(25)	(60×45)	364	5950.86	13	3.5	2	0.5	214	58.7	
2	楕円形	(100×70)	—	(20)	(60×102)	95	20127.99	64	67.3	34	35.7	19	20	
3	円形	94	67×48	31.0	74	405	19243	109	26.9	186	45.9	155	38.2	
4	(楕円形)	(90×60)	(72×50)	(18)	(77×54)	108	4560	30	27.8	30	27.8	15	13.9	
5	円形	100×95	72×85	97.5	(95×87)	597	70068.99	236	39.5	142	23.7	61	10.2	
6	(円形)	(84×75)	—	(45)	(84×75)	75	10757.89	49	65.3	17	22.6	10	13.3	
7	(円形)	(106×86)	—	(45)	(106×86)	188	22914.08	119	63.2	41	21.8	22	11.7	



ピット1・2・4・5～8・10・12、土坑8

- 1.暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下白色・ローム粒極少し含む
- 2.黒褐色土 締り強。粘性有。1mm以下白色・ローム粒・炭化物多く含む
1・2層の主体ほぼ同じ

ピット3

- 1.黒褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒多量含む
- 2.黒褐色土 締り強。粘性有。1層よりローム粒やや少ない他は1層に同じ
- 3.黒褐色土 締り強。粘性有。黒褐色土主体に5cm大ロームブロック少し含む
- 4.黒褐色土 締り強。粘性有。黒褐色土主体に2cm大ロームブロック少し含む
ロームブロックの大きさ以外3層にほぼ同じ、1・2層とはローム粒含有の有無

ピット11

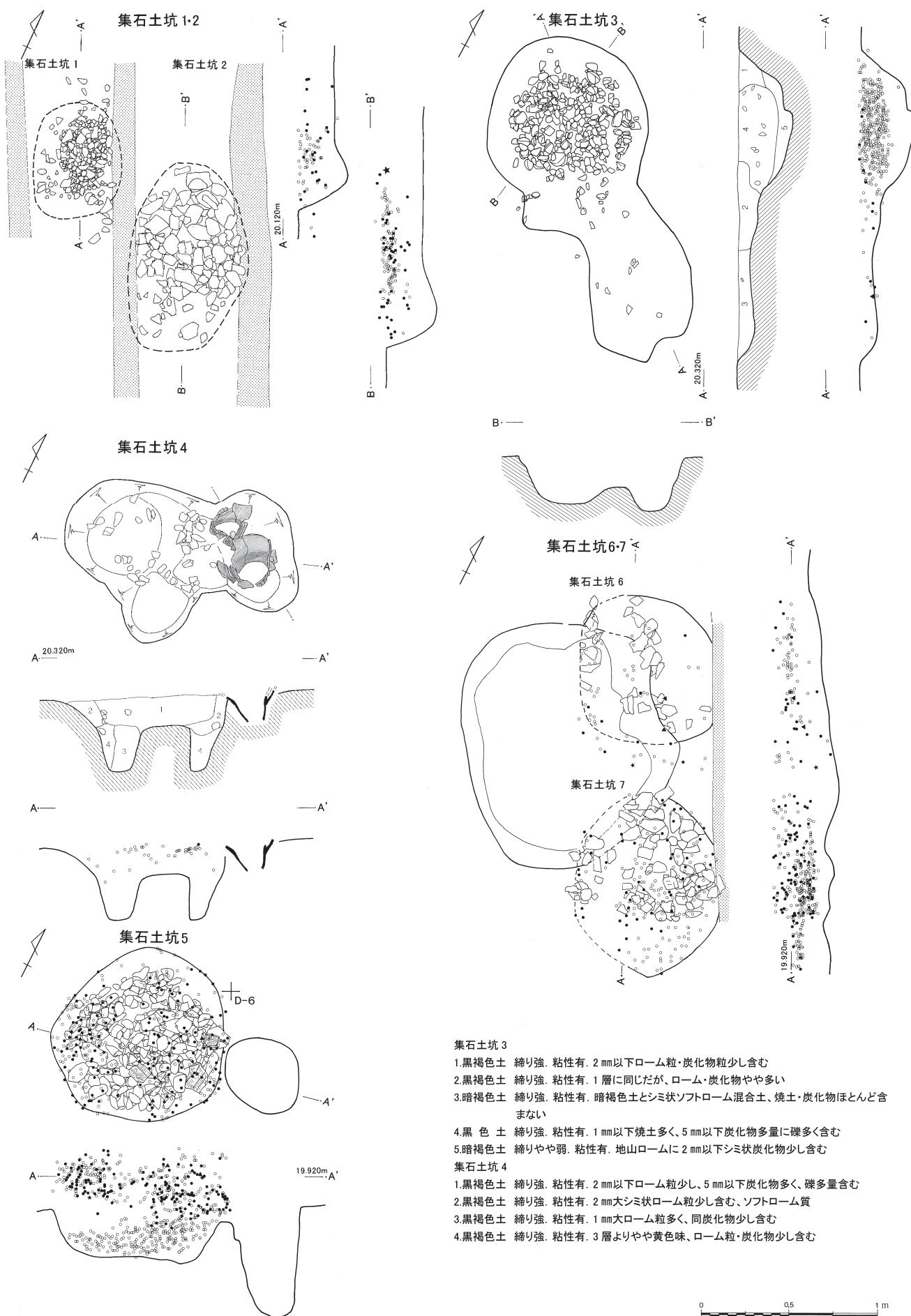
- 1.暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下白色・ローム粒極少し含む
- 2.暗褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒極多し含む
- 3.暗褐色土 締り強。粘性有。1層にほぼ同じ、白色・ローム粒極少ない
- 4.暗褐色土 締り強。粘性有。3層と3cm大ロームブロック混合土

ピット12～17

- 1.暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下白色・ローム粒極少し含む
- 2.暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下白色・ローム粒極少し含む
1層よりシミ状暗褐色土多く含む
- 3.暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下白色・ローム粒極少し含む
1・2層よりシミ状暗褐色土多く含む
- 4.黒色土 締り強。粘性有。1mm以下焼土多く、5mm以下炭化物多量に、礫多く含む
- 5.暗褐色土 締り強。粘性有。地山ロームに2mm以下シミ状炭化物少し含む

第75図 西ノ原遺跡第128地点ピット② (1/60)





第76図 西ノ原遺跡第128地点集石土坑 1 ～ 7 (1/30)

②⑩集石土坑

集石土坑は7基検出した。集石土坑1・2・5～7は175号住居跡、集石土坑3・4は177号住居跡と重複する。集石土坑は全て各住居跡より新しい。特に175号住居跡と重複する集石土坑は埋没過程にある窪地を利用した可能性が高い。集石土坑5は住居跡よりも掘り込みが深いため遺構の範囲を特定出来たが、集石土坑6・7は住居床面への掘り込みが浅いため範囲が明確でない。土層観察で礫の集中と遺構の掘り込みを確認し集石土坑6と7に分けた。

②⑪集石土坑・土坑・ピット出土土器

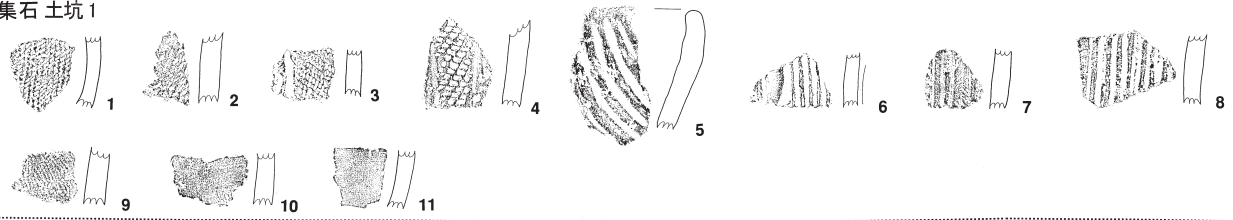
1・2は撚糸文の胴部片、3は地文縄文に沈線文、4は地文縄文に沈線間を磨消す。5は口縁部で半隆帯の重弧文を施す。6は地文撚糸文に隆帯を貼付ける。7・8は半隆帯状文で沈線を施す。5から8は曽利Ⅲ式。9は細縄文、10・11は無文である。12は刻目隆帯が渦巻き突出する口縁部で勝坂Ⅱ式。13は斜めの円形刺突文で区画内を埋める。14は半隆体による渦巻きと平行沈線をもつ胴下半部で加曽利EⅠ式に併行する北陸・中部系の土器。15は隆帯の渦巻部が突出した区画文・渦巻文の口縁部で地文は撚糸文。16は口縁部文様帯の区画内を沈線列で埋める。17は斜位の列点文を交互に配し、退化した円形区画をもつ口縁部で地文縄文。18～21は地文縄文に磨消懸垂文をもつ胴部片で同一個体。22は2列の列点文の下に地文撚糸文の深鉢口縁部。23・24は無文底部。25は浅鉢文様帯部分で楕円形区画内に縄文を配する。26は口縁部文様帯から頸部無文帯上部の大型深鉢。27は地文撚糸文の深鉢口縁部、28・29は地文撚糸文で連弧文をもつ大型深鉢で同一個体で他に2片を割愛した。30は地文条線で連弧文をもつ。31は無文の浅鉢で胎土に黒色微粒と石英を含む。集石土坑5は加曽利EⅡ式の可能性が高い。

32は胴部の撚糸文、33は沈線の磨消懸垂文を施す。34・35は地文縄文に沈線の磨消懸垂文を施す胴部と底部。36は地文撚糸文、37は底部で無文、38は口唇部の渦巻状突起、39は口縁部で隆帯を貼付ける。40は筒形深鉢で口唇部直下は無文、沈線の区画内に三角押文列・円形刺突文をもつ勝坂Ⅱ式。41は口縁部で隆帯の突出した渦巻文を、42～44は地文縄文に貼付隆帯の懸垂文をもつ。41～44は加曽利EⅠ新式。45は地文条線に横

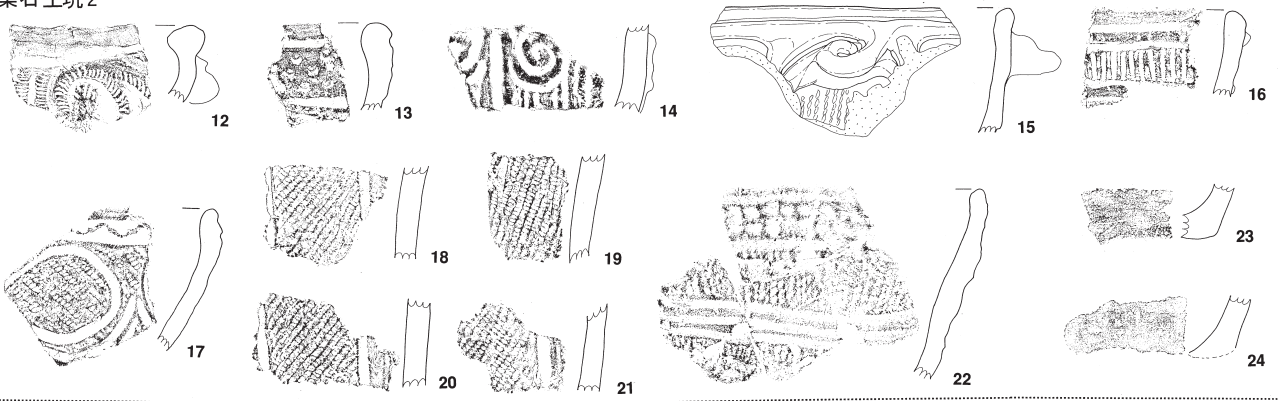
位の隆帯を貼付ける。46は地文条線で2本組み隆帯による懸垂文をもち隆帯は胴中央部で十字を描く。加曽利EⅠ新式に併行する異系統土器。47は筒形深鉢の胴部で隆帯上に爪形の刻目をもつ勝坂式、48は地文縄文に沈線文を施す。49は地文条線に隆帯を貼付け裾に沈線を施す。50は地文縄文に隆帯を貼付ける。51は地文沈線列で、沈線の懸垂文間は幅広く磨消す。52は無文の底部である。53は口縁部で撚糸文を横位に施文する。54は口縁部で沈線の区画内に細縄文を施す。55～57は地文縄文で沈線文・半截竹管状工具の内側を用いた文様をもつ。58は沈線を地文とし太い隆帯に押圧を加える。59は地文条線の胴部である。60は地文縄文に隆帯を、61は口縁部で沈線の区画内に沈線列を入れる。62は深鉢底部で、地文縄文に沈線の直下と蛇行懸垂文をもつ。加曽利EⅠ新式新相。63は地文撚糸文で隆帯の懸垂文を貼付ける。64は胴部で地文縄文、65は底部で二次被熱によるハジケ現象が著しい。土坑出土の遺物は40と47が勝坂式のほか加曽利EⅠ式と併行する異系統土器のみである。

66は地文縄文に沈線文、67は地文縄文に沈線の幅広磨消懸垂文を施す。68は地文条線に沈線の蛇行文を施し、69は無文浅鉢である。70は地文縄文、71は無文である。72は口縁部で沈線の区画を配し、73は頸部無文帯から胴部で、隆帯の区画を配し内に沈線文を施す。74は隆帯を残す浅鉢である。加曽利EⅠ新式中相。75は地文縄文の連弧文土器、76は厚い浅鉢の口縁部、77は刺突文がある。78は地文縄文に沈線の磨消懸垂文をもつ。79は地文縄文に沈線を施す。80は小型深鉢口縁部で条線を地文とする。81は沈線列を地文とする連弧文土器。82～93は沈線列・沈線文を地文とし、口縁部は区画文・渦巻文を配し隆帯を貼付ける土器もある。胎土に白色砂粒と橙色粒子を含み、赤褐色を呈し施文・胎土から同一個体の曽利Ⅳ式である。94は剥離・磨滅が著しい。95～97は口縁上部が無文で、横位の隆帯から直下懸垂文で区画を配し、斜位沈線を綾杉状に施す同一個体で二次被熱によるハジケが著しい。曽利Ⅳ式。98は深鉢底部で無文だが、胎土は95～97に近い。99は地文縄文に隆帯を貼付ける。100は口縁部文様帯の一部で隆帯の区画文を配する。ピット15・16は曽利Ⅳ式。

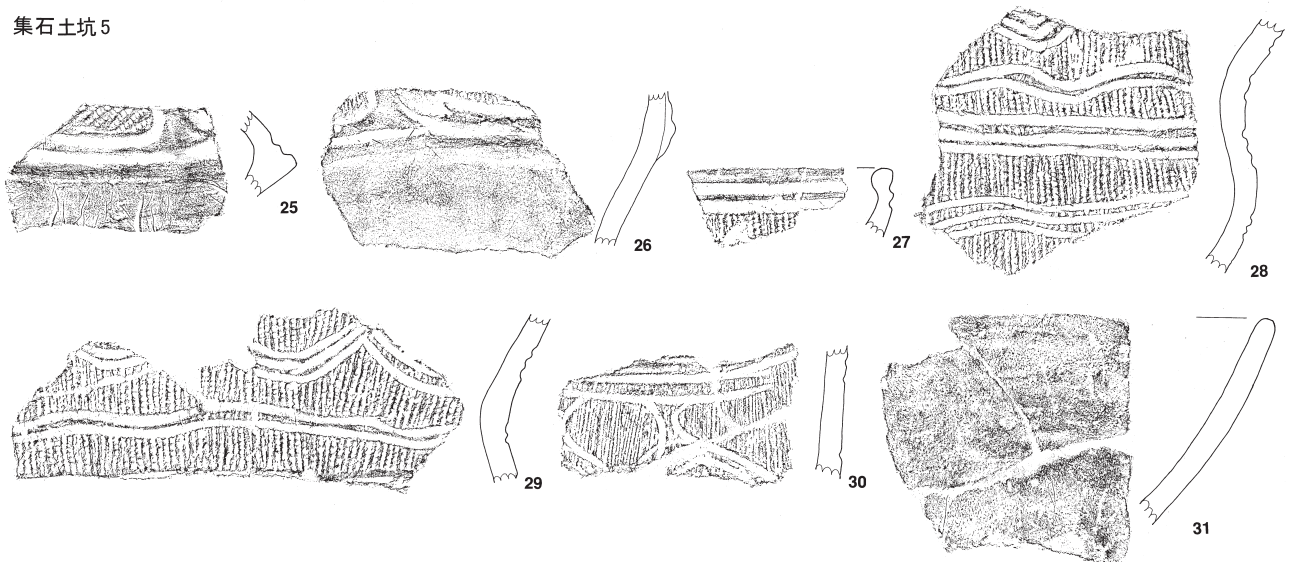
集石 土坑 1



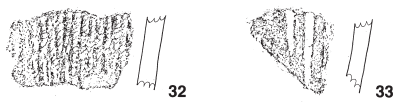
集石 土坑 2



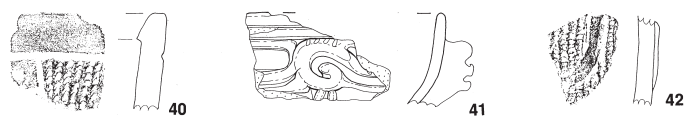
集石 土坑 5



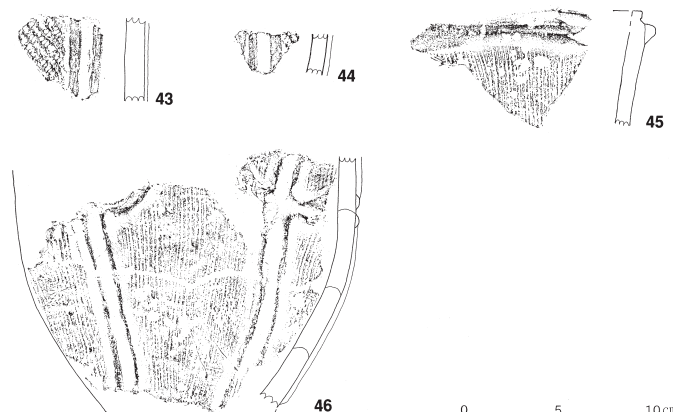
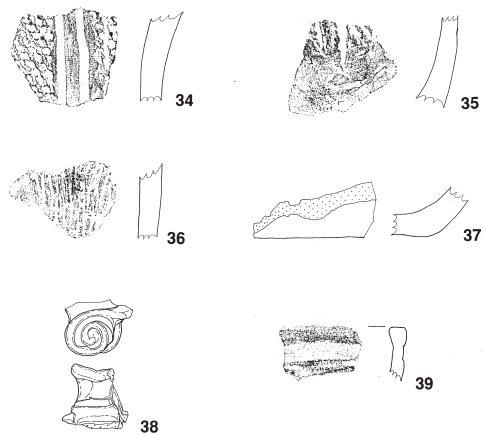
土坑 1



土坑 3



土坑 2



0 5 10 cm

第77図 西ノ原遺跡第128地点集石土坑・土坑出土土器① (1/4)

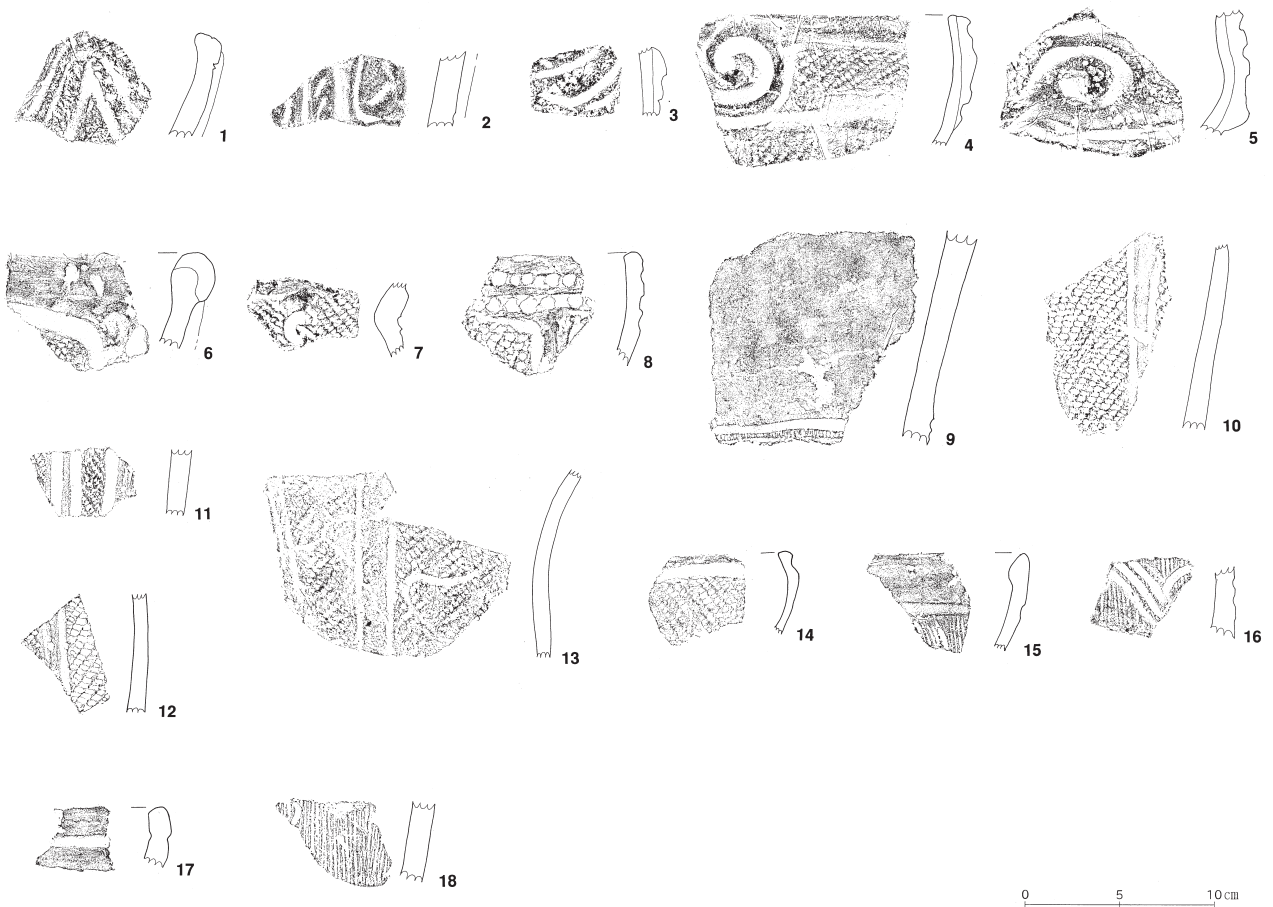


第78図 西ノ原遺跡第128地点土坑・ピット出土土器 (1/4)

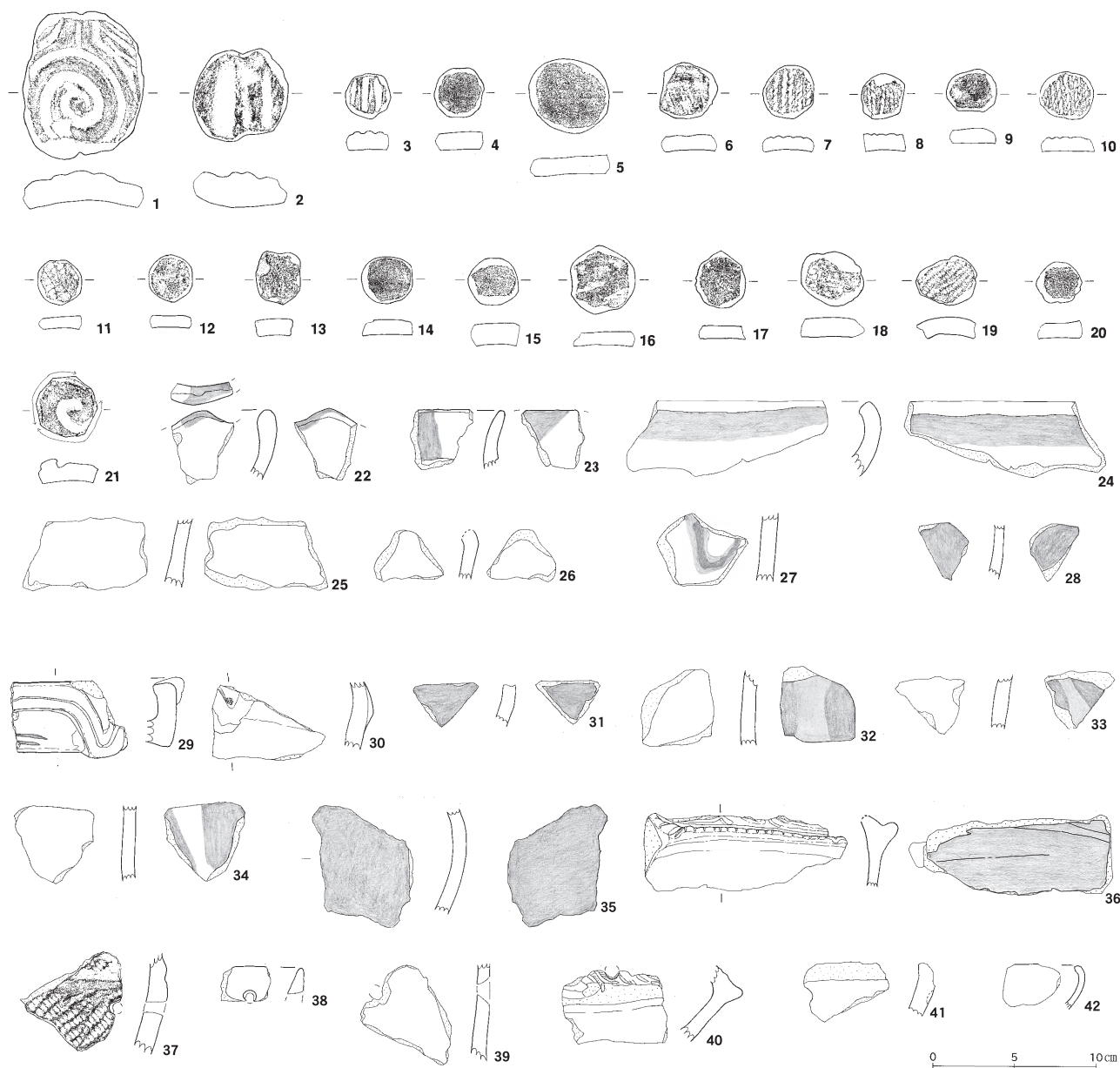
② C-2区遺物集中

遺構外出土遺物で特に集中がみられるのは、C-2・3区、D-2・3区周辺である。同区には土坑やピットなど住居跡以外の遺構も多く存在するため住居の存在も考えられる。しかし住居とする明確な確証もない

ため、今回は遺構外の遺物集中として報告する。隣接する北側の調査などでは特に詳細な調査が必要である。出土する遺物は、縄文時代中期の遺物に限られる。ピット15・16の上層周辺から出土した2点がややまとまっている以外は破片が多い。



第79図 西ノ原遺跡第128地点C-2・3区、D-2・3区遺物出土状況 (1/60)、出土土器 (1/4)



第80図 西ノ原遺跡第128地点出土土製品・塗彩土器 (1/4)

【C-2区遺物集中集中出土土器】

1は口縁部の山形突起で隆帯に刻目と側面に交互刺突を施す。2は隆帯上に斜位の刻目を入れ区画内は沈線文を施す。3も隆帯と沈線を施し1・2と胎土が近く共に勝坂式。4～6は口縁部で地文縄文に隆帯の区画文と渦巻文を配する。8は2列の列点文をもち沈線の区画内に縄文を施す。7は頸部の瘤状突起から下方に沈線の蛇行文を入れる。9は地文条線で横位の沈線に幅広い頸部無文帯である。10～13は地文縄文に磨消懸垂文をもつ。14は地文縄文に口唇直下に沈線をめぐらす碗形土器。15・16・18は地文条線で16は連弧文をもつ。17は口唇部直下に浅い沈線をめぐらす。

②土製品・塗彩土器

土製品・塗彩土器は第35表のとおりである。1・2は土器片を転用した土鍾で擦痕の挟りが上下にみられる。3～21も土器片を転用した土製円板で縁辺に磨き痕がある。22～36は内外面又は何れかに彩色を施す土器である。27は赤彩顔料で「U」字状文を描いた上に黒彩顔料を塗彩するが、黒彩顔料が剥がれたため縁取りしたようにもみえる。37～41は土器に穿孔のあるもの。42は無文のミニチュア碗形土器で無文である。

④石器

1～11は、無茎石鏃である。そのうち7～11は、一部欠損する。12は、楔形石器である。13・15は、スクレイパーで、15は一部欠損する。14・16・17は剥片で、

第35表 西ノ原遺跡第128地点出土土製品・塗彩土器一覧表

単位：g・cm

番号	種別	出土遺構・区	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
			土器の器形・施文・文様等の特徴				
1	土鍾	75号住居跡№132	9.0	7.2	1.8	126.91	擦痕2ヶ所
2	土鍾	175号住居跡№1034	5.6	5.6	2.1	64.34	擦痕2ヶ所
3	土製円板	175号住居跡№Aベルト一括	2.8	2.8	1.1	9.05	口唇に沈線めぐり地文沈線
4	土製円板	174号住居跡 A 区一括	2.9	2.9	1.1	12.86	
5	土製円板	176号住居跡№316	4.5	4.9	1.0	31.45	
6	土製円板	176号住居跡№Aベルト一括	3.4	3.4	0.9	13.99	地文燃糸に隆帯
7	土製円板	176号住居跡 E 区一括	3.1	3.0	0.8	10.25	地文燃糸
8	土製円板	176号住居跡 A ベルト一括	2.7	2.5	1.0	10.33	地文燃糸
9	土製円板	176号住居跡№968	2.5	3.0	0.9	8.98	金雲母含む
10	土製円板	176号住居跡 B 4区一括	2.8	3.2	0.8	11.43	地文燃糸
11	土製円板	179号住居跡 A ベルト一括	2.7	2.7	0.7	6.10	地文縄文
12	土製円板	表土一括	2.8	2.7	0.7	7.23	
13	土製円板	トレンチ2一括	3.1	2.6	1.0	12.32	
14	土製円板	176号住居跡 B 4区一括	2.8	3.1	0.9	10.82	
15	土製円板	175号住居跡 B 区一括	2.8	3.0	1.3	13.80	
16	土製円板	176号住居跡 A ベルト一括	4.0	3.8	0.9	17.33	
17	土製円板	176号住居跡 E 区一括	3.4	2.9	0.8	10.18	
18	土製円板	176号住居跡№343	3.2	3.7	1.1	13.72	
19	土製円板	176号住居跡 A 区一括	3.0	3.6	1.0	11.95	地文縄文
20	土製円板	176号住居跡№541	2.5	2.7	1.0	8.00	
21	土製円板	D-3区一括	3.7	3.5	0.8	19.50	渦巻文
22	浅鉢形土器	175号住居跡№427	口縁部突起・内外面に赤色塗彩				
23	浅鉢形土器	表土一括	無文口縁部で外面に横位沈線有・内面に赤色塗彩				
24	浅鉢形土器	176号住居跡№794・1748	無文浅鉢内・外面に赤色塗彩				
25	浅鉢形土器	表土一括	無文浅鉢内面に赤色塗彩				
26	浅鉢形土器	167号住居跡№7	無文浅鉢内面に赤色塗彩				
27	浅鉢形土器	1トレンチ№101	無文浅鉢外面に「U」字状に赤色塗彩後黒色塗彩				
28	浅鉢形土器	176号住居跡一括	内外面に赤色塗彩				
29	浅鉢形土器	176号住居跡№746	口縁部外面に赤色塗彩、隆帯貼り付け				
30	浅鉢形土器	176号住居跡 B ベルト一括	口縁部外面に赤色塗彩、隆帯貼り付け				
31	浅鉢形土器	176号住居跡 C 区一括	内外面に赤色塗彩				
32	浅鉢形土器	176号住居跡№716	内面に赤色塗彩				
33	浅鉢形土器	176号住居跡 B 区一括	内外面に赤色塗彩				
34	浅鉢形土器	176号住居跡№1660	内面に赤色塗彩				
35	浅鉢形土器	176号住居跡1248	内面に赤色塗彩				
36	浅鉢形土器	176号住居跡№33	刻目隆帯、内面に黒色塗彩				
37	深鉢形土器	トレンチ3 C D 区一括	外面から穿孔				
38	深鉢形土器	トレンチ1一括	焼成前に内外面から穿孔				
39	浅鉢形土器	表土一括	外面から穿孔				
40	浅鉢形土器	表土一括	外面から穿孔				
41	土器	176号住居跡№1113	無文土器片に外面から穿孔				
42	ミニチュア土器	表土一括	碗形ミニチュア土器				

14・17には調整痕がみられる。18～104は打製石斧である。基端部付近に挟りがほとんどみられず、基端部と刃部の差がほとんどないものを短冊型、基端部付近に挟りがみられ、基端部よりも刃部の幅が広いものを撥型とした。18～43・45～48は、短冊型の打製石斧とした。44・49～66は撥型の打製石斧とした。67～104は打製石斧の一部欠損、ないしは残存品である。61は、片側面にのみ挟りがみとめられる。104は刃部のみ残存した大型のものか。105・106は小型磨製石斧、107・108・110は磨製石斧、107は基端部、108は先端部が残存する。109・111・114～117は敲打痕のある磨石、112・113は乳棒状の敲石と考えられる。118は、台石であろ

うが側面に敲打痕が認められる。119～121は凹石、122は石皿・凹石である。123は有溝砥石であろう。明確な溝は片面のみに施されており、裏面にも僅かながら細い溝状の痕跡が認められる。124は台石と考えられ、表面には敲打痕が広範囲で認められる。住居別の石器出土傾向をみると、176号住居からの出土が最も多い。なかでも打製石斧は、他の住居からの出土が多くても5個程度であるのに対し、176号住居からは41個出土しており、全体の約47%を占める。また、石鏃についても11個のうち4個が出土した。計測値、石質については第36表を参照。

(大久保明子)

第36表 西ノ原遺跡第128地点出土石器一覧表

NO	遺 構	種 別	石 質	長さ	幅	厚さ	重量	残存
1	176住Na852	石鏃	黒曜石	1.8	1.6	0.4	0.73	完形
2	176住Na1458	石鏃	黒曜石	1.9	1.3	0.6	0.99	完形
3	176住Na1084	石鏃	黒曜石	1.9	1.5	0.4	0.73	完形
4	178住一括	石鏃	黒曜石	1.9	1.7	0.4	1.05	完形
5	土坑7Na3	石鏃	黒曜石	1.8	1.2	0.2	0.41	完形
6	175住Na2860	石鏃	黒曜石	3.2	1.4	0.3	1.25	完形
7	175住ビット3一括	石鏃	黒曜石	2.4	1.3	0.6	1.31	一部欠
8	4トレンチNa34	石鏃	チャート	2.3	1.3	0.2	0.93	一部欠
9	C-3区一括	石鏃	チャート	2.4	1.4	0.3	0.76	一部欠
10	176住F区一括	石鏃	泥岩質ホルンフェルス	2.5	1.7	3.0	1.36	一部残
11	175住Na2317	石鏃	黒曜石	1.40	1.30	0.20	0.44	一部残
12	175住Na2449	楔形石器	黒曜石	2.6	1.50	1.10	4.25	完形
13	169住C-6区一括	スクレイパー	黒曜石	2.8	1.5	0.5	2.40	完形
14	175住Na1151	剥片	黒曜石	3.3	2.7	1.3	6.91	剥片
15	176住Na1601	スクレイパー	黒曜石	2.3	3.0	1.2	7.00	一部欠
16	175住Na1691	剥片	黒曜石	4.3	2.6	0.7	7.44	剥片
17	175住Na2861	剥片	チャート	2.8	1.8	0.7	3.49	剥片
18	176住Na919	打製石斧	細粒砂岩	9.7	5.0	2.2	115.00	一部欠
19	176住Na1365	打製石斧	黒色細粒砂岩	7.5	4.8	2.0	93.00	完形
20	175住Na10	打製石斧	中～粗粒砂岩	8.8	5.2	2.5	133.00	一部欠
21	172住Na79	打製石斧	中粒砂岩	9.0	5.0	2.1	109.00	完形
22	176・177住一括	打製石斧	頁岩(風化)	9.2	4.1	1.8	69.00	完形
23	176住Na1839	打製石斧	黒色細粒砂岩	9.3	4.4	1.8	98.00	完形
24	176住Na1503	打製石斧	輝緑凝灰岩	8.0	3.6	1.7	55.00	完形
25	集石土坑2Na1	打製石斧	ホルンフェルス	91.0	31.0	12.0	43.08	完形
26	176住Na1677	打製石斧	中粒砂岩	92.0	40.0	14.0	70.83	完形
27	土坑9Na9	打製石斧	中粒砂岩	8.4	2.0	1.4	59.90	完形
28	176住Na192	打製石斧	黒色泥岩	8.1	4.4	1.4	55.00	完形
29	176住Na73	打製石斧	輝緑凝灰岩	8.9	3.9	1.4	75.00	一部欠
30	176住Na1228	打製石斧	珪質細粒砂岩	9.6	4.6	2.3	95.00	完形
31	中央・南表土	打製石斧	泥岩質ホルンフェルス	9.2	4.4	1.9	85.00	完形
32	176・177住一括	打製石斧	中粒砂岩	7.7	4.8	1.5	6.60	完形
33	75住一括	打製石斧	輝緑凝灰岩	9.3	4.4	1.5	74.00	完形
34	176住Na194	打製石斧	粗粒砂岩	9.8	5.1	2.3	131.00	完形
35	1トレンチ75住Na101	打製石斧	中粒砂岩	10.5	4.5	2.3	106.00	完形
36	176住Na262	打製石斧	黒色頁岩	10.8	4.7	2.5	160.00	完形
37	4トレンチA-2区	打製石斧	黒色中粒砂岩	13.3	5.2	2.2	178.00	完形
38	174住Na212	打製石斧	輝緑凝灰岩	11.2	4.7	1.1	82.00	完形
39	172住Na90	打製石斧	中粒砂岩	11.2	4.7	2.6	163.00	完形
40	176住Na1160	打製石斧	輝緑凝灰岩	11.1	4.9	2.2	155.00	完形
41	1トレンチ75住Na24	打製石斧	輝緑岩	9.4	3.6	2.0	88.00	完形
42	6トレンチ167住Na2	打製石斧	粗粒砂岩	11.6	4.4	1.6	83.00	完形
43	表採	打製石斧	輝緑凝灰岩	11.2	4.7	2.9	125.00	完形
44	E-3区Na25	打製石斧	中粒砂岩	11.7	5.3	2.2	137.00	完形
45	171住Na10	打製石斧	中～細粒砂岩	11.6	3.8	3.0	152.00	完形
46	169住Na1	打製石斧	輝緑岩	12.3	3.0	1.8	88.00	完形
47	177住D区一括	打製石斧	泥質結晶片岩	11.9	3.7	1.7	107.00	完形
48	175住Na2727	打製石斧	黒色細粒砂岩	12.4	5.5	2.6	206.00	完形
49	175住Na2477	打製石斧	細粒砂岩	7.8	5.1	1.5	63.00	完形
50	1トレンチNa1	打製石斧	中粒砂岩	83.0	53.0	20.0	80.81	完形
51	1トレンチ75住Na20	打製石斧	珪質細粒砂岩	8.8	5.5	3.1	190.00	完形
52	176住Na1072	打製石斧	粗粒砂岩	8.4	6.3	2.7	182.00	完形
53	177住D区一括	打製石斧	黒色細粒砂岩	6.5	4.2	1.8	62.00	一部欠
54	176住Na70	打製石斧	細粒砂岩	9.8	4.9	2.4	122.00	完形
55	176住Na399	打製石斧	輝緑岩	9.3	4.8	1.2	52.00	完形
56	176住Na1564	打製石斧	黒色細粒砂岩?	10.5	5.2	2.1	92.00	完形
57	2トレンチNa65	打製石斧	細粒砂岩	9.3	3.9	1.6	87.99	完形
58	1トレンチNa189	打製石斧	砂岩	12.0	5.9	2.5	164.00	完形
59	176住Na284	打製石斧	中粒砂岩	11.9	5.2	2.3	124.00	一部欠
60	176住Na973	打製石斧	黒色細粒砂岩	14.8	5.9	5.9	274.00	完形
61	176住Na160	打製石斧	黒色細粒砂岩	14.0	5.0	1.7	109.00	完形
62	172住Na266	打製石斧	中粒砂岩	11.0	5.4	2.7	192.00	完形

単位: cm・g

NO	遺 構	種 別	石 質	長さ	幅	厚さ	重量	残存
63	175住Na18	打製石斧	中粒砂岩(グレイワック砂岩)	9.8	4.2	1.7	80.00	完形
64	177住D区一括	打製石斧	中粒砂岩	9.3	4.6	1.4	69.00	完形
65	176住Bベルト一括	打製石斧	珪質細粒砂岩	10.6	5.6	2.8	162.00	完形
66	177住Na149	打製石斧	中粒砂岩	12.5	6.0	2.9	201.00	完形
67	176住Na1517	打製石斧	黒色細粒砂岩	10.6	4.8	2.1	132.00	一部欠
68	176住Aベルト一括	打製石斧	輝緑凝灰岩	9.5	5.4	2.7	144.00	完形
69	175住Na1431	打製石斧	珪質細粒砂岩	7.6	4.6	1.7	62.00	一部欠
70	172住Na314	打製石斧	細粒砂岩	8.6	4.9	2.1	75.00	一部欠
71	176住Na237	打製石斧	中粒砂岩	7.8	4.7	2.2	98.00	一部欠
72	175住Na830	打製石斧	含礫細粒砂岩	9.5	6.8	2.4	148.00	一部欠
73	1トレンチ75住Na26	打製石斧	輝緑凝灰岩	7.3	4.4	1.6	54.00	一部欠
74	176住Na1247	打製石斧	中～粗粒砂岩	7.2	5.4	2.3	103.00	一部残
75	中央・南表土	打製石斧	中粒砂岩	8.8	5.0	2.1	127.00	一部欠
76	172住Na55	打製石斧	中～粗粒砂岩	8.8	4.9	1.5	84.00	一部欠
77	174住Na76	打製石斧	中粒砂岩	10.1	5.4	2.3	170.00	一部残
78	176・177住一括	打製石斧	泥岩質ホルンフェルス	5.9	3.6	2.0	48.00	一部欠
79	176住Na1146	打製石斧	中粒砂岩(グレイワック型)	6.4	4.7	2.1	76.00	完形
80	176住Na71	打製石斧	黒色細粒砂岩	5.9	3.5	1.2	36.00	一部欠
81	176住居ビット6	打製石斧	珪質シルト岩	9.0	4.5	2.6	108.00	一部欠
82	176住居Na1229	打製石斧	中粒砂岩	8.1	4.1	2.0	106.55	一部欠
83	175住Na2916	打製石斧	珪質細粒砂岩	8.4	5.0	2.9	151.00	一部欠
84	176住Na64	打製石斧	細粒砂岩	7.6	3.7	1.6	50.00	一部欠
85	176住Na606	打製石斧	細粒砂岩	9.7	4.2	1.6	89.00	一部欠
86	176住Na1844	打製石斧	粗粒砂岩	9.4	4.9	1.7	107.00	一部欠
87	174住一括	打製石斧	中粒砂岩	8.9	5.5	1.5	64.00	一部欠
88	176住Cベルト一括	打製石斧	黒色中粒砂岩	7.5	5.0	2.5	93.00	一部残
89	175住Na2471	打製石斧	細粒砂岩	6.9	5.2	1.8	66.00	一部残
90	176住Na1298	打製石斧	灰色中粒砂岩	8.9	4.8	1.4	61.00	完形
91	177住戸一括	打製石斧	黒色細粒砂岩	6.7	4.7	2.0	62.00	一部残
92	175住Na95	打製石斧	粗粒砂岩	8.5	4.6	2.0	67.00	一部残
93	176住Na1786	打製石斧	細粒砂岩	7.2	5.7	1.9	75.00	一部欠
94	175住Na1682	打製石斧	珪質黒色細粒砂岩	6.5	4.6	2.4	69.00	一部残
95	176・177住一括	打製石斧	泥岩質ホルンフェルス	5.9	4.2	1.8	45.00	一部残
96	176住Na1147	打製石斧	細粒砂岩	6.5	5.3	2.6	131.00	一部残
97	176住Na1225	打製石斧	細粒砂岩	6.6	5.0	2.3	109.70	一部残
98	176住Na556	打製石斧	中粒砂岩	6.6	5.3	1.7	79.08	一部残
99	175住Na100	打製石斧	中粒砂岩	8.5	3.6	2.1	82.00	一部欠
100	表採	打製石斧	黒色細粒砂岩	5.9	4.2	1.9	58.00	一部残
101	171住ビット3	打製石斧	ホルンフェルス	4.2	4.0	1.4	32.25	一部残
102	176住Na400	打製石斧	細粒砂岩	3.6	4.6	0.9	24.95	一部残
103	集石土坑1一括	打製石斧	中粒砂岩	6.5	3.8	1.2	30.70	一部残
104	中央・南表土	打製石斧	泥岩質ホルンフェルス	9.6	10.2	4.6	379.00	一部欠
105	170住Na36～42	小型磨製石斧	凝灰岩質中粒砂岩	6.7	3.3	1.4	42.00	完形
106	集石土坑3Na235	小型磨製石斧	細粒砂岩	4.1	1.7	0.8	11.19	完形
107	175住Na1419	磨製石斧	細粒砂岩	4.7	4.1	3.1	75.67	一部残
108	176住Na1765	磨製石斧	粗粒砂岩	9.1	5.4	3.9	276.00	一部残
109	176住Na1805	磨石・敲石	輝緑凝灰岩	107.0	40.0	16.0	118.91	一部残
110	169住Na42	磨製石斧	輝緑凝灰岩	11.0	3.9	2.5	179.54	完形
111	173住Na19	磨石・敲石	輝緑凝灰岩	11.6	3.6	2.6	136.00	完形
112	176住Na277	磨製石斧	珪質細粒砂岩	9.9	5.0	3.4	258.00	一部欠
113	C・D-3区Na40	敲石	輝緑岩	12.8	4.7	3.7	365.00	完形
114	175住Bベルト一括	敲石	雲母片岩	10.8	4.0	1.1	66.50	完形
115	173住一括	磨石・敲石	細～中粒砂岩	10.4	4.5	3.1	172.00	一部欠
116	2トレンチNa78	磨石・敲石	細～中粒砂岩	78.0	54.0	30.0	249.90	一部残
117	176住Na1510	磨石・敲石	中粒砂岩	13.5	7.5	3.8	601.82	一部残
118	集石土坑5Na122	台石?	中粒砂岩	15.5	10.9	5.6	1206.93	一部残
119	表採	凹石	輝緑凝灰岩	7.8	4.9	1.9	95.00	完形
120	176・177住一括	凹石	輝緑凝灰岩	8.4	5.5	1.1	57.00	完形
121	175住Na3044	凹石	安山岩	11.3	7.7	5.1	704.88	一部残
122	6トレンチ170住Na26	石皿・凹石	輝緑凝灰岩	14.7	9.2	2.7	353.00	一部残
123	中央・南表土	有溝砥石	中粒砂岩	9.1	5.1	1.9	88.00	一部欠
124	173住一括	台石	安山岩	21.8	10.8	8.5	3690.00	完形



第81図 西ノ原遺跡第128地点出土石器① (1/4・2/3)



第82図 西ノ原遺跡第128地点出土石器② (1/4)



第83図 西ノ原遺跡第128地点出土石器③ (1/4)



第84図 西ノ原遺跡第128地点出土石器④ (1/4)



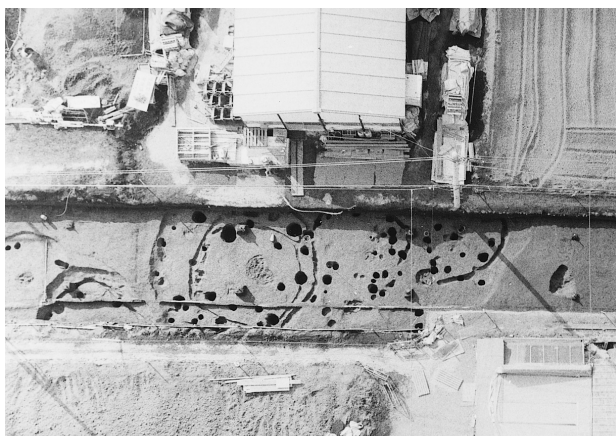
第85図 西ノ原遺跡第128地点出土石器⑤ (1/4・1/6)



西ノ原遺跡第128地点試掘調査風景



西ノ原遺跡第49地点航空写真



西ノ原遺跡第49地点航空写真



西ノ原遺跡第49地点75号住居跡



西ノ原遺跡75号住居跡



西ノ原遺跡75号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡75号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡128地点北側調査区調査風景



西ノ原遺跡第128地点トレンチ1



西ノ原遺跡77号住居跡



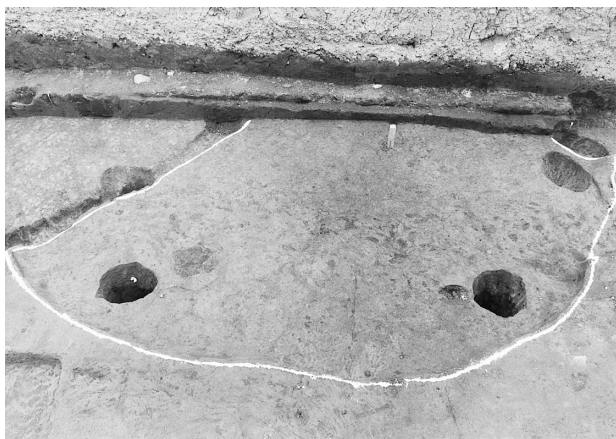
西ノ原遺跡166号住居跡遺物出土状況



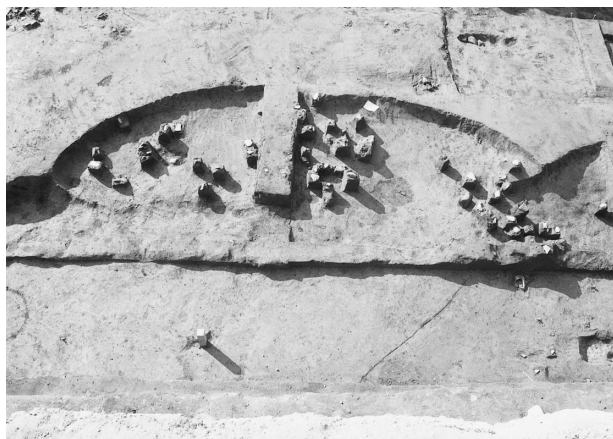
西ノ原遺跡166号住居跡



西ノ原遺跡167号住居跡



西ノ原遺跡167号住居跡



西ノ原遺跡167号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡167・168号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡166～168号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡166～170号住居跡



西ノ原遺跡168号住居跡



西ノ原遺跡169号住居跡



西ノ原遺跡169号住居跡炉



西ノ原遺跡169号住居跡炉



西ノ原遺跡169号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡169号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡170号住居跡



西ノ原遺跡170号住居跡炉・埋甕



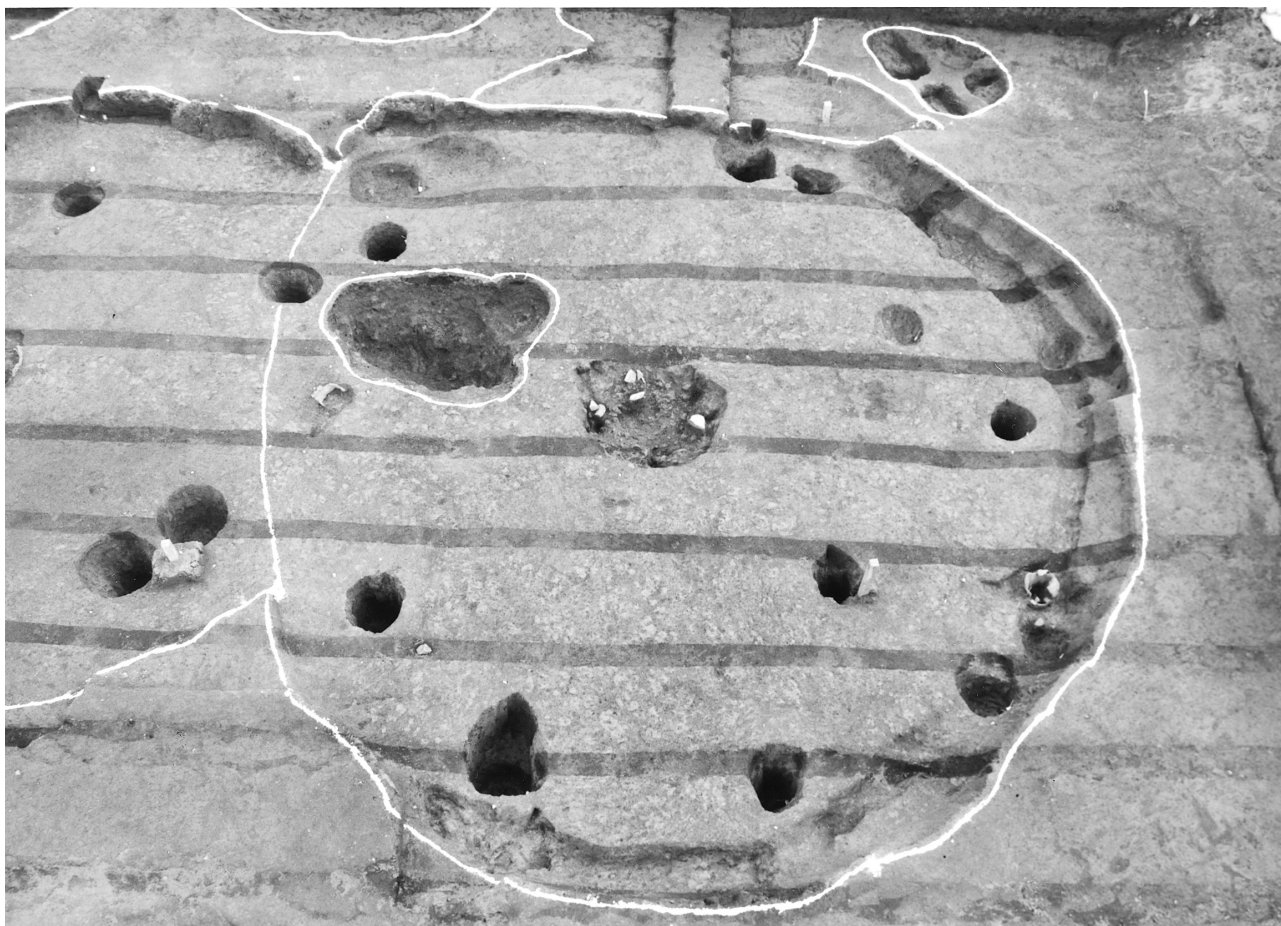
西ノ原遺跡170号住居跡炉・埋甕



西ノ原遺跡170号住居跡炉・埋甕完掘



西ノ原遺跡170号住居跡炉・埋甕完掘



西ノ原遺跡171号住居跡



西ノ原遺跡171号住居跡炉



西ノ原遺跡171号住居跡埋甕



西ノ原遺跡171号住居跡埋甕



西ノ原遺跡171号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡171号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡171号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡172号住居跡



西ノ原遺跡172号住居跡遺物出土状況



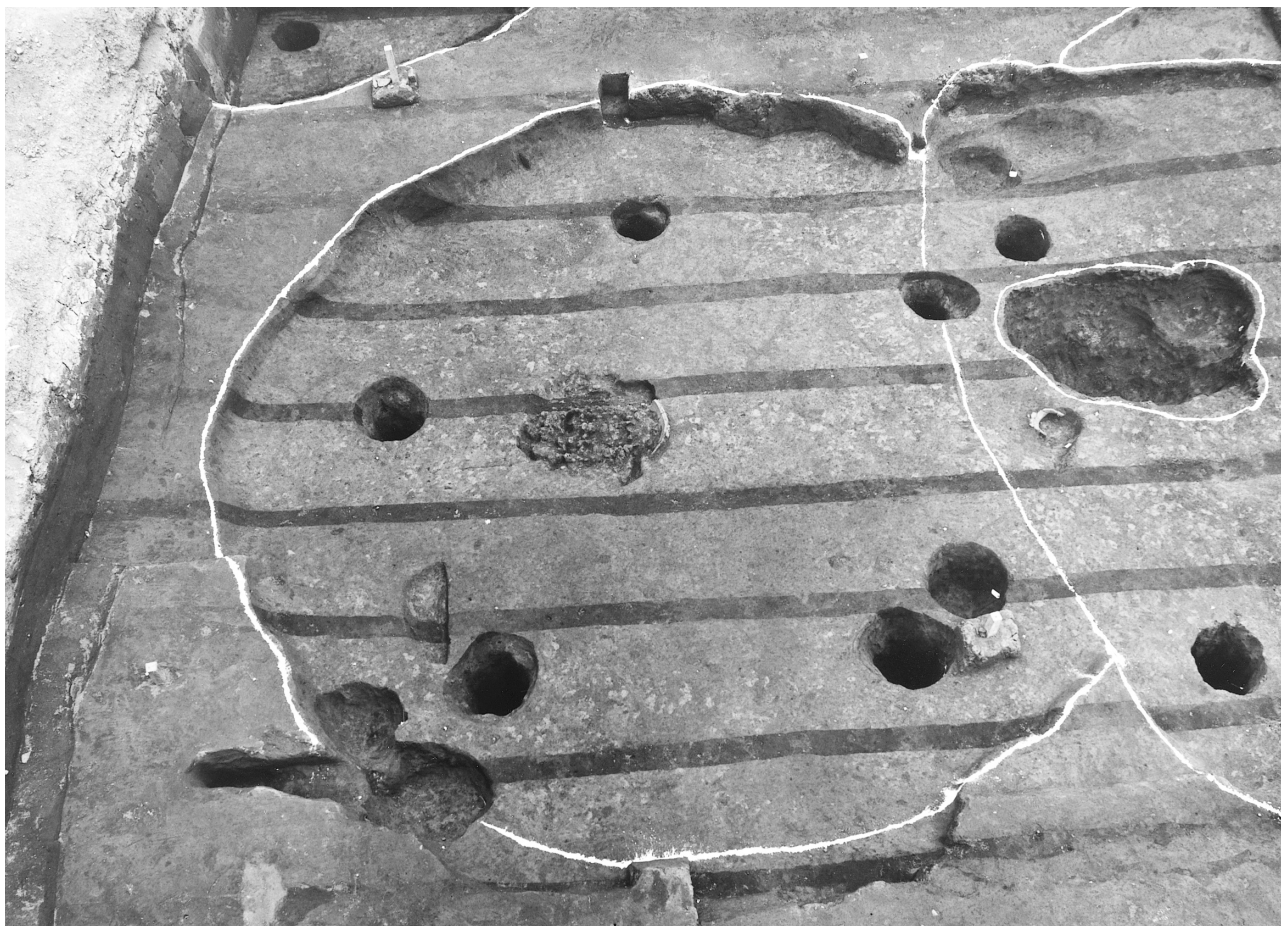
西ノ原遺跡172号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡172号住居跡ピット1



西ノ原遺跡172号住居跡ピット



西ノ原遺跡173号住居跡



西ノ原遺跡173号住居跡炉



西ノ原遺跡173号住居跡埋甕



西ノ原遺跡173号住居跡埋甕



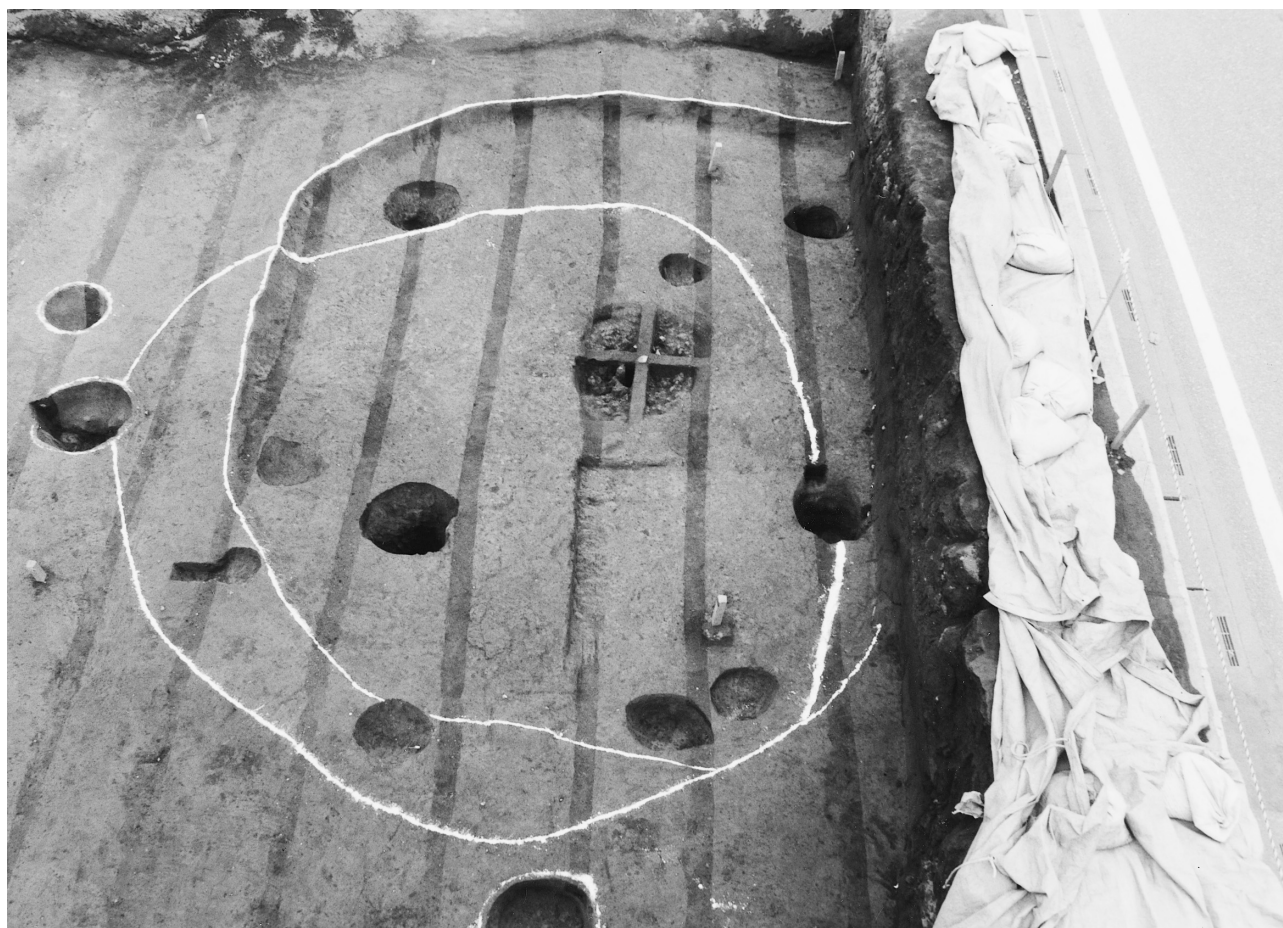
西ノ原遺跡173号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡173号住居跡ピット4・6・7



西ノ原遺跡173号住居跡ピット3（右）



西ノ原遺跡174・179号住居跡



西ノ原遺跡174号住居跡炉



西ノ原遺跡174号住居跡土層



西ノ原遺跡174・179号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡174号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡175号住居跡



西ノ原遺跡175・176・180号住居跡



西ノ原遺跡175・176・177・180号住居跡遺物出土状況



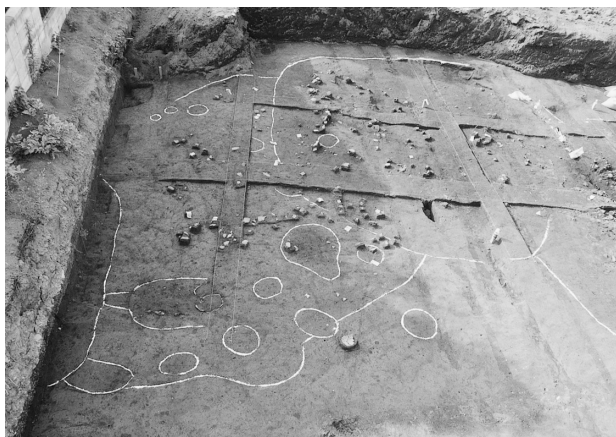
西ノ原遺跡175号住居跡炉



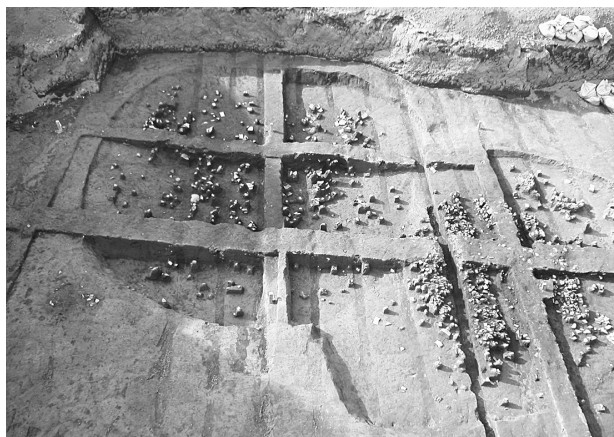
西ノ原遺跡176号住居跡



西ノ原遺跡176号住居跡炉



西ノ原遺跡176・177号住居跡遺物出土状況



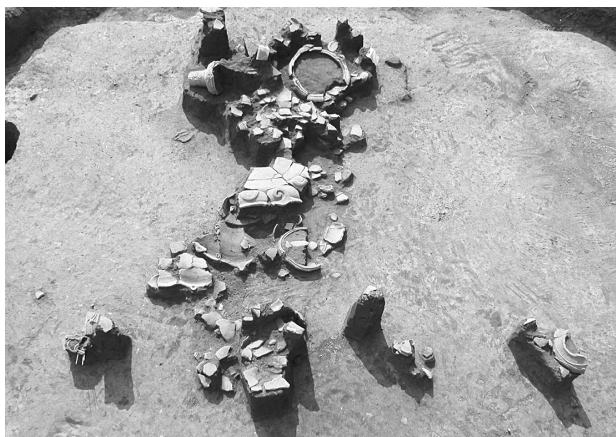
西ノ原遺跡175・176号住居跡遺物出土状況



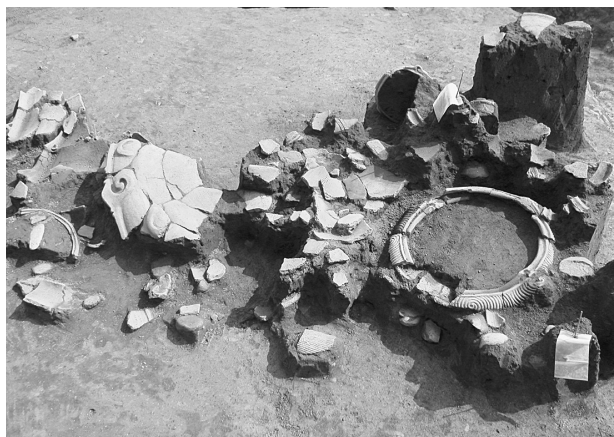
西ノ原遺跡176号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡176号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡176号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡176号住居跡遺物出土状況



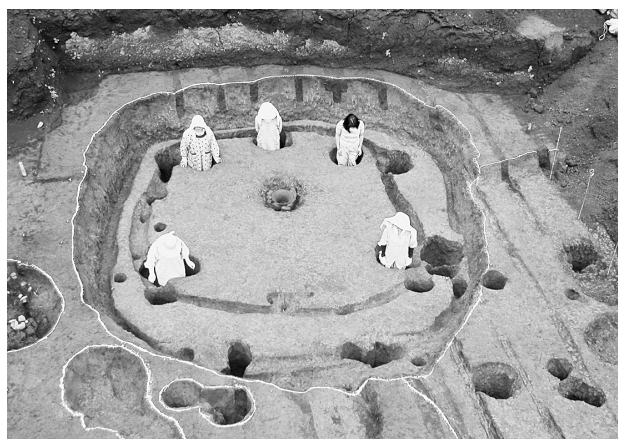
西ノ原遺跡176号住居跡遺物出土状況



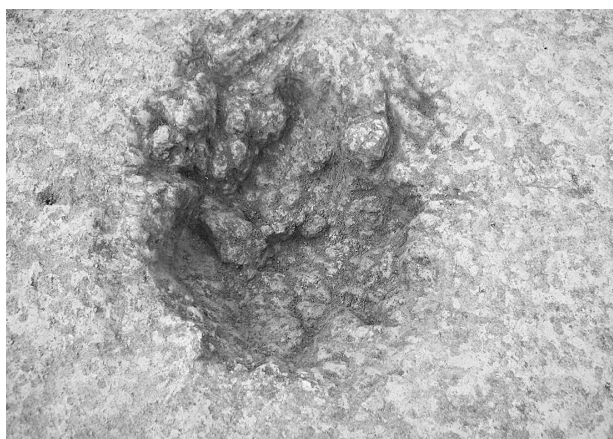
西ノ原遺跡176号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡176号住居跡主柱穴配置



西ノ原遺跡176号住居跡主柱穴配置



176号住居跡炉



西ノ原遺跡176号住居跡ピット8・周溝



西ノ原遺跡176号住居跡周溝



西ノ原遺跡177号住居跡



西ノ原遺跡177号住居跡炉



西ノ原遺跡177号住居跡埋甕



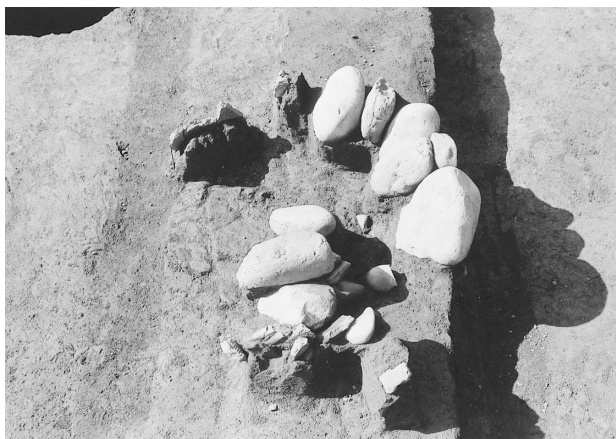
西ノ原遺跡178号住居跡



西ノ原遺跡178号住居跡ピット・周溝



西ノ原遺跡179号住居跡炉



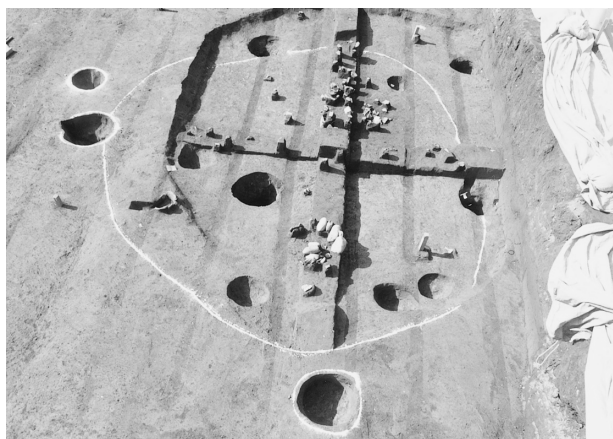
西ノ原遺跡179号住居跡炉



西ノ原遺跡179号住居跡炉硬化面



西ノ原遺跡179号住居跡埋甕



西ノ原遺跡179号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡175・180号住居跡



西ノ原遺跡180号住居跡



西ノ原遺跡180号住居跡炉



西ノ原遺跡180号住居跡炉



西ノ原遺跡180号住居跡遺物出土状況



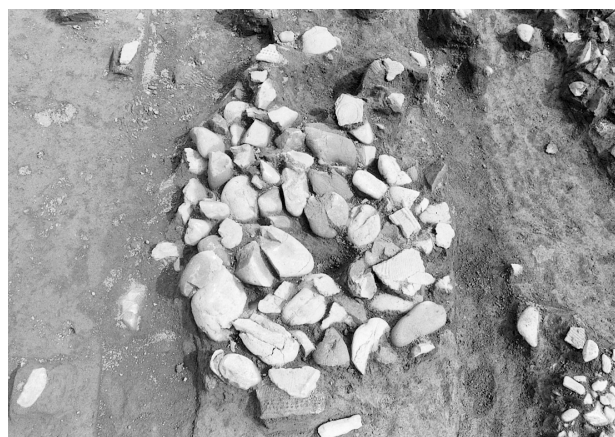
集石土坑 1・2・5・6・7 礫出土状況



集石土坑 1・2・5・6・7 礫出土状況



集石土坑 1・2・5・6・7 礫出土状況



集石土坑 1 礫出土状況



集石土坑・5・6・7 礫出土状況



集石土坑 3 礫出土状況



集石土坑 4 礫出土状況



175号住居床面の集石土坑 6・7 プラン



175号住居・集石土坑土層



175号住居・集石土坑 5 土層



落とし穴



土坑 1



土坑 2



土坑 3



土坑 4



土坑 5



土坑 6



土坑 7



ピット1



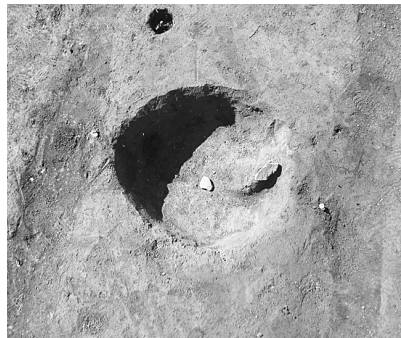
ピット2・12・13



ピット3



ピット4



ピット5



ピット6



ピット7



ピット8



ピット9



ピット10



ピット11



ピット2・12・13



ピット14



ピット15



ピット16



C-2区周辺遺物出土状況



西ノ原遺跡第128地点北側調査区全景



西ノ原遺跡第128地点南側調査区近景



西ノ原遺跡第128地点南側調査区近景

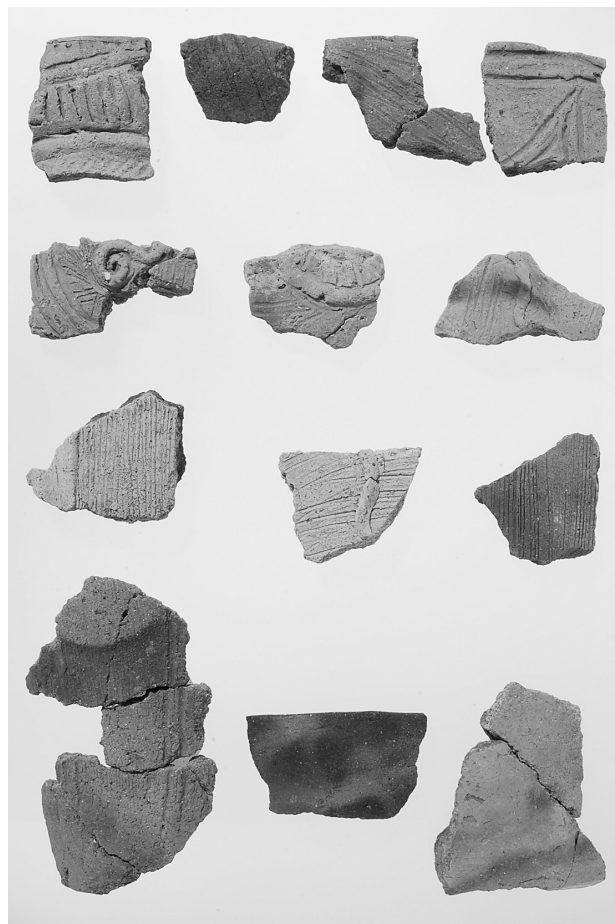
166号住居跡



168号住居跡



166・168号住居跡出土土器



169号住居跡出土土器 1 ~ 13



1 炉体

170号住居跡出土土器 1 炉体



2 埋甕

170号住居跡出土土器 2 埋甕



170号住居跡出土土器 3

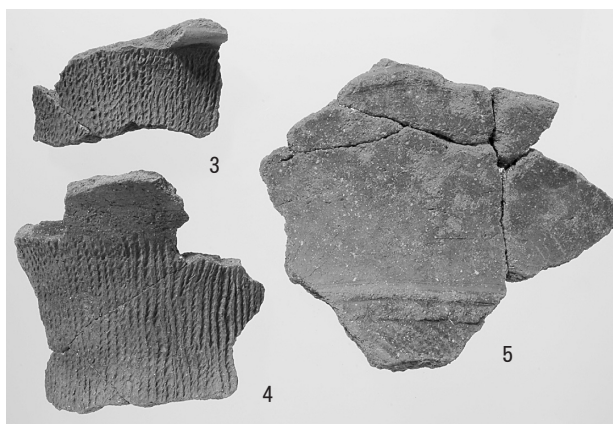


170号住居跡出土土器 4

西ノ原遺跡171号住居跡

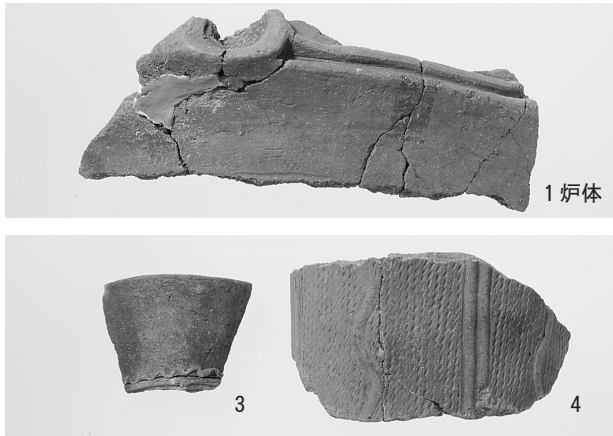


西ノ原遺跡172号住居跡

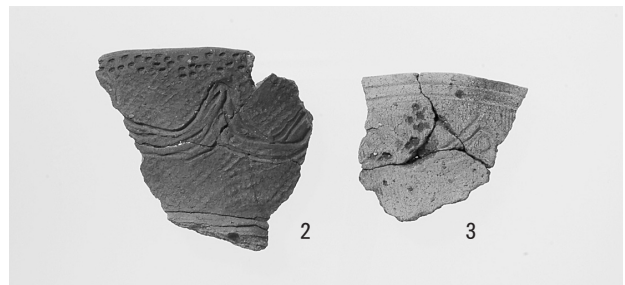


西ノ原遺跡171・172号住居跡出土土器

西ノ原遺跡173号住居跡



西ノ原遺跡174号住居跡

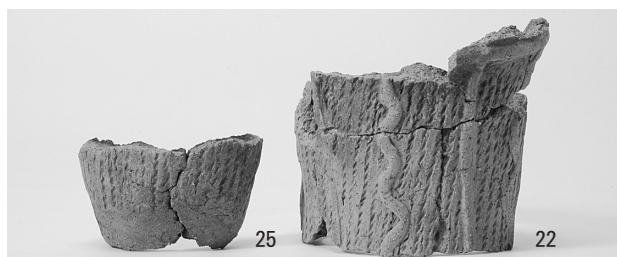


西ノ原遺跡175号住居跡





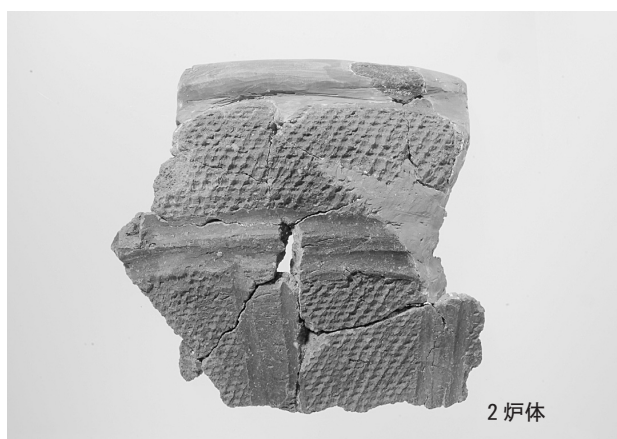
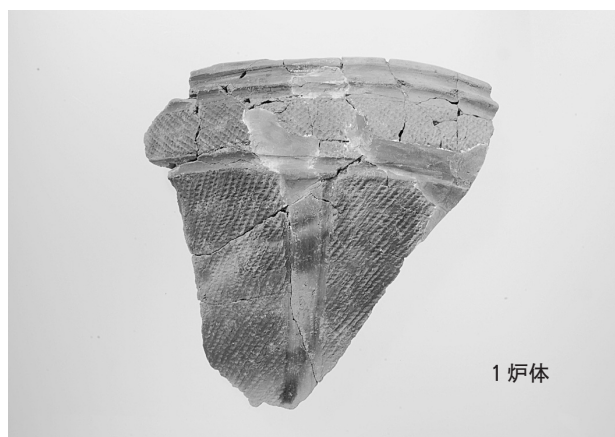




西ノ原遺跡177号住居跡



西ノ原遺跡179号住居跡



西ノ原遺跡180号住居跡



集石土坑 1

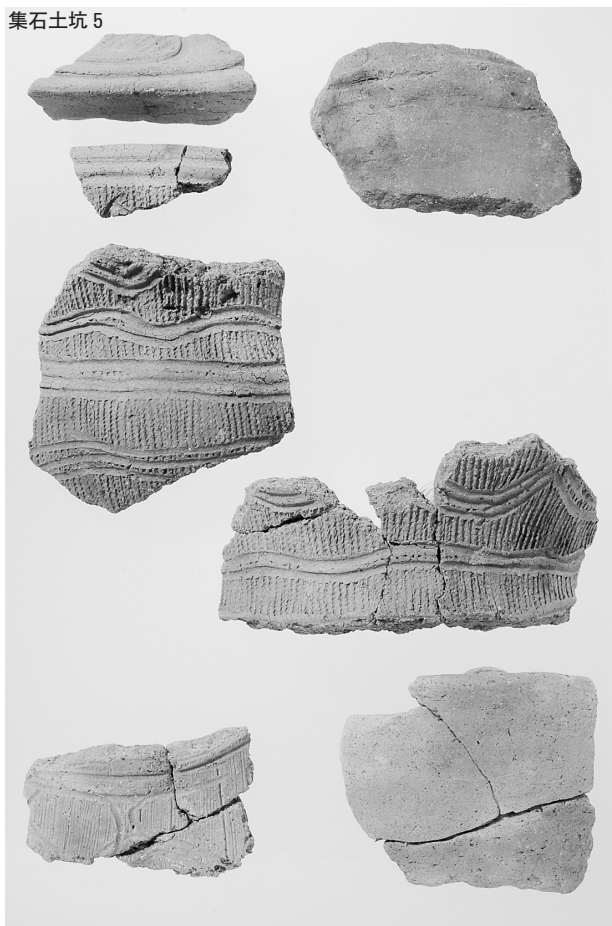


集石土坑 2



西ノ原遺跡第128地点集石土坑 1・2 出土土器 1～24

集石土坑 5



西ノ原遺跡第128地点集石土坑 5 出土土器 25～31

土坑 1



土坑 2



土坑 3



西ノ原遺跡第128地点集石土坑 1～3 出土土器 32～46

土坑 4



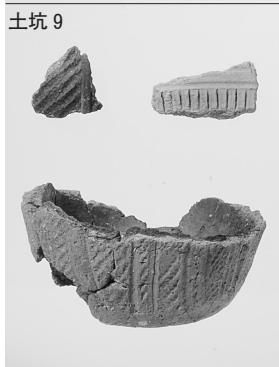
土坑 5



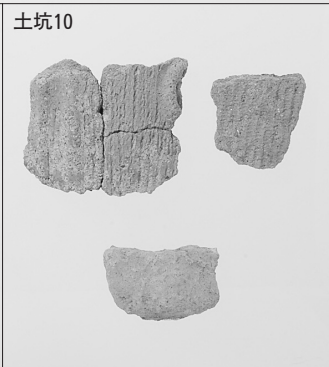
土坑 7



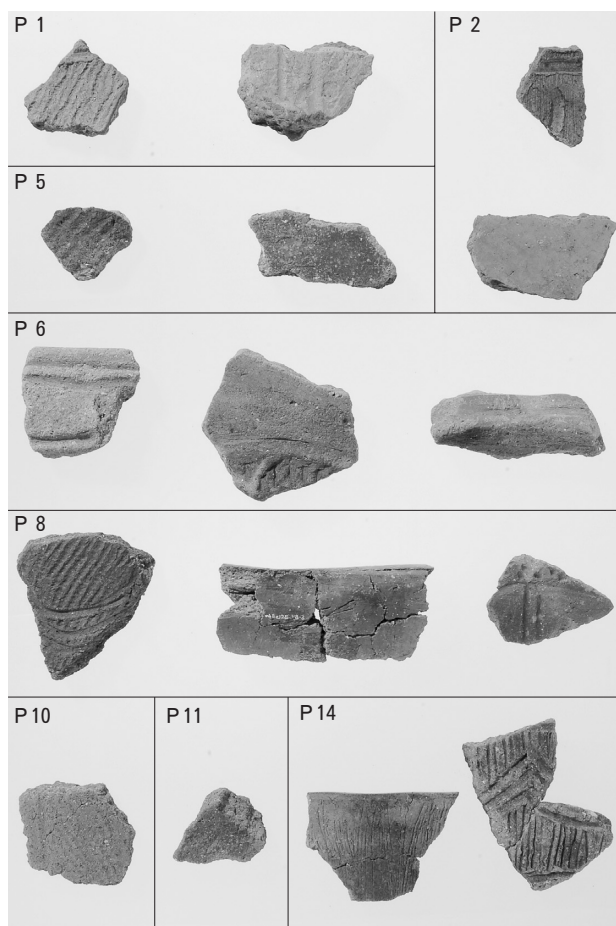
土坑 9



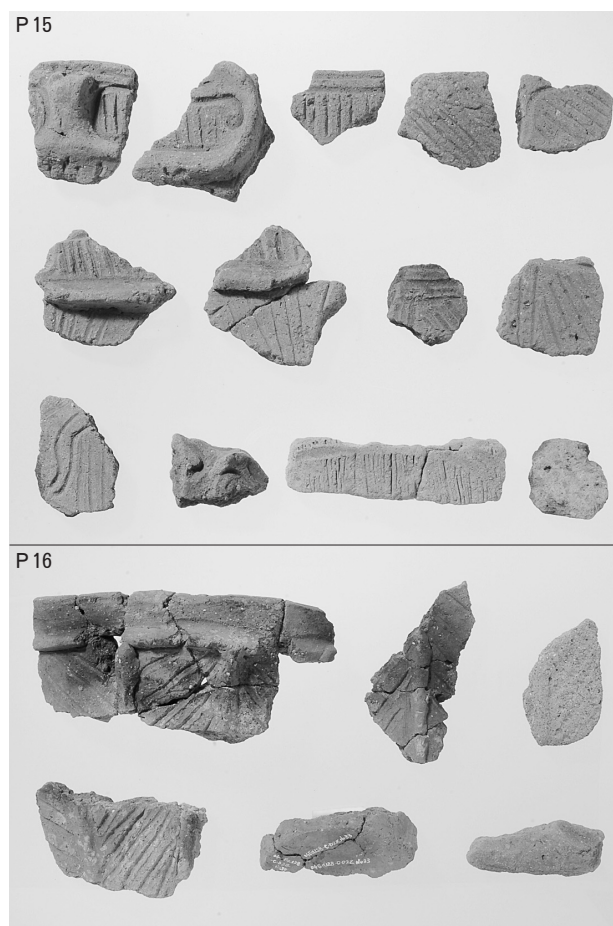
土坑 10



西ノ原遺跡第128地点集石土坑 4～10 出土土器 47～65



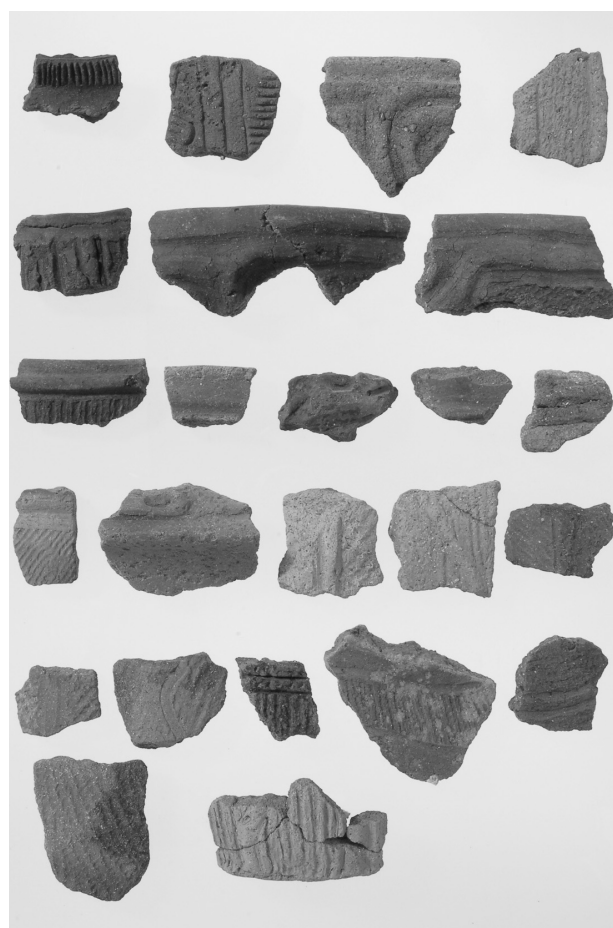
西ノ原遺跡第128地点ピット 1～14出土土器66～81



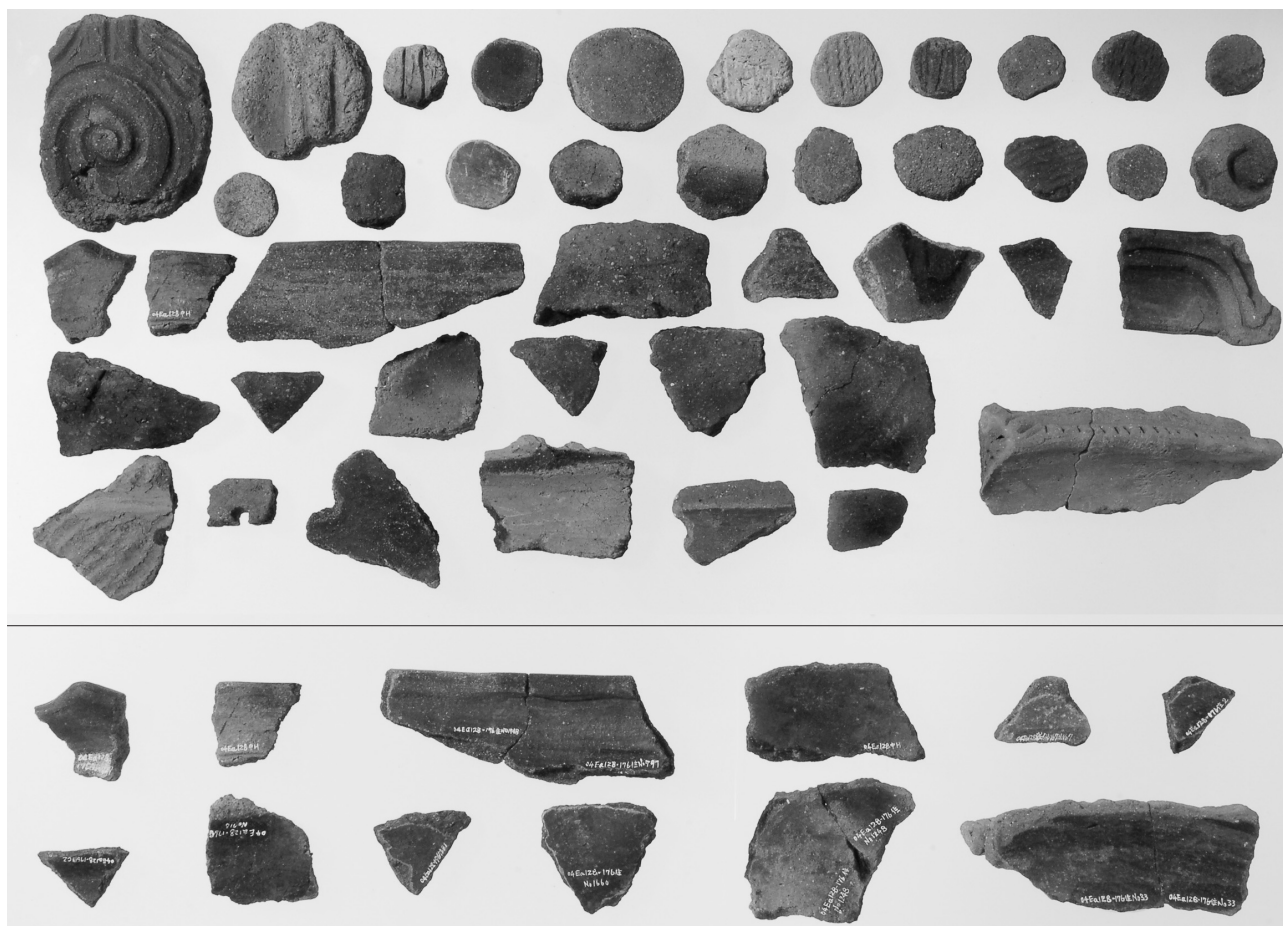
西ノ原遺跡第128地点ピット 15・16出土土器82～100



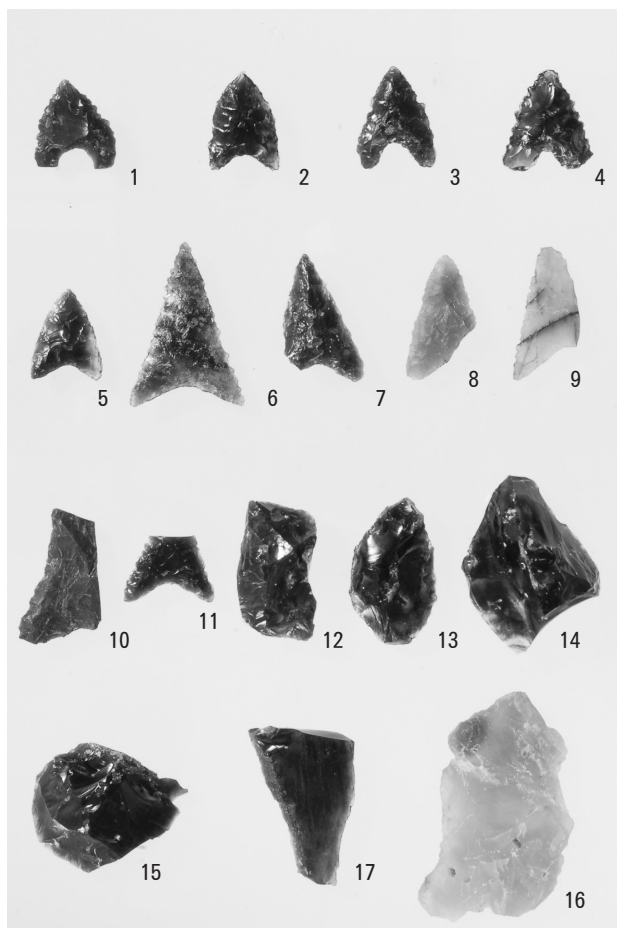
西ノ原遺跡第128地点C-2区出土土器 1～18



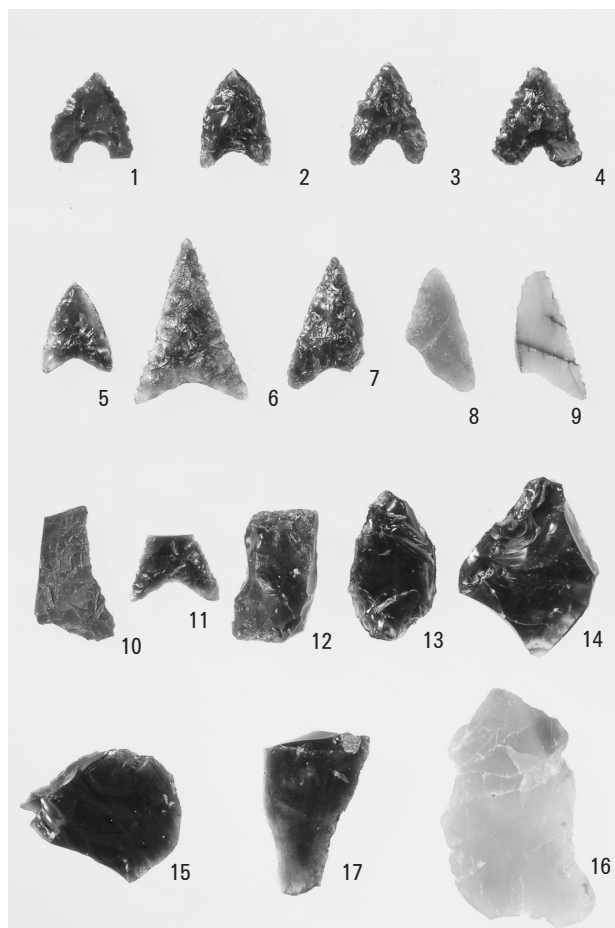
西ノ原遺跡167号住居跡出土土器 1～24



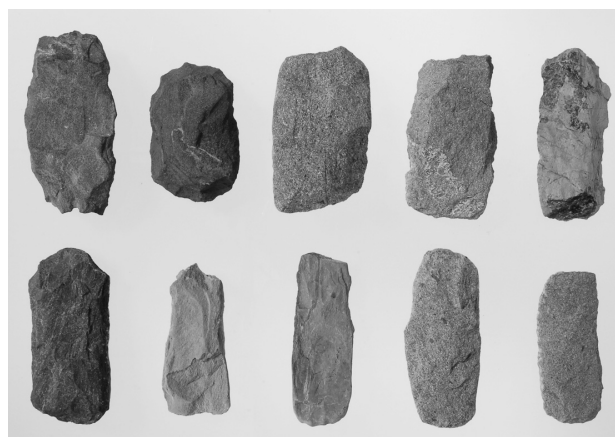
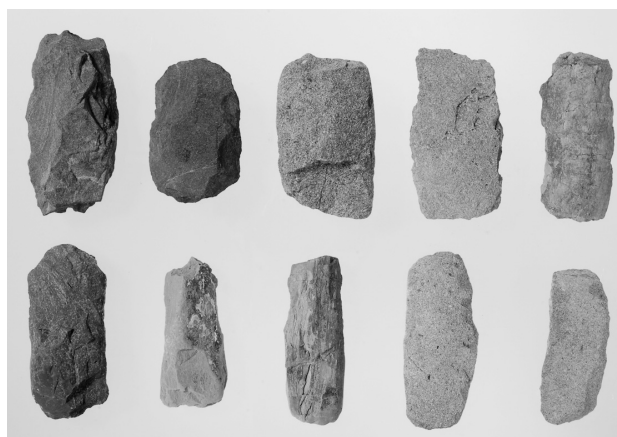
西ノ原遺跡第128地点出土土製品 1～21、塗彩土器22～42（下段：No.22～35土器裏面）



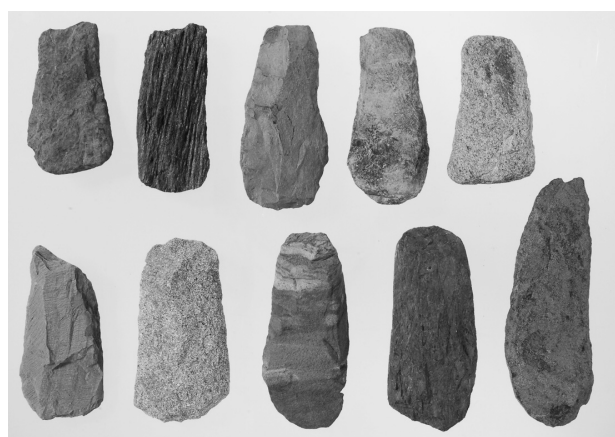
西ノ原遺跡第128地点出土石器 1～17（表面）



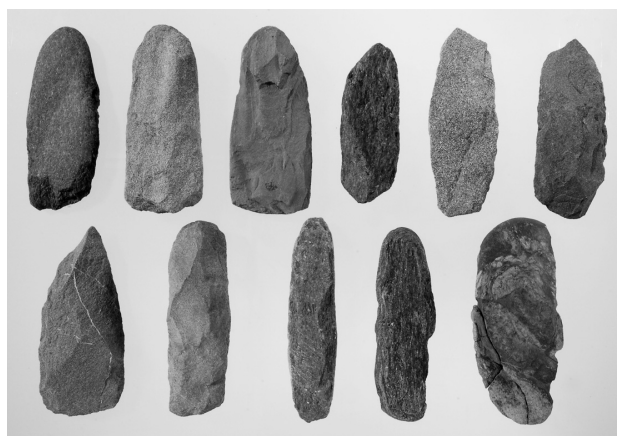
西ノ原遺跡第128地点出土石器 1～17（裏面）



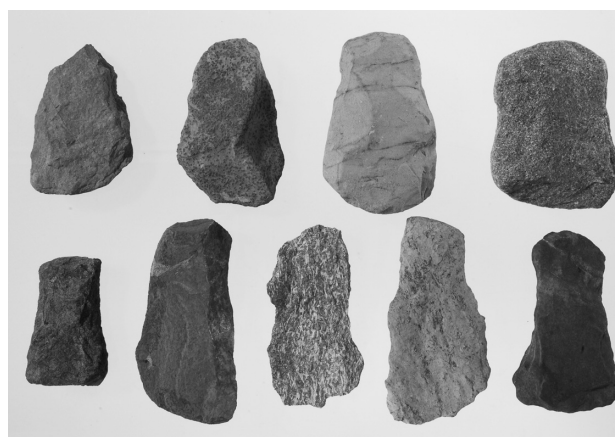
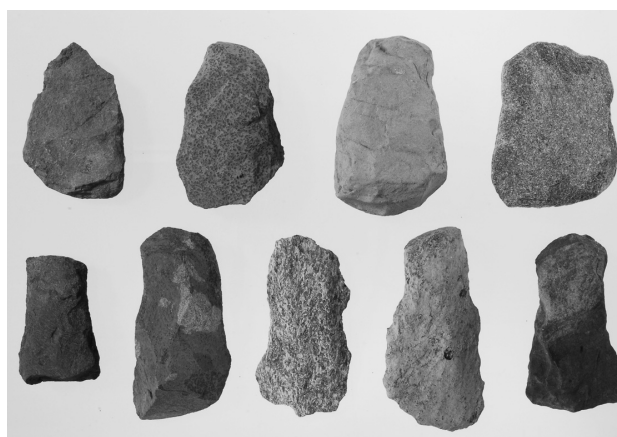
西ノ原遺跡第128地点出土石器18～27（左：表面、右：裏面）



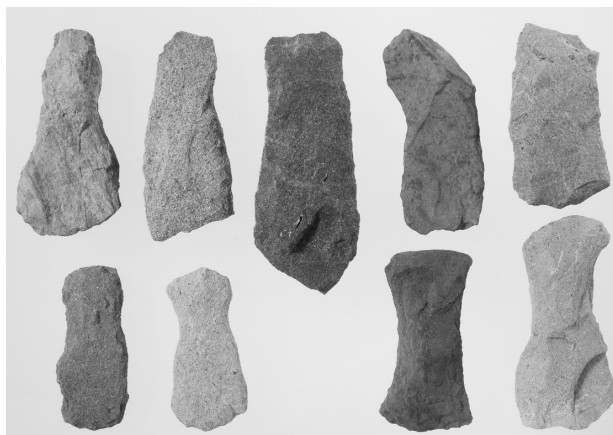
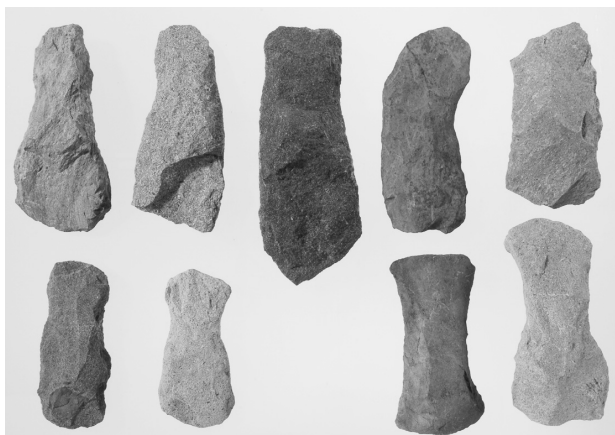
西ノ原遺跡第128地点出土石器28～37（左：表面、右：裏面）



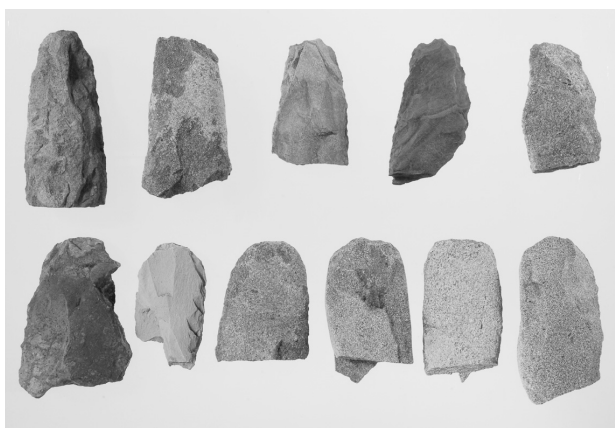
西ノ原遺跡第128地点出土石器38～48（左：表面、右：裏面）



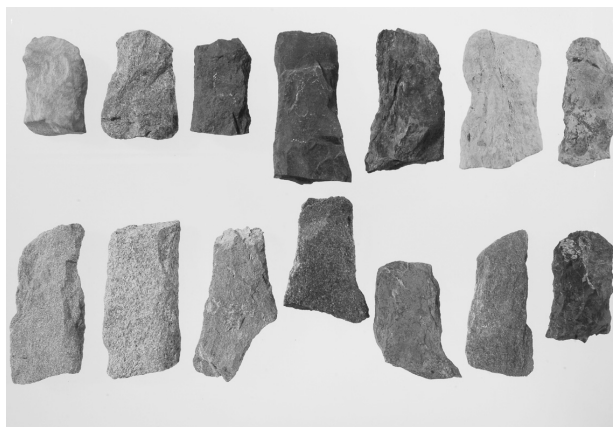
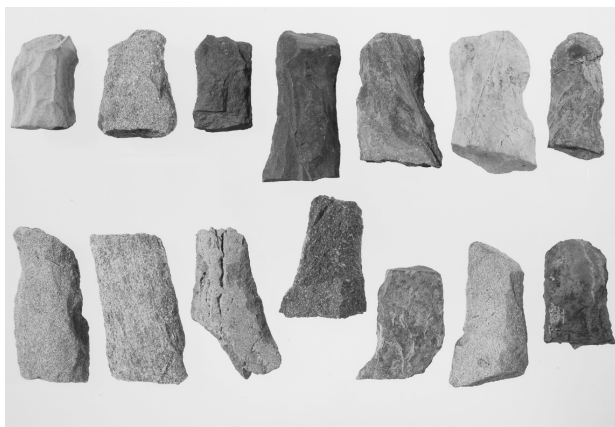
西ノ原遺跡第128地点出土石器49～57（左：表面、右：裏面）



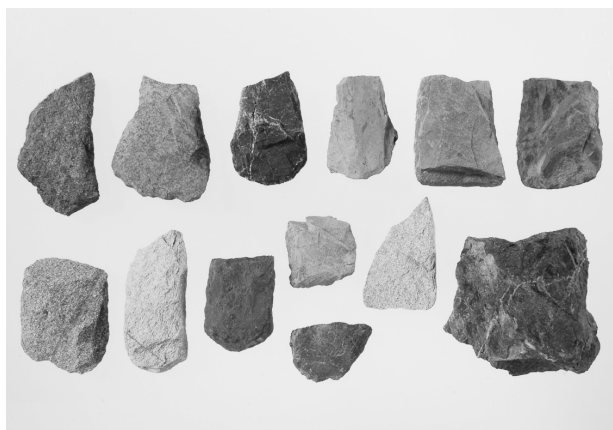
西ノ原遺跡第128地点出土石器58～66（左：表面、右：裏面）



西ノ原遺跡第128地点出土石器67～77（左：表面、右：裏面）



西ノ原遺跡第128地点出土石器78～91（左：表面、右：裏面）



西ノ原遺跡第128地点出土石器92～104（左：表面、右：裏面）



西ノ原遺跡第128地点出土石器105～113（左：表面、右：裏面）



西ノ原遺跡第128地点出土石器114～118（左：表面、右：裏面）



西ノ原遺跡第128地点出土石器119～121・123（左：表面、右：裏面）



西ノ原遺跡第128地点出土石器122～124（左：表面、右：裏面）